宗方小太郎日記，明治 36～38 年

大 里 浩 秋

1. はじめに

本所報 No. 37 に「上海歴史研究所所蔵宗方小太郎資料について」を載せ，そこに宗方の明治 21 年の日記の一部を収録し，No. 40 に明治 22～25 年，No. 41 に 26～29 年，No. 44 に 30～31 年，No. 46 に 32～33 年，No. 47 に 34～35 年の日記を載せた。今号ではその続きとして，明治 36～38 年の宗方の手書きの日記を活字に起こすとともに，解題をつけることにする。

前回までと同じであるが，お断りすべきことをいくつか記す。解読できなかった文字は今回もあり，文中では□で示した。日記中の人名や地名に記載ミスがある場合は，直さずにそのままにした。また，文中ところどころ空白があるのは，人名あるいは時間等で確認してから入れようと思いつつ，そのままになったと思われる箇所である。さらに，原文のカタカナは西洋の人名，地名を除いてひらがなに改め，漢字の旧字体は新字体に改め，適宜句読点を加えたが，日本の人名の漢字は原文のままにした。私の解題中での原文の扱いも同様である。日記の解読と入力作業は，本学中国言語文化修士課程修了（文学修士）の増子直美さんに手伝ってもらった。

2. 明治 36 年 1 月から 12 月までの日記

明治 36（1903）年の日記は，1 年を通した一綴じからなっている。前年 8 月からは日本に滞在しており，新年を郷里熊本で迎えた。34 年から始めた鳥を狙った狩猟は相変わらず続いており，3 月下旬に上海に向かう前に計 14 回も出かけており，その後漢口でも上海でも，時間がとれる限りで猟に出かけていることが分かる。

さて 3 月 28 日に上海に着くと以前同様滬報館に泊り，姚文藻や汪康年と会っているが，4 月 6 日には漢口に着いてドイツ租界にある宿舎に泊りながら，その地に滞在する岡幸七郎や緒方二三らと会い，そこに停泊中の軍艦愛宕の乗組員と顔を合わせたり，以前から交流があった楊子荃や李泉渓らに会っている。そうした動きの中，4 月中旬には東亜同文会から近衛会長が宗方を同会評議員に推挙したとの知らせが入り，引き続き中国各地の支部を廃止するとも伝えてきた。この辺の事情については，東亜同文会の資料に則してさらに確認する必要があるが，宗方にとっては同会における存在価値がかなり高まったことを意味していよう。

その後 5 月 14 日には，海軍軍令部からの電報で北清旅行の許可が下り旅費 500 円が支給されると伝えてきた。それ以前恐らく日本にいるうちに，ロシアとの戦闘に備えて相手軍備の調査が必要との話になっていて，実施の指令が漢口に届いたということであろうが，同月中に上海経由芝罘に向かい，7 月 20 日芝罘から長崎に向かうまでのひと月半を中国東北と朝鮮半島の視察に費やした。「我両人（宗方と伊集院，軍令部次長の伊集院かは不明―大里）海軍軍令部の命に依り鴨緑江沿岸より朝鮮の龍岩浦に至り露国人の動作を偵察」（6 月 5 日）するのが任務であった。その間宗方はロシア軍駐屯地の様子を探る

とともに，そこに駐在する日本人の話を聞き，周辺にすむ朝鮮人の生活ぶりも伝えているのは興味深い。

7月下旬に日本に戻ると，故郷に落ち着く間もなく上京して海軍軍令部に視察の報告をし，東亜同文会にも顔を出し，9月16日には上海に着いている。その後東亜同文書院で会った根津一から同文会東京本部で働くよう勧められたと推量されるが，それを10月2日に根津に会った際にことわっている。同様の提案は翌37年長岡副会長らからも出されているが，その時の日記には「海軍の関係を以て之を辞す」（37年7月21日）と書いている。それをことわったのは東京の仕事だけに拘束されたくないという考えがあったからであろうか。ところで，11月14日以来高熱が出て篠崎医院で診てもらった結果腸チフスであることが判明し，同医院に12月9日まで入院した。院長篠崎都香佐は宗方にとっては，医者と患者の関係というよりは上海滞在中によく行き来する親友のようである。病気が治って，汪康年，姚文藻としばしば会ったあと，19日に帰国の途につき，年末を熊本で過ごした。

ここで，明治36年中に書いた海軍あて報告の号数と日付けを日記から拾い出すと以下のようになる。

4月14日―第131号，4月21日―第132号，第133号，5月5日―第134号，5月16日―第135号，9月30日―第136号，10月16日―第137号，11月13日―第138号，日記では「報告を発す」とのみ記す。

明治三十六年　癸卯　正月至十二月
日誌

正月元日　穏晴。朝儀式を終り親戚，知人を歴訪して正を賀す。帰りて近衛，長岡氏以下の知人に賀状を発す。

正月二日　晴。午前悪寒頭痛，午後癒ゆ。

正月三日　晴。漢口東肥洋行焼失の電に接す。料るに余の行李什物皆烏有に帰せしならん。午前支那店に至り，午後帰る。夜不破昌材，木村友平，柴田常三郎，緒方二三，井口，白石等来り，遊興夜更に及で散ず。明日白石の上海行に托し各知人に致書す。

正月四日　陰。午前竜田山に猟し，転じて保田窪に至り小鳥六羽を獲，五時帰る。

正月五日　半晴。

正月六日　微雪。

正月七日　降霰。保田窪山に猟す。小鳥一羽を獲。元日以来知人の年賀に答へ，又た各地友人と年頭の賀詞を応酬す。

正月八日　半晴，厳霜如雪。午前山田九郎を訪ひ，去て大江に至り中食の饗を受け，転じて阿部野を訪ひ，其内君の死を吊し奠儀を致し，晡時帰宅。

正月九日　雨。漢口岡，古谷，東京岡本の信到る。岡本に復書す。内藤儀十郎氏来訪。

正月十日　雪。本妙寺天狗山に猟す。小鳥十四羽を獲，五時帰る。郭鍾韶，鳥居雪田来訪せりと云ふ。近衛公の年禧の名片到る。本田嘉種，今村平蔵，小山，岡等の信到る。夜阿部野，井口を招き饗す。

正月十一日　陰。午後井芹経平来訪。夜硯台校新築寄附金募集の件に付き三四人と集議す。亀雄の信到る。

正月十二日　晴。東京橘三郎の信到る。漢口岡より失火の詳報到る。上海山田，関，香月，福州林安繁，牛荘荘村及び原，江崎等の信到る。漢口岡，浅井に発信す。

正月十三日　陰。午前五時半山田，内田と樟渓に猟す。僅に小鳥三羽を獲，五時帰る。上海菊池，北京太田，白須直，土屋員安の信到る。

正月十四日　陰，夜雨。緒方，井口来訪。東京井手の信到る。清国各地友人の年賀に答ふ。漢口岡，上海白岩等の信到る。近衛公に発信す。根津に発信。

正月十五日　陰。
正月十六日　晴。宇土山に猟す。夜に入て帰る。鳩三羽，小鳥八羽を獲。中西正樹母堂の訃に接す。夜井口来訪。
正月十七日　陰。午後支那店に至る。
正月十八日　降雪紛々。午後阿部野来訪，晩食後去る。不破昌材来訪。宇土矢島に発信す。井手三郎の信到る。本日東京より帰来せりと云ふ。
正月十九日　晴。東京橘に発信す。近衛公に病気見舞状を発す。緒方，西村某来訪。
正月二十日　晴。春日一番下り汽車にて大原山附近の立岡に猟す。鳩二羽，小鳥九羽，鶉二羽を獲，五時帰る。
正月二十一日　晴。朝より硯台校増築寄附金募集に巡廻す。夜支那人郭，胡の両人を訪ふ。井口来訪。夜片山次彦来訪。
正月二十二日　健晴。根津一の信到る。井口，河口，内田来訪。矢島の信到る。之に復す。夜井芹経平を訪ふ。
正月二十三日　雨。午後井手三郎来訪。井芹，松倉，井手と晩食す。井手留宿。井口来訪。片山次雄来訪。
正月二十四日　晴。午前柳原，阿部野来訪。午前井手辞帰。
正月二十五日　晴。下り一番にて井口，河口，内田，山本等と綱津地方に猟す。山鳩一羽，小鳥二羽を獲，五時帰る。雨。
正月二十六日　微雨。夜柳原夫婦来訪。軍令部細谷大佐より電報にて余の出発時日を照会し来る。二月末を以て答ふ。
正月二十七日　雨。山根，杉浦重剛，小田切勇，青木喬，澤村繁太郎，工藤常，内田英治，逸見晋，野村光蔵，井手友喜等の年賀状到る。米原繁蔵に発信す。渡邉軍医来訪。
正月二十八日　陰。軍令部細谷資氏に発信す。午後阿部野を訪ひ，去て支那店に至り緒方，藤森等に会し，転じて松倉善家を訪ひ，五時帰る。雨。
正月二十九日　陰。上海井手友喜，蘇州姚文藻に発信す。夜井口忠，河口，山田直熊，阿部野利恭来訪。細川隆春来訪。
正月三十日　晴。下り一番三角行の汽車にて井口，山田，河口と綱内駅に下車し「シメリカミ」の坂路を越へ，郡ノ浦の山田に猟す。鳩三羽を獲，午後六時五分の汽車にて帰る。夜緒方二三来訪。
正月三十一日　雨。漢口岡より金四十元を送り来る。東京橘三郎の信到る。午後郵便局に至り岡よりの送金を受取。午後中島美喜雄，井口忠来訪。
二月一日　晴。海軍々令部より二，三，四，三ヶ月分の手当金四百円を送り来る。津野一雄を訪ふ。北京中島雄の信到る。井手，田鍋に発信す。軍令部加藤副官に手当金領収証を郵致す。津野一雄を招き晩食す。
二月二日　晴。東京古川権九郎の信到る。阿部野来訪。夜井口忠，山田直熊来訪。是日午後阿部野を訪ひ，共に出て支那店に至り藤森を訪ひ，四時帰る。矢島篤宣来訪。矢島に致書す。
二月三日　晴。立岡，阿高方面に猟す。小鳥八羽を獲，六時帰る。不在中松倉，阿部野，緒方等来訪せりと云ふ。
二月四日　雨。井手，葉室の信到る。橘三郎来訪。夜井口，橘来訪。是日肥後銀行に至り海軍よりの送金を受取り，支那店に至り小談，帰る。
二月五日　晴。稲垣伸太郎来訪。渡邉軍医，矢島篤宣来訪。
二月六日　晴。橘三郎来訪。米原繁蔵，末永一三の信到る。午後橘を訪ひ，去て松倉を敲き，五時帰る。夜山田直熊を訪ふ。

二月七日　陰。山田と上島附近に猟す。小鳥十五羽を獲，五時帰る。雨。
二月八日　陰晴無定。宇土矢島の信到る。夜山田直熊，河口介男来訪。
二月九日　晴。一番にて宇土駅に至り，矢島列を誘ひ会猟す。僅に小鳥三羽を獲，六時半の汽車にて帰る。
二月十日　雨。中村六蔵，松倉善家を招き晩餐す。
二月十一日　微雨。紀元節。午前橘三郎来訪。晌午中村，緒方来訪。橘の清国行に托し，漢口岡に致書，並に銃猟用品数種を送る。夜河口を訪ふ。井口来訪。
二月十二日　雨。
二月十三日　陰。上海島田数雄の信到る。午後山田を訪ふ。夜山田来訪。
二月十四日　晴。東京細谷大佐に発信す。
二月十五日　晴。宇土山に猟し小鳥九羽を獲。夜井口来訪。
二月十六日　陰。稲垣新太郎，小川平吉，藪田信吉の信到る。池邉吉太郎，緒方二三の信到る。夜松倉，井芹，河口来訪。
二月十七日　晴。午前松倉を訪ひ，中食後高麗門の市を観，五時帰る。池邉吉太郎に復書す。
二月十八日　春寒抖峭。六時山田，井口と白川堤に沿ひ中島村井手宅に至り，中食後白水の右岸を猟し，帰途春日に松倉善家を訪ひ，上車帰宅。小鳥十二羽を獲。雪。
二月十九日　陰。津野一雄の招邀に赴く。同座は九品介善，上野寅彦，外一人たり。
二月二十日　晴。午前勝木，井口来訪。夜津野，上野来談。松倉の信到る。
二月二十一日　微雪，寒気頗烈。
二月二十二日　晴。井口と一番上りより植木に下車し，轟，木留，吉次，植木附近に猟し，小鳥九羽を獲て帰る。夜永原，津野，井口，河口来訪。
二月二十三日　晴。廣瀬貞治，中嶋美喜雄，沈文藻，深水十八，牛島吉郎の信到る。晌午より家を携へ水前寺に遊び，中食後帰る。渡邉軍医来訪。
二月二十四日　晴。柳原来訪。鎌倉田鍋安之助の信到る。上田小三郎来訪。井手三郎，深水十八に発信す。勝木恒喜，山田直熊来訪。
二月二十五日　雨。山田九郎，河口介男来訪。勝木の為に正金銀行高道竹雄に発信す。東京池邉吉太郎の信到る。
二月二十六日　晴。中村六蔵来訪。岳父君と京町に至り鰻飯を吃す。東京池邉に覆書す。東京松倉善家の信到る。
二月二十七日　晴。晌午春日に至り乗車，宇土に下車し一里奥村家を訪ひ，午後城山の先塋に展し，去て法華寺に詣で，帰途矢島，篠原宅を一訪して帰る。
二月二十八日　積陰。是日先考の七周年忌たり。親族を会し法事を営む。晩に至りて終はる。東京細谷に致書す。漢口岡並に井手の信到る。夜小笠原豊次郎来訪。
三月一日　雨。日曜日。東京緒方二三の信到る。井口来訪。
三月二日　晴。午前五時山田と共に植木に至り岩野，鹿子木地方を猟し，下午六時帰る。小鳥七羽，鶉一羽を獲。夜河口来談。
三月三日　晴。渡邉軍医来訪。東京松倉に復書す。午後広町の花樹市を見，盆栽松樹二鉢を買ひ帰る。井口来訪。夜山田直熊，不破昌材，河口来訪。大阪緒方二三の信到る。
三月四日　雨。松倉親敬，白石卯一前後来訪。夜井口来訪。
三月五日　晴。東京高道竹雄の信到る。川野廉の信到る。夜大江の招邀に赴く。
三月六日　晴。早朝津野一雄を訪ふ。午前支那店に至り，緒方，井口等に会し，中食後帰宅。留守中井手三郎，千田一十郎，川野廉，勝木恒喜等来訪せりと云ふ。

三月七日　晴。宇土川野に復書す。午前六時国分村に出猟。小鳥八羽を獲，十時帰る。夜井口を訪ひ漢口岡に致すの書を托す。緒方明日より渡清するを以て也。津野宅を敲き永原等と会談。

三月八日　積陰。朝一番より井口と宇土に下車。塚原山より長崎村附近に猟す。細雨如絲，暫くも已まず。鳩三羽を獲，五時松橋発の汽車にて帰る。津野一雄，川野廉，柳原又熊等来訪せりと云ふ。松倉善家の信到る。

三月九日　雨。井口来訪。井手，川野に致書す。夜山田直熊，河口介男を招き会食す。

三月十日　晴。午後家族を伴ひ拝聖庵に遊ぶ。春色如海，野趣人に可なり。晡時帰る。

三月十一日　晴。井口，上田小三郎来訪。午後雨。

三月十二日　晴。午前五時半，山田直熊と上熊本駅に於て下り一番車に搭じ松橋に下車し，長崎，湊山方面に猟し，鳩二羽，小鳥四羽を獲，五時の汽車にて帰る。井手三郎の信到る。夜八木田，不破，内田，河口来訪。

三月十三日　陰。朝井口来訪。午後河内山県属来訪。徳久知事より明晩招邀の事を伝ふ。夜津野，井口を訪ふ。独逸鳥居赫雄の信到る。

三月十四日　雨。徳久知事の招饗に赴く。同座は村上一郎，高岡玄吉，川村九淵，井口等なり。九時辞帰。

三月十五日　雨。午前十時半上熊本駅に至り，井手三郎の渡清を送る。

三月十六日　雨。柳原，井口来訪。

三月十七日　陰。午前熊本駅に至り上車，宇土に至る。帰途矢島，川野を訪ふ。川野宅にて晩食の饗を受け，七時半の汽車にて帰る。

三月十八日　晴。傅汝勤来訪。夜大江を訪ふ。

三月十九日　雨。白石，藤本等来訪。台湾亀雄の信到る。川野廉来訪，之を留て晩餐を共にす。井芹，永原，津野等来訪。

三月二十日　雨。午前知人を歴訪し別を叙す。岳父来訪せらる。夜不破昌材来訪。

三月二十一日　晴。井口，齋藤久熊来訪。午後山田珠一来訪。米原繁蔵に致書，渡清を報ず。津野，齋藤来問。夜山田直熊，河口，柳原，上野来訪。行李を整頓す。

三月二十二日　快晴。春季孝霊祭。日曜日。予是日家を辞し，禹域に向はんとす。午前六時半家門を出で上熊本駅に至り，七時八分の長崎行汽車に上る。井芹，河口，内田，藤本，井口，津野，小山等来て行を送る。午後四時長崎着，本博多町の土佐屋に投ず。吉永生来訪。是日一天朗霽，沿道の山野百花争発，春色如海，行人をして画裡に在るの思有らしむ。熊本留守宅に発信す。

三月二十三日　雨。今朝入港の西京丸，硫黄島附近にて船体に損処を生じ修繕を要するを以て本日出港する能はず。或は代船の来着を待たざる可からず。夜熊本留守宅に発信し発程延引の事を報ず。

三月二十四日　雨意。午後東洋日出新聞社角荘三来訪。昨来客窓無事，悶甚し。西京丸の代船として薩摩丸明後二十六日午後出帆の事となれり。

三月二十五日　晴。午前菊池を福島やに訪ふ，未だ佐賀より帰らず。海岸を散歩して帰る。熊本留守宅，土屋員安，本田嘉種に発信す。午後菊池謙二郎来訪。夜阿蘇惟教来訪。八時半出て菊池を福島屋に訪ひ，談話時を移て帰る。

三月二十六日　陰天。熊本留守宅の信二封来る。直に之に復書す。吉川季次郎来訪。阿蘇惟教，堀内某来訪。午後三時土佐屋を出で薩摩丸に上る。阿蘇，堀内来送。菊池，銭恂同船たり。五時十五分開船。

三月二十七日　晴。海上。

三月二十八日　積陰。午後三時呉淞口に達し，四時半上海に入る。滬報館に投ず。狩野，篠崎，橘来訪。

三月二十九日　微雨。午後井手と馬車に乗じ，篠崎，狩野，白岩を歴訪し，帰途橘を豊陽館に訪ひ，井手，狩野等と晩食し，去て狩野の処に小談，帰寓。外出中井原，岡野等来訪。熊本留守宅に発信す。

三月三十日　陰。海軍々令部に着報を発し，別に漢口岡，熊本別府に致書す。午前橘三郎の帰国を薩摩丸に送り，帰途郵便局に至り漢口の送金七十二元八角を受取り帰る。白岩，佐原，上田等来訪。夜篠崎の招邀に赴き，十時帰る。

三月三十一日　晴。菊池，西田来訪。午後姚文藻を新馬路に訪ひ小談，去て高昌廟の同文書院に至り菊池，西田等を訪ひ，五時帰る。夜白岩の招邀に豊陽館に赴く。井手，香月，遠藤，渡辺，向野等同座たり。十時帰る。

四月初一日　雨。岳父，井芹，柳原，津野，河口，内田友義諸氏に発信す。上田，岡野，山田，松島，西本，坂田以下熊本学生数人来訪。夜姚文藻の招邀に東平安里王遠香の家に赴く。九時半散帰。

四月二日　陰。午前正金の預金元利を合せ一千〇三十元余を更に一年間の定期預と為し，其の証書を熊本留守宅に郵送す。狩野，篠崎，白岩，香月，遠藤等を訪ふ。正午井手の招邀に一品香に赴く。午後姚文藻，汪康年，吉田順蔵，白岩龍平，狩野直喜来訪。晩曾根原，西田，上田，高橋正二，山田，根岸等来訪。夜九時滬報館を辞し大貞丸に上る。井手兄弟，島田，牛島，篠原，狩野，山田，根岸，上田，西田等来り送る。

四月三日　健晴。神武天皇祭。午前六時開船。余長江を上下する事実に這次を以て三十二回とす。

四月四日　晴。春色如海。午前二時鎮江を過ぎ，晌午南京を経過し，午後四時半蕪湖に達す。

四月五日　快晴。午前八時半安慶を過ぎ，午後七時九江に達す。

四月六日　晴。午前七時黄石港の上游にて大亨丸の擱沙せるを拕帯し三時間を費し，午後四時漸く漢口に達す。岡，緒方来迎。東肥に至り小談。直に徳租界の寓に帰る。菅沼中尉来り寓す。楊子荃来訪。

四月七日　微雨，少時にして歇む。午前領事館，東肥，商船会社に至り，午後日本租界に散歩す。李泉渓来訪。

四月八日　晴。午後仕学院の教習某学士来訪。楊子荃，羅進夫来訪。東肥に至り，夜帰る。

熊本留守宅，上海井手列に発信す。

四月九日　晴。午前五時より緒方，岡と江を渡り武昌城外に猟す。小鳥九羽を獲，二時東肥に帰り会食す。

四月十日　晴。午後東肥に至り緒方と出て硯を購ひ，帰途福島の処に晩食し，八時帰る。片山，角田，愛宕軍医長，福島等来訪。領事官補矢田長之助来訪。

四月十一日　晴。上海西田，根岸列，東京根津一，浦塩稲垣伸太郎に致書す。湖南の馬寿年なる者，上海白岩の信を携へ来り訪ふ。緒方二三来訪。午後軍艦士官三四人来訪。夜矢田を訪ひ，去て三菱を一訪して帰る。

四月十二日　雨。

四月十三日　晴。東京杉浦重剛，韓国横田三郎に発信す。熊本留守宅に発信す。午後軍艦愛宕に艦長を訪問し，三時帰る。夜二橋季男来訪。近衛公より予を同文会評議員に推挙せりとの通告至る。

四月十四日　雨。海軍々令部に第百三十一号報告を発す。

四月十五日　雨。台湾亀雄，上海白岩の信到る。亀雄に復書す。同文会より清国各地支部廃止の通知に接す。近衛会長より慰労として金三百円を贈る旨の通知有り。

四月十六日　積陰，午後雨。同文会根津並に近衛公に評議員の承諾書を送り，且つ漢口通信員として岡幸七郎氏を推薦す。東京池辺吉太郎，白岩龍平に致書す。午後本田大尉，栗田軍医長来訪。之を留め晩食を共にす。

四月十七日　晴。上海井手，篠原，天津山根の信到る。之に復す。午後片山を訪ひ，去て東肥に至る。晩食後辞帰。途中角田を敲き，十一時帰る。

四月十八日　陰。午前岡と緒方を誘ひ，武昌に鋳方徳蔵を訪ひ，中食後辞帰。東肥にて晩食し，福島の処にて入浴し帰る。大瀧八郎来訪。熊本留守宅の信到る。

四月十九日　陰。日曜日。午前五時岡，菅沼両氏と出で東肥に緒方を誘ひ武昌に渡り沙湖に泛び，江鶏二羽を獲，上岸洪山の東麓を猟し，正午江を渡り帰る。鴫一，東鳥一を獲たるのみ。商船会社角田より晩餐の案内有り。之を辞す。

四月二十日　晴。上海井手，熊本柳原の信到る。大森松四郎来訪。夜領事館に至り，十一時帰る。

四月二十一日　陰。午前福島豊太郎来り別を告ぐ。龍秀来訪。是日海軍軍令部に百三十二，百三十三両号の報告を発す。午後出て福島を訪ひ其寓にて晩食し，同人を大通に送り，帰途角田隆郎を訪ひ，十時帰る。

四月二十二日　雨。鎌倉田鍋安之助，韓国葉室諶純に致書す。晩菅沼中尉を餞す。片山来会。八時菅沼を送て大利丸に至り，九時帰る。

四月二十三日　陰。午前角田隆郎来訪。

四月二十四日　晴。松倉，井口，阿蘇，井手等に発信す。午後福島正巳来訪。本日沙市より帰着せりと云ふ。出て東肥を訪ひ，晩食後福島の処に入浴し帰る。他出中宮崎九郎来訪。

四月二十五日　晴。午後出て領事館に至り片山を誘ひ大吉丸に至り宮坂九郎を訪ふ，在らず。森船長の処に小談。帰途矢田を領事館に訪ふ。晡時鋳方徳蔵来訪，之を留めて晩食す。栗田軍医長，緒方二三来訪。十時鋳方等辞帰。緒方と出て大瀧八郎を訪ひ，十二時帰る。不在の時愛宕艦長石橋甫来訪せりと云ふ。

四月二十六日　晴。日曜日。午前七時岡，緒方と後湖に猟す。余鴨二羽，鴫七羽を獲，午後一時帰る。夜緒方等と会食す。

四月二十七日　雨。熊本留守宅，狩野直喜に発信す。領事館矢田より晩餐の案内到る。熊本柳原又熊の信到る。予の推薦により愈南京に赴任する事に決せしと云ふ。夜領事館の宴に赴く。会する者，軍艦愛宕の士官，艦長以下数人と武漢居留人の重なる者四五人たり。十一時半辞帰。

四月二十八日　陰。朝鋳方徳蔵来訪。午後軍令部細谷，同文会根津に発信す。山田珠一に発信す。本田第一分隊長，栗田軍医長，石橋艦長，飯田，四竈等の各士官来りて別を告ぐ。明日此地出発，帰国するを以てなり。緒方二三来訪。愛宕艦の下江に托し安慶に在る佐久間浩に致書す。夕刻軍艦を訪問し別を叙す。夜矢田を訪ふ。

四月二十九日　晴。熊本留守宅，上海井手友喜，香月梅外に致すの信を牛島正巳の帰国に托す。留守宅には蜜餞並に鳥毛を托送し，香月に図南遺稿出版の寄附金を送寄す。午後東肥に至り，晩食後辞帰。途中大瀧の処に小談，十時辞寓。

四月三十日　晴。早朝岡氏と後湖に猟す。鴫二，鶉一を獲，正午帰る。軍令部細谷大佐並に同文会の信到る。近衛公より特別手当として金三百円を送り来る。午後楊子荃，丁某を伴ひ来り訪ふ。緒方来訪。

五月一日　晴。近衛公に金子領収書並に根津に致書す。外に旅順阿部野利恭に寄書，海軍々令部よりの来示を伝ふ。午後片山敏彦来訪。晩食後出て片山の処に至り，十一時帰る。

五月二日朝晴，午に至りて雨。熊本山田珠一，旅順阿部野に致書す。熊本留守宅，上海井手，篠崎，佐原，井原に致すの信を認め，明後日牛島生の帰国に托せんとす。

五月三日　晴。午後後湖に猟す。鶉一羽を獲，四時帰る。夜東肥を訪ふ。

五月四日　晴。熊本留守宅，津野一雄，河口介男，井手三郎，海軍々令部の信到る。津野より柴田常三郎の家厳死去を報じ来りしを以て，香料として金三円を柴田に送る。海軍々令部より五，六，七，三ヶ月分の手当金三百円を送り来る。熊本留守宅，津野，柴田，山田珠一，井手，篠崎，井原，佐原等に発信し，別に軍令部に領収証を送る。牛島正巳来訪。

五月五日　陰。水野梅暁，湖南より帰り来り訪ふ。海軍軍令部に第百三十四号報告並に北清旅行線路日数予定表を送る。東京根津に致書し南京体操教師の事を問ふ。亀雄の信到る。夜角田を訪ふ。

五月六日　雷雨。午前八木，午後水野来訪。

五月七日　晴。熊本留守宅，河口介男に発信す。午前緒方来訪。中食後共に出て江辺に散歩す。午後浅井来訪。夜出て入浴。東肥を訪ひ，三更帰宅。安慶佐久間浩の信到る。是日英国軍艦グロリー号入港（噸数一万二千九百五十噸）。司令官は「ブリツジ」氏なり。如此巨艦の漢口迄遡りしは従来未だ聞かざる所なり。

五月八日　晴。細谷大佐に発信す。午後東肥に至り，牛島正巳の帰国を送る。過日認る所熊本留守宅への信並に菓子を托す。東肥にて晩食後帰る。

五月九日　晴。尹仲韓来訪。狩野直喜より其内君死去の訃報に到る。内田友義，細谷，菅沼，丁某等の信到る。夜矢田，片山を領事館に訪ふ。

五月十日　晴。狩野，細谷，内田に復書す。夜東肥を訪ふ。長崎阿蘇惟教の信到る。

五月十一日　微雨。午後日本租界に散歩す。友人携ふる所の銃を借り鴫一羽を獲。

五月十二日　晴。午前李泉渓，緒方二三来訪。午後緒方，岡と日本租界に散歩す。六時帰る。

五月十三日　晴。午後領事館に至り，転じて大智門外の松の家に鉱山技師細井岩弥を訪ふ。湖南省の鉱山を視察して帰来せるものなり。

五月十四日　晴。海軍軍令部より電報にて北清旅行を許可し来る。旅費五百円も上海迄送りしと云ふ。菅沼周次郎，津野一雄，田鍋安之助，柳原又熊の信到る。

五月十五日　晴。津野，菅沼，田鍋に復書し，外に天津山根，芝罘伊集院に致書す。

五月十六日　半晴。出口某来訪。海軍軍令部細谷氏に百三十五号報告を発す。上海井手三郎に致書す。熊本松倉善家の信到る。

五月十七日　雨，寒冷。

五月十八日　晴。熊本留守宅に郵便為替にて金二百円を送る。軍令部細谷大佐より日露の関係容易ならざるを報じ来る。熊本山田珠一，東京根津一，佐世保本田親民の信到る。午後東肥を訪ふ。晩食後緒方二三の帰国を瑞和号に送る。

五月十九日　晴。晩岡，片山等と大智門外の松通屋に会食す。

五月二十日　晴。海軍軍令部細谷氏に電報暗号を定め，之を郵送す。台湾亀雄に発信す。是日漢口を辞し上海に下り北清に遊ばんとす。夜八時大貞丸に上る。九時開船。大森松四郎同船たり。余長江を上下する三十三回たり。

五月二十一日　陰。午前九時九江に達す。午後雨。二時開船。

五月二十二日　陰。未明蕪湖に達す。八時出港。午後五時鎮江に抵る。大森と上陸，獅子街の大東分局に至り，転じて海津駒吉を居留地に訪ふ。七時船に帰る。八時開船。

五月二十三日　晴。午後一時上海に達す。井手，島田，篠原，牛島，井手等来り迎ふ。滬報館に入る。佐原，岡野来訪。

五月二十四日　晴。西田，神津，水野来訪。午後姚文藻，汪康年等を訪ふ，皆在らず。日本墓地に展して帰る。上田，安河内等来訪。夜柳原又熊来訪，本日来着せりと云ふ。

五月二十五日　晴。是夜井手と阜成輪船に乗じ膠州湾を経て芝罘に赴かんとす。熊本留守宅に発信，北行を報ず。是日上海正金銀行に三百五十五元〇三銭を当座預とす。午後菊地謙二郎，森茂，根岸佶，上田等来訪。夜滬報館の招飲に一品香に赴く。余是日北行の途に上らんと期せしも船室満員の為に果す能はず。夜菊地等の南京行を大貞丸に送る。

五月二十六日　晴。午後篠崎を訪ふ。高橋正二来訪。

五月二十七日　晴。夜篠崎，山田等来訪。前田彪来訪。

五月二十八日　晴。午前前田彪を訪ふ。

五月二十九日　晴。姚文藻，前田彪来訪。晩姚氏，東平安里王遠香の家に招飲。

五月三十日　晴。佐原，大原信，上田等来訪。午後前田夫婦来訪。夜倌員一同前田等と杏花楼に会食す。十一時井手氏と招商局の泰順輪船に上る。漢口岡に発信す。

五月三十一日　晴。午前四時開船。

六月一日　濃霧四塞，海波平穏，黒水洋を航す。予此海を渡る此次を以て八回とす。有詩。

　黒水洋頭暮色横，多難毎向此間行，篷窓追憶十年事，仔細検来若為情。

六月二日　晴。午前七時半船芝罘に達す。上岸高橋洋行に投宿す。午前井手と出て水野領事，高垣，伊集院，中村等を訪ふ。白須直の天津より来るに邂逅す。熊本留守宅，岡，池邉，阿部野，柳原，宝妻，水野，井口，根津，山根等の信到る。熊本留守宅に発信す。夜水野領事より晩餐の案内有り，七時半之に赴く。十時辞帰。高垣，白須来訪。

六月三日　晴。東京池邉，漢口岡，大連湾阿部野に発信す。午前守田利遠を錦升洋行に訪ひ，帰途井手と海辺を散歩し帰る。唱和二首を得。

　彷彿仙郷隠約間，雲鬟欠処一帆還，勧君莫説辺功事，平昔賞心届碧山。

　煙台為客感偏長，烽火当年一夢茫，今日重来因底事，遼山北望胡塵揚。

午後伊集院俊，堺與三吉来訪。

六月四日　晴。大連湾阿部野に発信す。天津伊集院領事に致すの信を認め，井手三郎を紹介す。午前領事館を訪ひ領事，伊集院，高垣等を訪ひ帰る。東京海軍々令部細谷大佐，佐々友房両氏に発信す。夕刻井手と海岸を散歩す。海嶂隠約，暮色人に可なり。

六月五日　雨，少時にして歇む。田鍋安之助に発信す。午後伊集院，高垣来訪。大東溝行の寧静丸，午後六時開船の事を聞き結束す。井手送り来り，海岸にて分袂す。伊集院と共に寧静丸に乗ず。蓋し，我両人海軍軍令部の命に依り，鴨緑口沿岸より朝鮮の龍岩浦に至り露国人の動作を偵察せんが為なり。六時開船。本船は清人順義公司の所有にして我国旗の下に営業する者，噸数三百八十八噸，常に芝罘，大東溝間を往来す。船長以下皆邦人なり。

六月六日　健晴。午前九時船海洋島附近を過ぐ。島嶼五六有り。甲午の役，我軍清国北洋水師の精鋭を挫きし処。有詩。

　十載恩讐一夢空，海洋島外水濛々，回頭靺鞨何辺是，望断零煙砕霧中。

午後五時船大東溝沖に達す。芝罘より此に至る百九十三哩。船板を雇ひ上陸，永和順に投ず。順義公司の分行なり。支配人は于聖軒と称する山東人にして，接遇懇到を極む。回顧すれば予十七年前此地を過ぐ。俯仰今昔転た身世の瓢蓬を感ず。吉田源次郎来訪。三年前より安東県に在て薬舗を開けりと云ふ薩人なり。此地又た劉又助と称する筑前の薬商一人有り。

六月七日　健晴。是日安東県に向はんとす。午前六時二十分馬車に乗じ大東溝を発す。四十五里河深溝に至り，顧家店に投じ中食す。時十点鐘なり。小詩一首を得，客舎の壁に題す。

　盲風撲面望迷濛，道入残山剰水中，十七年前曾遊地，任地身世如瓢蓬。

十一時二十分啓程，三時半安東県に達す。邦人吉田，黒川等開く所の薬舗に至り小談。余慶客桟に投ず。是日行程九十里。此日一路高低不斉の地を過ぎ，身体稍や疲労を覚ふ。海城の老人尤姓来り，訴へて曰く，甲午乙未の間貴国軍を我郷に駐め秋毫も犯さず四民深く徳政に感激す，貴軍撤退後未だ一年ならずして形勢一変，近又俄人の盤踞する所と為り民大に之に苦む，我郷の人士今に至る迄貴国を追慕して忘るる能はず云云。遼東に入りてより到る処の百姓我を待つに礼譲を以てし，衷情掬す可き者有り。夜邦人の薬舗に至り黒川某を訪ひ帰る。安東県人家一千五百戸許。

六月八日　健晴。午前七時安東県の余慶客桟を出で陸路九連城に向ふ。十七年前の熟路なり。右方鴨緑江を隔て白馬山を望む。高百米突，山頂皆樹木鬱葱たり。土人云ふ，山中虎有り，入る可からず。左方一高峯を得，乱巘鉅歯の如く嶄然群山の表に屹立す。テンシー頂石山と名く。十時九連城を過ぎ鴨緑江の支流を渡る。舟夫は皆韓人なり。沙上を行く三清里，「馬事台マスタイ」税関の所在地に至る。

草屋十余戸，清国の置く所，此処清韓人相雑居す。又た江を渡り行く少許清流有り。水質瑩碧，鴨頭の緑の如し。流勢頗る急。対岸韓婦の白衣を洗ふ者水瀕に群居し白鷺の列を為すが如し。韓女の衣服は稍や西洋婦人の服に類し，乳部を露はす者多し。上岸韓国義州城の南門を入る。一遍して海東第一関と曰ふ。時正午なり。城内日野大尉の寓処に投ず。其家に在らざるを以て出て平壌領事分館主任新庄某の寓を訪ふ，亦た在らず。頗る之く所に迷ふ。偶々一日本婦人を見る。礼して之と言ふ語調異有るを知り，以て韓婦の日本装を為す者とし多く語らず。婦人予輩の宿所に困するを知り其一室を清めて之に憩はん事を勧む。少焉主人帰来す。亦洋装を為し邦語を善す。余等飢甚し。朝鮮麺を買て之を食ふ。腥気鼻を撲て筷を下す能はず。日野大尉人を馳せて帰来を報ず。往て之を訪ふ。日野の談を聴き始て知る，彼の日本装を為せるの夫婦は，甲午の役鳳凰城に在て我軍の為に奔走の労を取り終に我国に帰化せし張発なる事を。日野の処に於て晩食す。荻野少佐亦遼東より帰来，酒を把て共に談ず。平壌郵便局長某亦来着す。夜に入て帰寓。張発夫婦歓待大に至る。安東県より大連城に至る二十五里。義州城山に依り江に臨み形勢雄偉，城内人家少なからずと雖ども皆矮陋見るに堪へず。是日詩有り。

放浪天涯鬢欲斑，廿年知已有青山，重来鴨緑江辺路，朝入海東第一関。

六月九日　陰。午前七時半義州南門外の寓を出で，城内に至り荻野，日野両氏に告別し，義州郡衙の前を過ぎ，右折して東門を出で孔子廟の右側を過ぎ，北門前より高地を下り行十丁許り，謝里（シエリー）廟（？）に至り船に乗ず。此地韓人の茅屋十余戸，税関有り。舟筏二十隻此に泊す。甲午の役我軍の屯せし処。此地鴨緑江を隔て直に虎山に対す，相距三千米突許。我軍の江を渉りし処は此の上游に在り。九時開船。雷雨大に至る。十二時安東県に達す。張発義州より船を同ふして来り，此地にて相別る。舟中中食を終はり，二時風を冒して発す。行く二十五里三道口に泊す。時に七時半なり。此地人家無し。三道浪頭此を距る四里にして近し。夜に入て月色朦朧，鴨水声有り。天涯万里一葉の扁舟無人の地に泊す。東天を遥望し郷思頓に動く。舟子の所有に係はる磁碗一個を購ひ紀念と為す。

六月十日　微雨。午前二時三道口を発す。五時半龍巖浦（ノンパオ）に至る。直に上陸，露国経営の区域を巡視し，六時半船に帰り直に発す。三道口より此に至る十五里。

此地目下沿江百七十間，奥行七十間許の間に区画を定め，沿岸の部分は護岸工事に着手せり。堤防以内の地は約六尺許埋立てざる可からず。露国人五十名，支那人二百，韓人七八十有り。木工場建築用鉄材百件許と木材を堆積す。露人の仮屋四五戸，韓屋十七八，清人の住屋十余戸，馬四十匹，小汽船三隻有り。此地鴨緑江口より約我三里の上游に在り。形勝の地を占め泊船に便なり。

午後一時趙司口に達し上陸す。人家五十許。此より陸行十四里大東溝に達し，永和順に投宿す。主人于姓歓待具に至る。時午後三時なり。夜雨。

六月十一日　晴。山西銀行者大盛川号の何映升，合盛元号の趙棣園等来訪。午後市中を散歩し邦人開く所の回天堂薬舗に至る。店主は筑後大川の人劉又助なり。三年前此に至りしと云ふ。此地日本人は只だ此の劉姓有るのみ。

六月十二日　朝雨。午前九時永和順を辞し，舢板に上り，十一時寧静丸に乗ず。東京細谷氏の信に接す。午後四時開船。

六月十三日　健晴。午後四時船芝罘に達す。上陸高橋旅館に入る。熊本留守宅，宝妻，岡，柴田常，原等の信に接す。

六月十四日　晴。午後視察報告を認む。漢口岡，山崎桂，矢田長之助，熊本留守宅，山内嵩，宝妻等に発信す。田中武桜来訪。

六月十五日　微雨。漢口岡，東京亀雄，大連阿部野の信到る。高垣郵便局長来訪。上海篠原，安慶佐久間，熊本留守宅，亀雄に発信す。午後萩野氏来着。夜雷雨。

六月十六日　晴。午前領事館に至る。瀬川浅之進に邂逅す。昨日大東溝より来着せりと云ふ。互に奇遇

を悦び，談話時を移し，十時の船にて牛荘に向て去る。夜高垣の招邀に赴く。萩野少佐，丘襄二同座たり。十一時辞帰。（是日より房の飯銭を三元とす）

六月十七日　晴。午後阿部野利恭の信到る。阿部野に発信す。午後降雹有り，大さ指頭の如く，約二十分間にして歇む。

六月十八日　雷雨。午前荻野少佐，水野領事来訪。午後荻野氏威海衛に赴く。軍令部細谷大佐に致書す。晩独り煙台山を一週し，帰途堺，中村等を訪ひ，談話十時に及で帰る。天津市原源二郎に致書す。

六月十九日　晴。午後伊集院来訪。晩煙台山を一週し，高垣を訪ひ，十時帰寓。

六月二十日　晴。午後郵便局，領事館に至り四時帰る。是夜永田丸にて「ダルニー」に向はんとす。七時上船，八時出港。芝罘より「ダルニー」に至る九十三哩，十二時間を要す。

六月二十一日　晴。午前七時半三山島側を過ぎ，八時半ダルニー（青泥窪）に達す。上陸，日本ホテルに投じ朝食す。阿部野来訪。阿部野の寓に転ず。午後伊集院来訪。晩食後阿，伊と三人市中を散歩す。技師長サーハロフの官舎前を過ぎ，支庁の前を通過し，市内公園，市場等を一見して帰る。

六月二十二日　晴。午前石光真清開く所の写真館に至り，高原，秋山運次郎等に面し，午後阿部野及び写真屋の諸子と海岸の堤防工事並に防波堤の工事を見る。午後四時帰寓。西峯次遼陽より帰来す。秋山来訪。

六月二十三日　晴。阿部野，伊集院等と十二時五十分の汽車に乗じ旅順に向ふ。一時半南関嶺停車場に至る。旅順線此地に於て分岐す。本線は哈尓賓に赴く者なり。営城子車站を過ぎ，四時旅順に達す。馬車に乗じ愛国亭に至り投宿す。出て山下五郎を北方商会に訪ふ。山下同県人，沐浴を具し晩餐を饗す。十時帰寓。

六月二十四日　風塵迷濛。午前旅順市内を巡視す。露国軍艦十二隻港外に泊す。午後七時四十分の汽車にて阿部野と共に青泥窪に帰る。山下五郎，梅田清夫婦同車たり。十時半ダルニーに達す。梅田の処にて茶話，十一時帰寓。

六月二十五日　晴。午前阿部野遼陽に向て去る。午後一時井上雅二来訪。二年前より独逸に遊学せし者，西伯鉄道にて本日来着せりと云ふ。共に出て海辺を散歩す。夜井上を日本ホテルに訪ふ。佐藤工学士，梅田等と談じ，十一時帰る。

六月二十六日　晴。午前十時井手来着。午後五時共に出て井上雅二を訪ひ其の帰国を大和丸に送る。夜秋山来訪。

六月二十七日　晴。午後井手と築港工事を見る。

六月二十八日　晴。芝罘伊集院より東京細谷の信を転寄し来る。是日青泥窪を辞し，芝罘に帰らんとす。午後七時永田丸に乗ず。井手，西等送り来る。八時二十分開船。井手は是より奉天，哈尓賓を経て浦塩に出んとするなり。井手の遼陽行に托し阿部野に致書，並に山下五郎に井手を紹介す。

六月二十九日　晴。午前十時船芝罘に達す。上陸高橋洋行に投ず。午前出て領事館を訪ふ。熊本留守宅，田鍋，岡，深水，井手の信に接す。高垣，村井来訪。

六月三十日　晴。熊本留守宅，鳥居赫雄，山田珠一，山根虎之助，岡幸七郎に発信す。東京細谷資氏に発信す。高垣を郵便局に訪ひ預金を受取て帰る。

七月初一日　晴。守田利遠来訪。是夜八時第二徳和丸にて青泥窪に赴かんとす。領事館高橋，外一人同行たり。

七月二日　晴。午前六時半「ダルニー」に達す。阿部野の寓に投ず。井手三郎尚留て此に在り。大庭景秋来訪。

七月三日　晴。午前梅田潔来訪。夜に入て雷雨。

七月四日　晴。午前入交佐之助来訪。午後横山直康来訪。晩食後井手と入浴。十時出て井手の浦塩行を送る。向きには井手と煙台に分袂して再び此地に会し，予芝罘に去りて又た此に来れば井手尚滞る。

此夕分袂，詩以送之。

幾度離逢無限情，送君此夕別愁横，芙蓉山上半輪月，照得行人分外明。

七月五日　晴。日曜。午後阿部野遼陽より来着。伊集院来訪。本日旅順に赴くと云ふ。山下幾二郎来訪。夜三井の招邀に赴く。横山直康，藤岡清太郎，外一人主人たり。九時辞帰。熊本人奥村某来訪。

七月六日　晴。午後阿部野旅順に赴く。夜半田洋行山下幾二郎の招邀に赴く。入交，奥村等陪坐たり。十一時辞帰。

七月七日　晴。午前大庭来訪。夜西と市中に散歩す。十時阿部野旅順より帰来。是日大阪朝日新聞を読み，山崎桂六月念九夜漢口に病歿せるを知る。

七月八日　晴。東京近衛公に発信し満洲の情況を報ず。午後本荘堅宏来訪。夜横山来訪。

七月九日　晴，頗熱。是日遼奉に赴かんとす。本荘堅宏，大庭景秋，田中等来訪。阿部野と十二時の汽車に乗ず。十二時半南関嶺に達す。一時一小車站を過ぎ，一時半金州を過ぐ。左方近く州城を望む。十七年前曾遊の地なり。三時二十分瓦房店に達す。洋楼七十許。他日此地に内地税関を置くの計画有りと云ふ。七時二十分海城を経過す。十時二十分大石橋に達す。牛荘線此地に於て分岐す。停車場の休憩所に至り夜食す。東清鉄道の大停車場には総て食棹を備へ客の車を下りて飲食を為すに便す。

七月十日　快晴。午前二時半遼陽を過ぐ。碧天無雲，暁月一痕，太子河の水蜿蜒として山際より来り，風趣不可状，形勢恰も久留米に似たり。回顧十七年前，孤剣矩褐，此水を度りて三韓の境に向ふ。歳月匆々，当年の青鬢今将に半白ならんとす。而して当時の荒城一変して露国の都市と為り，火車往来其盛可驚，真使人有桑滄之感也。午前六時十分奉天府に達し下車。更に腕車を雇ふて大西門を入り，大南門内日本人の家に投ず。山根厨石，阿部某，趙清爾，総代太田垣，望月等来訪。午前城内四平街一帯並に皇居の附近を散歩し，小西門の城壁に上り観望久之帰寓。午後二時上車，停車場に至り四時四十分下り列車に乗ず。渾河の鉄橋を過ぐ。右岸に兵舎有り，騎兵一中隊，歩兵二中隊此に屯す。七時遼陽に達す。上車，西門を入り阿部野の店に投ず。

七月十一日　薄陰。遼陽滞在。午後鶴岡，山根，伊集院等と東西南北四門の大街を通過す。

七月十二日　晴。是日営口に赴かんとす。朝谷口某，青泥窪より来着。午前七時遼陽城を出で停車場に至り，営口行の汽車に乗ず。鶴岡，伊集院，阿部野同行たり。車站附近露人の建造せし家屋七八十戸有り。尚続々起工中なり。病院並に公園等の設有り。城内露兵一千，城外車站附近土造の兵舎三十棟，幕舎四十余強，屯兵二千余人と号す。八時発車。

倭山荘を過ぐ。此より以南西方一面茫々たる平野なり。十一時過海城，線路の左方有城。十一時半達大石橋，営口行の汽車に換坐す。此地線路の分岐点を占め，規模宏大，洋楼五十余戸。十二時十分開車，下午二時四十分牛家屯に達す。此地支線の終点にして遼河の左岸に位置す。船を雇ふて遼河を下り，一時間にして領事館前に達す。直に上陸，瀬川浅之進を訪ふ。小談，辞して深水十八を正金銀行に訪ひ，馬車を同ふして松倉善家を賽珍館に敲く，在らず。晩阿部野と瀬川領事の招宴に領事館に赴く。八時辞帰。松倉等と談じ，深更就寝。

七月十三日　晴。午後石原市太郎来訪。四時領事館を訪ひ，六時松倉の招邀に会芳館に赴く。瀬川，阿部野，荘村，田村列来会，八時散ず。瀬川来談。

牛荘人口約十万。日本人八十名，農商務陳列場，三井，正金，兼松，松茂，茂昌等の店舗有り。露兵の此地に駐する者二百人に過ぎず。

七月十四日　晴。午前五時半松倉の寓を辞し，船を賃して遼河を渡り，河北停車場に至る。楡営鉄道の起点なり。露国の牛家屯車站と江を隔てて遠く斜に相対す。松倉，荘村，阿部野，田村来り送る。八時十五分発車，八時五十分田荘台を経過す。十時十五分河流を過ぎ，双台子車站に至る。十時二十分十三山駅を過ぐ。奇峯兀立高低相属，十七年前の相識なり。午後一時半大凌河畔に達し車を下り，假橋を度り対岸に至りて山海関行の汽車に換坐す。二時二十分発車，三時左方金州府城を望む。四時高

橋を過ぐ。小山の東麓に位す。人家八百許，行く少許左方近く海湾を見る。海浜小邱の間一巨鎮有り。瓦屋櫛比頗る繁盛の概有り，天橋厰と名く。此辺塩田頗る多し。四時四十分連山を経，五時十五分寧遠州車站を過ぐ。城頭の山上煙台有り。六時半中後所に至る。営口を出てより到る処の駅站，楡関内外鉄路総局の巡捕兵捧銃整列以て汽車を送迎す。七時五十分前後所を過ぐ。未到此之前右方奴魯児虎嶺を望む。高く天半に挿む。八時二十分山海関に達すれば，夜色已に冥合矣。登本万吉の家に投宿す。夜大雨，盆を覆すが如し。

此地海岸並に砲台附近日，英，露，仏，独，伊六ヶ国の屯兵有り。日本兵百五十人，此中を分て秦皇島，湯河，灤州，昌黎に派遣駐屯せしむ。露兵三百，英の印度兵二百，其他の各国は各百五十名左右なり。邦人の此に在る者約八十名，女子過半居る。

七月十五日　積陰。午前七時前山海関南関の登本旅館を出で停車場に至る。雨潦道を浸し深脛に及ぶ。天津行の汽車に乗ず。車賃一等にて十円四十五銭なり。七時発車，右方に角山有り。万里の長城蜿々として其頂上に蟠るを見る。七時半湯河を過ぐ。日本の守備兵有り此に屯す。左方秦皇島を望む。高二十米突，一線の防波堤遠く海中に斗出す。新開の互市場なり。八時北戴河を過ぐ。左方の海浜二三の岩山有り。外人逗署の地たり。現に此地に在る者四百人以上に及べりと云ふ。留守営車站を過ぎ，八時四十五分昌黎県に至る。県城北は岩山を負ひ，南は平野に面す。高塔一基有り。城東一小山有り。岩骨嵯峨，其状頗奇なり。形勢宛然，美作の和気郡に似たり。此地韓文公の故里にして又伯夷叔斉の父孤竹君の故封なり。李広射石之処在此山中云。九時廿分安山車站を過ぐ。一山兀立，山上廟宇有り。九時半石門を経，九時五十分凛州に至る。凛河の鉄橋を度る。小舟数十隻此に泊す。車站附近日本分遣隊の駐紮所有り。十時半古冶を過ぐ。左方高約三十米突の山側炭鉱の煙突有り。鉄道支線此に通ず。十一時過開平右側に位置す。十一時十五分唐山に至る。有名なる産煤地にして煙突林立，人家稠密，煤煙天を蔽ふ。沿道第一の巨鎮なり。唐山高九十米突，平野の間に横はる。行少許胥各荘を過ぐ。此より起り一道の運河天津に通ず（運煤運河）。十一時五十分芦台を通過，午後一時北塘河を渡る。左方北塘市街有り。河に沿ふて長し。一時四十分塘沽を過ぎ，二時廿分軍粮城に至る。車中総兵李碩愚と会談す。安徽人なり。三時天津に達す。腕車に乗じて閘口の東雲旅館に投ず。途上市原に会ふ。夜山根虎之助，市原，多田来訪。共に出て入浴す。雨。

山根曰，袁世凱の部下一人才無く創設する所の事一も成績を見る可き者無し，学校司，農務局，商務局，工芸学堂等有りと雖毫も統一する所無しと云ふ。目下天津我居留民千四百人以上に達せりと云ふ。

七月十六日　陰。是日北京に赴かんとす。午前七時半東雲旅館を出で天津車站に至り，八時二十分の汽車に上る。九時四十分楊村，十時十五分落垡，十時四十分廊房，此地外国兵の駐屯するを見る。十一時半安定，十二時黄村，十二時半豊台に至る。此処天津以西沿道第一の大駅なり。十二時四十五分北京外城の永定門外を過ぎ，午後一時十五分前門外の車站に達し，腕車を賃して城内東単牌楼の徳興堂に至り投宿す。郡島忠二郎に邂逅す。午後三時出て牧巻次郎を蘇州胡同に訪ひ，談話時を移し，去て澤村繁太郎を敲く。入浴後洋餐を具して欵待す。税幇弁黒澤某来会。夜に入て牧亦来談。

諸友の談に曰く，慶親王は意志薄弱にして太后を動すの勢力無く，却て太后の為に頤使せられつつ有り，目下当局者中の有力家は瞿鴻禨にして，其次は王文韶なり，鹿伝霖は言ふに足らず，第二流には聯芳，顧肇新の両人有り，張之洞は宮廷の信任深からず，且つ慶王，王文韶等と合はず，独り瞿と相好きのみ，瞿曽て張を薦めしも太后の用ゆる所とならざりしと云ふ。

露国は宮中に権力有る李蓮英，婦人にては栄壽大公主を籠絡せり。公主は太后最親の人なり。露清銀行総弁「ポコチロフ」鉅万（或曰六百五十万両）の金を散じて李太監其他の権臣に賄送し，又た太后にも百万を献納せりとの説有。

其籠絡の方法は，李並に栄寿公主と別に，宮中に信用有る白雲観の管長高雲渓並に雍和宮の喇嘛大

僧正を買収し，白雲観と雍和宮とを以て宮廷操縦の策源地と為せり。

七月十七日　晴。朝公使館内田公使を訪ふ。明八日此地を辞するを以て晩餐の案内有りしも，本夕旧友列より招待の先約有るを以て之を辞す。山根司令官武亮を訪ふ。寛談小午に及で帰る。中食後上車，朝陽門に至り城楼に上り，転じて東四牌楼より地安門を入り，景山門に至り，三時半帰寓。井深彦三郎，鶴岡，牧来訪。午後六時旧友の招邀に燈市口の徳昌号に赴く。会する者澤村繁太郎，川島浪速，牧巻次郎，井深彦三郎，山本瀧四郎，三谷末次郎，松島宗平，鶴岡，伊東等なり。饗応具に至る。九時半帰寓。牧，鶴岡，井深，郡島，太田裕三郎来談。

北京日本人官民合せて五百人，守備兵三百人。露，仏，英，意，澳，米，独の諸国の守備兵と我守兵とを合せて二千人を出でずと云ふ。

七月十八日　陰。午前六時半徳興堂を出で前門外車站に至る。澤村繁太郎，井深彦，山根少将，牧巻次郎，郡島忠二郎，松島宗平，鶴岡等来り送る。七時発車，下午一時半天津着，東雲館に投ず。市原来訪。中食後共に出て伊集院領事を訪ふ。談話時を移し，転じて利津里に至り山根虎之助を訪ふ。姫田良蔵，森田國雄等来訪。三浦喜傳を訪ふ。晩在天津知人の招待に赴く。会者山根，三浦，市原，多田，森井，米津，小田桐諸人なり。十時散ず。招商局新裕輪船明朝三時出口の事を聞き，旅館に帰り匆惺行李を戒め，十二時紫竹林に至り船に上る。市原来送る。芝罘に至る上等船賃二十八円五十七銭也。

七月十九日　晴。午前四時開船。十一時塘沽着，午後六時半開船，白河口を出づ。船中北京工芸局黄中慧に邂逅す。

七月二十日　晴。渤海を航行す。午後一時半芝罘着，高橋に投ず。高橋藤兵衛昨日午前死去せりと云ふ。香典五円を贈る。熊本留守宅，岡幸七郎，中西の信に接す。漢口岡，上海滬報館に致書，帰国を報ず。夜雨。

七月二十一日　晴，熱甚し。本日正午高砂丸の長崎直航に乗じ帰国せんとす。午前岡野増次郎来訪。守田利遠を訪ひ小談，去て領事館，郵便局に至り別を叙す。十一時高橋旅館を出で船に上る。松崎翠同船たり，牛荘より来れる者。芝罘より長崎に至る船賃三十八円四十銭なり。水野領事，守田少佐，中村警部来送。午後四時半威海衛の前を過ぐ。英国軍艦数隻此に泊す。七時成山角を過ぐ。白色の燈台有り。

七月二十二日　晴。海上。午後四時朝鮮群島の間に入る。六時半左舷木浦港口を望む。港門両奇山有り。頂上岩石兀立烏帽の状を為す。此辺一帯島嶼碁布，山容皆奇，恰も四国山陽の内海に似たり。潮流急激，船行甚遅々。

七月二十三日　陰。朝五島を望む。高砂丸船長河原勝治は会津人たり。快活能く談ず。杉浦等と同窓の学友なり。午後三時松島の左側を過ぐ。附近二岩山有り。突兀として海上に相対峙す。恰も揚子江中の小姑山に似たり。山腹に洞門有る者を大角力山と為す。小なる者を小角力山と称す。四時長崎港口伊王島灯台の側を過ぎて港内に入る。四時半検疫所前に至り錨泊し，検疫終はりて内港に入る。時六時過ぎなり。税関の検査を受け土佐屋に投ず。熊本留守宅に電報を発し，井手三郎に致書す。井手浦塩斯徳より来着，本朝此地を発せりと云ふ。晩食前出て髪を理す。阿蘇惟教来訪。熊本山田，韓国葉室に発信す。

七月二十四日　雨。午前五時長崎停車場に至り熊本行の汽車に乗ず。午後一時熊本着。夜大江を訪ふ。

七月二十五日　雨。午前津野，中村六蔵，狩野直喜，牛島来訪。夜河口を訪ふ。

七月二十六日　雨。朝中村六蔵来訪。午前十時の汽車にて宇土に至り奥村叔母の死を吊し，午後三時の汽車にて帰る。内藤九一，岡本大八，宝妻寿作等来訪せりと云ふ。

七月二十七日　晴。午前井口，村山，牛島正巳，狩野直喜，中島美喜雄来訪。漢口岡，東京亀雄，長崎阿蘇の信到る。

七月二十八日　晴。朝白石，小林政一，井手三郎来訪。午後山田珠一，上田賢象，牛島吉郎来訪。夜藤

本，緒方来訪。

七月二十九日　晴。朝宝妻来訪。夜井口，香山，河口来訪。是夜啓程東京に向はんとす。九時半家を出で池田に至り，十時十三分の汽車に上る。牛島来送。

七月三十日　晴。午前五時半馬関発の急行にて東上す。

七月三十一日　晴。午前九時半新橋着，神田連雀町の佐々木に投ず。鳥居赫雄在焉，新たに独逸より帰来せる者なり。夜安達，古城，池田来訪。

八月一日　晴。午前同文会，軍令部を訪ふ。午後岡本源次を有斐黌に，佐々氏を冨士見に訪ひ晩食の饗を受け，九時半帰る。田鍋来訪。

八月二日　雨。朝中西正樹来訪。午前九時上野停車場に至る。宮島大八に邂逅す。是日同県の諸友と相約し上野に会し，汽車に乗じ金町車站に至り下車し，柴又村の帝釈天に展し，去て利根河の川甚に会す。同遊者は岡本源次，國友重章，池邉吉太郎，古荘韜，八田三郎，鑄方徳蔵，堤真人，木下宇三郎，鳥居赫雄，野田寛，林市蔵，宇野，矢津昌永及び予の十四人なり。是日風雨満江，野趣殊に可なり。詩酒情興人皆帰るを忘る。三時半に至り始て席を撤し帰途に就き，雨を衝て金町に至り，三時五十五分の汽車にて帰る。池邉吉太郎，林市蔵，古城貞吉，池田末雄来訪。橘三郎の信到る。

八月三日　陰。是朝鳥居大阪に帰る。橘三郎来訪。佐々友房氏より晩餐の案内有り。

八月四日　晴。中西正樹，熊谷直亮来訪，中食後去る。中町香橘，田鍋安之助，早川新次，和田純，水野梅暁等来訪。近衛公，岡次郎に発信す。

八月五日　晴。岡次郎来訪。古城の信至る。之に復す。早川来訪。午後池辺，岸田を訪ふ。北京山根正亮に発信す。夕刻伊集院俊来訪。

八月六日　晴。午前軍令部にて旅費手当四百六十八円九十銭を受取る。帰途長岡子爵を華族会館に訪ひ帰る。京都土屋員安に発信す。三井銀行より海軍よりの手当四百円を受取り熊本に為替す。高島義恭来訪。午後福島少将を牛込に訪ひ，五時古城貞吉の招邀に赴く。池田末雄来会。十時辞帰。

八月七日　晴。中西及び熊本留守宅に発信す。朝同文会よりの速記者来り，余の満洲談を速記す。午前軍令部に至る。白須直に邂逅す。同文会に至り中食し恒屋盛服，成田與作と談ず。安原金次を麻布に訪ひ寛談。宮島大八，田鍋安之助を歴訪し，佐々友房氏晩餐の招きに赴く。早川同座たり。夜武藤虎太来訪。

八月八日　陰。午前野田寛，中西正樹来訪。中西と中食を共にす。漢口片山に発信す。午後池邉源太郎来訪。細川先侯夫人より招かれしも本日帰県の故を以て辞す。杉浦重剛の使者，宮原千代喜来り洋酒を贈る。午後六時の汽車にて新橋を発す。田鍋，宮島，豊島，阿部，宮原等来り送る。安楽兼道，元田肇と同車たり。

八月九日　晴。午前七時廿分京都七条着。上車，縄手三条小川亭に投じ朝食後土屋を訪ふ。林市蔵在焉。十一時共に出て七条に至り，十二時半の宇治行の汽車に乗ず。右方東寺の塔を望む。桃山伏見を過ぎ，午後一時宇治に至り汽車を下り，更に腕力を雇ひ宇治町を過ぎ宇治橋を度り宇治川右岸の旗亭亀石に投ず。鳥居赫雄，余輩を待ち先つ此に在り。中食後四人舟を賃して上游に遡り，樹下舟を緊て杯を傾く。涼積翠の間より来り，水流如箭，急灘有声，流を下て平等院の下に舟を停め有名なる鳳凰堂を見る。院の門外扇芝有り，扇面の状を為す。源三位頼政自刃の処，其附近又河原左大臣の別業有り。八九百年前の物なり。対岸の山中興聖寺の巨刹有り。四人宇治川に游泳し亀石に帰りて浴を取り，七時舟に乗じて川を下り宇治橋下に至る。明月一痕，山川如画，心襟爽然，両腋生風の思有らしむ。陶器並に玩具を購ひ八時の汽車にて京都に帰る。鳥居七条に於て分袂，大阪に帰る。帰途土屋，林と麩屋町の喜楽亭に至り鶏を喫し，十二時半帰寓。土屋来談，一時去る。

八月十日　晴。午前十時土屋来る。十時半林市蔵と小川亭に分袂し，土屋と七条に至り上車。午後一時十分土屋西ノ宮にて車を下り去る。神戸に至り山陽線に換坐す。

八月十一日　晴。午前五時半馬関着，六時半門司下り汽車に乗じ，午後一時池田着，植木にて井手の山鹿温泉より帰途上車するに会ふ。池田迄同車す。夜上田賢造，齊藤國男，宝妻寿作来訪。葉室，白石，篠原，岡，中西和専等の信に接す。

八月十二日　晴。午前津野，狩野，柳原，山田，支那店を歴訪す。午後宝妻来訪。長崎阿蘇惟教の信到る。

八月十三日　晴，熱甚。夜緒方来訪。

八月十四日　晴。午前狩野直喜，不破昌材来訪。韓国日野強，芝罘水野孝吉，高垣，中村，堺，ダルニー阿部野，西峯次，佐藤，桜田清，山下幾二郎，横山直康，入交，牛荘瀬川，松倉，深水，北京澤村，牧，井深，内田康哉，三谷，川島浪速，松島，瀬川，米良，天津山根，三浦，市原，多田，森井，小田桐，東京古城，中町，杉浦，橘，田鍋，宮島並に土屋員安，阿蘇等に発信す。井芹，白石来訪。夜大江を訪ふ。

八月十五日　晴。中島美喜雄，若林某来訪。午前狩野を竹部に訪ひ，十二時帰る。午後永原，津野来訪。

八月十六日　晴。落合為誠来訪。米原繁茂の信到る。

八月十七日　晴。早川，井芹，牛島正巳，白石来訪。ダルニー西に支那語講義録を送る。

八月十八日　晴。阿部野の信到る。午前支那店に至る。夜柳原又熊来訪。是日海軍の手当金四百円を第九銀行より受取る。

八月十九日　晴。午前家族親戚一同砂取にて一船を賃し，画湖に遊び終日湖上を徘徊し，黄昏家に帰る。

八月二十日　晴。橘の信到る。白石，宝妻来訪。午後中島美喜雄来訪。中島の為に井深に添書す。

八月二十一日　晴。深水十八，岡幸七郎，阿蘇，古城貞吉の信到る。上海篠原に発信す。東京亀雄に金十五円を送る。夜内藤九一，香山某来訪。

八月二十二日　晴。午前武藤虎太，山田九郎来訪。柳原又熊来訪。

八月二十三日　晴。宝妻，中島等の清国行に托し漢口岡，上海篠原，姚文藻に発信す。午後牛島正巳，宝妻寿作，高橋某来訪。十時柳原，宝妻を池田駅に送る。帰途牛島と早川新次を訪ふ，在らず。

八月二十四日　晴。午前鋳方徳蔵来訪。十二時半春日に至り上車，宇土に赴き奥村宅の法会に列す。午後三時半辞去。矢島を訪ひ小談。五時七分の汽車にて帰熊す。

八月二十五日　晴。午前武藤虎太，津野，井口，狩野，上野等を歴訪す。漢口岡，長崎柳原の信到る。夜落合東郭を訪ふ。

八月二十六日　晴。阿蘇惟教の信到る。米原繁蔵に復書す。朝来脳痛。

八月二十七日　晴。井手の信到る。之に復す。夜大江の招邀に赴く。朝早川新次来訪。

八月二十八日　晴。午前牛島，緒方，支那店，阿部野宅を訪ふ。留守中内堀維文，井芹の添書を携へ来り訪ふ。山東師範学堂に赴く者なり。天草田中清司の信到る。漢口片山敏彦の信到る。夜井口来談。

八月二十九日　晴。北京瀬上恕治，芝罘高垣徳治，ダリニー阿部野の信到る。山田九郎来訪。是日陰暦乞巧節たり。

八月三十日　晴。右田良雄来訪。内田友義の東京行に托し佐々友房，林市蔵両氏に添書す。

八月三十一日　晴。午後井手三郎来る。晩食後去。雷雨。東京水野の電報到る，復す。

九月一日　晴。午前内田友義来り別を叙す。是日より東京に遊学する者なり。上野寅彦，落合東郭，牛島，上田来訪。牛，上二人を留め中食す。昨日来咽喉爛傷頗る痛を覚ふ。早川，柳原，橘の信到る。不破昌材来訪。

九月二日　午前晴，午後大雷雨。田中清司来。

九月三日　午後雷雨。夜井口忠来訪。松倉善家の信到る。

九月四日　晴。午前佐々友房氏を研屋支店に訪ひ，晌午帰る。昨日来着せりと云ふ。夜右田来訪。佐々氏に添書す。米原繁蔵の信到る。

九月五日　陰。午前井芹来訪。岡本大八，佐々友房，緒方二三来訪。岡本の上野行に托し綿織暢身上の事に付き根津一に致書す。夜大江を訪ふ。

九月六日　晴。午前右田，尾越辰雄来訪。正午春日駅より上車，宇土に至り法華寺城山の先塋に展す。旧暦盂蘭盆に当るを以てなり。帰途奥村宅に小談，三時半の汽車にて帰る。北京牧巻次郎，天津市原源次郎の信到る。

九月七日　晴。午前山田九郎，澤村正夫，右田良雄来訪。午後四時より尾越辰雄の招邀に静養軒に赴く。佐々友房，辛島格，紫藤猛，吉永為巳，井手三郎，山田珠一，緒方二三及予と東道尾越の九人なり。十時散ず。他出中永野金二郎，池田一郎等来訪。

九月八日　晴。朝武藤虎太，小林政一郎来訪。長崎根津一，東京内田友義の信到る。午後狩野直喜来訪。漢口宝妻寿作の信到る。夜永野金，池田一郎，遠藤某来訪。

九月九日　晴。夜中村六蔵来訪。濱田茂，尾越辰雄の添書を携へ来り訪ふ。

九月十日　晴。午前中村，小笠原，牛島吉，島田数雄，上野寅彦，津野一雄並に阿部野，右田の両母堂来訪。午後川野廉来訪。牛荘深水，松倉に発信す。

九月十一日　雨。井手に復書す。内田友義に復書す。夜不破昌材来訪。

九月十二日　雨。朝佐々氏来訪。午前山田，佐々，支那店，尾越，河口，大江，武藤，狩野，井芹を歴訪し，別を叙す。牛島，井口，井芹来訪。井手の電報到り渡清延期を報ず。之に復電す。山田珠一来訪。夜中村六蔵，河口，澤村，緒方来訪。

九月十三日　晴。日曜日。午前八時半上車。家門を出で清国行の途に上る。岳父君並に河口家族来別，池田駅に至る。途上吉川季次郎福岡より其友野口雄三郎と特に来て余を訪ふに会ふ。相共に停車場に至る。九時十二分の汽車に乗ず。武藤虎太，山田九郎，沢村雅夫，池田一郎，井口忠，牛島兄弟，狩野直喜，村山，河口等来り送る。狩野同車。高瀬駅に至り相別る。午後六時長崎着，土佐屋に投ず。阿部野利恭に発信す。牛荘松倉，深水，大坂鳥居，熊本緒方，留守宅に発信す。井手に発信す。夜尾越来着。

九月十四日　陰。阿蘇惟教来訪。吉川季次郎来訪。三時半土佐屋を出で山口丸に上る。五時開船。海上平穏。

九月十五日　晴。海上平穏。

九月十六日　晴。午前八時半上海に達す。滬報館に投ず。上田，安河内来訪。熊本緒方の信到る。是日正金銀行より預金三百五十五元〇三銭を受取る。姚文藻来訪。夜東尚仁里百花里底林雲仙の家に招飲す。十時帰る。佐原篤介来訪。漢口岡，東京中島雄の信に接す。

九月十七日　陰。午前佐原来訪。午後同文書院に至り根津列を訪ひ，晩食後帰る。

九月十八日　雨。福島喜三次，西岡寿一郎来訪。夜細谷，伊集院，内田岳父，中島雄，留守宅，河口介男に発信す。篠崎，西田来訪。

九月十九日　雨。邉見勇彦，森茂来訪。熊本島田數雄の信到る。

九月二十日　晴。日曜日。午前内藤，吉田両生来訪。姚文藻を訪ひ正午帰る。午後熊本留守宅，池邉吉太郎，橘三郎，田鍋安之助，柳原又熊の信到る。上田，西本，根津一，西田龍，澤本良臣，大原信，西田某来訪。井原真澄，望月小太郎来訪。夜佐原篤介来訪。

九月二十一日　晴。望月小太，岡野来訪。夜深澤暹来談。

九月二十二日　晴。夜井原，深澤を訪ふ。不在中香月梅外，遠藤留吉来訪。

九月二十三日　晴。早朝井手来着。熊本緒方二三の信到る。夜篠崎，香月来訪。

九月二十四日　晴。夜根津，深澤来訪。

九月二十五日　晴。正午根津の東道にて一品香に中食す。午後姚を訪ふ，在らず。夜菊地，篠崎を訪ひ，去て香月，遠藤等を敲き，十一時帰る。

九月二十六日　晴。熊本上野寅彦，漢口二橋，白岩，福州中西和専等に致書す。内田友義に致書す。午前菊地謙二郎来訪。夜篠崎，実相寺を訪ふ。姚文藻来訪。

九月二十七日　晴。日曜日。午後井手と中江に釣る。夜姚文藻の招邀に赴く。帰途公園を散策す。

九月二十八日　晴。菊地の帰南京に托し柳原に復書す。夜菊地謙二郎，立花政樹を訪ふ。

九月二十九日　晴。

九月三十日　晴。午前理髪を為す。領事館に小田切，井原等を訪ひ帰る。軍令部細谷に第百三十六号報告を発す。水野梅暁来訪。午後井手と競馬場に散策す。伊集院俊の信到る。

十月一日　晴。熊本留守宅，佐々克堂，佐々干城，大内暢三，武藤虎太，山田九郎，澤村正夫，島田，不破，田中清司，市原，緒方等に致すの書信を作る。夜郵便局に至り投函す。

十月二日　晴。午前同文書院に根津を訪ひ，東京の同文会本部に従事する事を謝絶す。芝罘守田利遠，北京牧，岡幸七郎，宇土川野廉，大坂鳥居に致書す。

十月三日　晴。山田純来訪。夜井手と篠崎を訪ふ。

十月四日　晴。午前上田来訪。午後根津一，堀扶桑来訪。蘇州中西和専の信到る。安慶早川新次に発信す。

十月五日　晴。是日中秋節たり。西田，田岡等来訪。熊本上野寅彦の信到る。

十月六日　雨。牛荘松倉善家の信到る。之に復す。夜小田切領事の晩餐に赴く。川嶌海軍大佐，□内中佐，金子少佐，井手及余と主人夫婦なり。

十月七日　陰。

十月八日　晴。午後郊外に散歩し，晩井手，篠原子と碎月に会食す。夜篠崎来訪。

十月九日　陰，冷気肌を刺す。牛荘深水，松倉より右田の学資補助六元を送り来る。因て井手と余と六元を出し合て十二元とし，之を日本貨に換算して十一円十一銭を得，熊本留守宅を経て山田九郎の処に転致す。牛荘深水に発信す。松倉善家の信到る。之に復す。熊本山田九郎に致書。外に熊本留守宅に致すの書を作り，別に山茶糕六箱，筆十本，六神丸二匣，並に山田九郎に致すの金子入書状を篠原の帰県に托す。熊本牛島に致書し猟用品の買来を依嘱し其代金一円を封送す。

十月十日　晴。正午篠原帰国を山口丸に送る。東京細谷に発信す。午後大原信，神津来訪。漢口片山敏彦の信到る。

十月十一日　日曜。午前五時小井手と江湾に猟せんとす，雨を以て罷む。午前橘三郎，中野太郎来訪。昨日来着せりと云ふ。午後根津一来訪。

十月十二日　晴。午後橘三郎，中野太郎等を豊陽館に訪ひ，鋳方徳蔵，片山敏彦に致すの書信を托し，片山に轟天雷一册を贈る。香月，深澤等を訪ふ。

十月十三日　晴。午前五時小井手と江湾に猟す。鳩四羽を獲，三時帰る。夜中西和専来訪。深水十八，宝妻寿作の信到る。

十月十四日　晴。鳥居，不破，牛島，細谷の信到る。熊本留守宅並に亀雄の信到る。

十月十五日　晴。午前郵便局に至り牛荘深水に復書す。午前姚文藻，陸純伯来訪。午前汪康年，白岩龍平，澤本良臣来訪。汪，白岩は一昨日日本と漢口より帰来せりと云ふ。熊本島田，釜山吉川末次郎の信到る。

十月十六日　陰天。海軍軍令部に百三十七号報告を発す。外に福島安正，阿部野利恭に発信す。汪康年来訪。夜井手と白岩，井原，深津等を訪て帰る。

十月十七日　晴。安慶早川，北京岡幸七郎の信到る。岡は去八日着京せりと云ふ。午前白岩，香月を大東に訪ふ。中西和専昨日虎列刺病に罹り公済病院に入れりと聞く。篠崎に至り中西の病状を敲き帰る。上田，高橋正二来訪。

十月十八日　晴。午前五時小井と西郊に猟す。鳩一羽，小鳥一を獲，晌午帰る。心気不舒。午後二時同

文書院の運動会に赴く。悪寒の為め晩食会に列するを辞し帰る。
十月十九日　晴。夜来発熱三十八度三分。白岩来訪。
十月二十日　陰。心気頗宜。
十月二十一日　雨。牛島，栃原の信至る。体気旧に復し心神如拭。
十月二十二日　健晴。
十月二十三日　陰。午後中西和専の病を問ふ。東京岡二郎の信到る。
十月二十四日　晴。早朝出猟せんとす。微雨を以て止む。午後出猟，鳩六羽を獲，五時帰る。香月来訪。午後西田龍太辞行の為め来訪。晩浅井平吉来訪，本日来着せりと云ふ。緒方二三の信到る。夜出て西田以下同文書院生徒五十余人の北京行を送る。上田来宿。
十月二十五日　陰天。日曜日。北京深澤繁，川島浪速，井深仲卿に致すの信書を昨日西田の北行に托す。是日詰朝小井と西郊に出猟，鳩三，小鳥一を獲，晌午帰る。午後白岩来訪。天津山根の信一封多田生携□。
十月二十六日　陰。午前浅井来訪。金二十元を借て去る。漢口福島，宝妻に致書。曾根原千代三を訪ひ，其の四川行に托し，井戸川，徳丸に致書す。
十月二十七日　雨。河口介男の信到る。小田切領事より天長節祝賀会の案内状到る。午後香月来訪。四時中西の病気を問ふ。夜白岩，上田来訪。
十月二十八日　陰，昨来寒気大に加ふ。福島安正，緒方二三，軍令部より為替入の信到る。
午前三重県技師足立丈次郎来訪。米原，武藤等の知人なり。午後郵便局に至り緒方に致書し，軍令部の十一，十二月，一月，三ヶ月分手当入の書留信を受取て帰る。途中渡邉正雄を訪ふ，四時帰る。入院中の中西和専本日午後一時遂に死去せりと云ふ。夜出て渡邉，香月を訪ふ。
十月二十九日　晴。十時中西の葬を日本墓地に送る。留守中中畑栄北京より岡幸七郎の信を携へ来訪。午後中畑を訪ふ。漢口に転任を命ぜられたりと云ふ。熊本山田九郎，沢村雅夫の信到る。大原，神津来訪。
十月三十日　晴。軍令部に金子領収証を郵送す。外に岡次郎，中西太善に致書。牛荘松倉善家の信至る。之に復す。
十月三十一日　晴。森井国雄来訪。夜出て森井，足立等を訪ひ帰る。
十一月初一日　快晴。午前上田，小井と西郊に猟す。鳩三羽を獲，午後帰る。牛荘深水の信到る。根津一来訪。
十一月二日　晴。午後井手と西郊に散歩す。足立丈次郎来訪。
十一月三日　晴。天長節。午前領事館に至り聖影を拝し，正午領事館の祝賀会に臨む。午後二時より呉淞碇泊の軍艦高千穐に至り瓜生司令官の催せる宴会に列す。内外の来賓約六十人。撃剣，短艇競争等の余興有り。五時軍艦の小蒸気船にて上海に帰る。
十一月四日　晴。午前牛島来着。熊本留守宅の信到る。午後堀扶桑，夜上田，安河内来訪。雨。
十一月五日　雨。
十一月六日　陰。北京岡幸七郎の信到る。
十一月七日　晴。武昌鋳方徳蔵の信到る。午後西郊に猟す。獲る所無し。
十一月八日　晴。日曜日。五時より小井，上田と西郊に猟す。鳩三，小鳥一を獲。
十一月九日　晴。熊本中西太善の信到る。午前上街，衣類を購ひ，午後大東を訪ひ，帰途公園に菊を観て帰る。
十一月十日　晴。熊本留守宅，葉室諶純，中畑栄，岡幸七郎，阿部野利恭の信到る。晩白岩の招宴に杏花楼に赴く。会者田邉為三郎，根津以下七八人なり。
十一月十一日　晴。栃原孫蔵来訪。漢口中畑栄に復書す。

十一月十二日　晴。昨夜心気不舒，熱三十八度。午後五時病を勉て根津の招宴に同文書院に赴き，八時半帰る。
十一月十三日　晴。心気復旧。海軍軍令部に報告を発す。外に熊本留守宅，亀雄，河口，葉室，阿部野，鳥居に発信す。夜弘済丸に田邉為三郎，栃原孫蔵等を送り，田邉に中西太善氏に香典二円半を托送す。熊本より内人及清子の写真を送り来る。
十一月十四日　陰。熱三十八度六分。姚文藻より，道台陸純伯，外務部尚書那桐の招きに応じ北上する事に決せしを以て今夕会談を求め来る。五時病を勉て之に赴く。夜に入りて帰る。心気甚だ不舒。
十一月十五日　晴。熱三十九度五分。篠崎の来診を乞ふ。
十一月十六日　晴。熱三十九度上下。
十一月十七日　晴。是日試験の結果腸窒扶斯病と確定す。根津，西本来訪。
十一月十八日　晴。熱三十九度以上。夜に入て苦悶，終夜眠る能はず。
十一月十九日　陰。病勢依然。此夕篠崎病院に入院す。五時井手と馬車より赴く。
十一月二十日　陰。熱三十九度九分。根津一，西本，井手兄，上田，牛島来問。
十一月二十一日　陰。三十九度九分。井手兄弟，白岩，牛島来訪。夜根津来問。
十一月二十二日　熱三十九度二分。根津一，白岩，井手兄弟，牛島，上田，安河内，太原，神津，田岡，深澤，山田，根岸，渡辺，森，香月，渡部等来訪。
十一月二十三日　晴。是日より熱度漸く降下す。白岩夫人菓子を携へ来問。滬報館井手以下来問。
十一月二十四日　晴。心気頗佳。安河内，森，井手列来問。
十一月二十六日　晴。是日始て平熱となる。井手列来問。
十一月二十七日　陰。平熱。井手列来問。森来訪。
十一月二十八日　晴。熊本留守宅，田鍋，細谷，鳥居に発信す。
十一月二十九日　晴。汪康年来問。夜吉永葡萄酒を贈る。西田，渡辺，吉田，渡部，森来問。
十一月三十一日　晴。是日少しく発熱。井手列来問。
十二月一日　晴。三十七度三四分の熱有り。
十二月二日　漢口橘，緒方の見舞状到る。井手列来問。
十二月三日　熊本留守宅，多田の信到る。井手，吉永来問。
十二月四日　上田来問。漢口橘，浅井，熊本留守宅に発信す。
十二月五日　岡野来訪。井手以下来問。是日退院の予定なりしも少許の熱有るを以て延期す。
十二月六日　晴。午後始て入浴す。夜に入て熱三十七度六分。井手，牛島等来問。
十二月七日　晴。渡部正雄来訪。
十二月八日　晴。立花政樹来問。井手以下来訪。南京菊地謙二郎，柳原又熊の見舞状到る。上田来訪。
十二月九日　陰。岡幸七郎，井手友喜来訪。岡は昨夜北清より陸路来着せりと云ふ。午後二時退院。滬報館に帰る。緒方二三在り，本日来着せりと云ふ。熊本留守宅の信並に内人より所贈の菓子及び衣類を交付す。夜汪康年来訪。海軍軍令部より見舞状，京都狩野直喜の見舞状に接す。
十二月十日　晴。緒方，池田勇来訪。
十二月十一日　姚文藻来訪。伊集院及び熊本留守宅に発信す。田鍋の信到る。
十二月十二日　陰。篠崎に至り，転じて渡部，香月，吉永を訪ふ。夜篠崎の招邀に聚豊園に赴く。九時帰る。村山正隆来訪。
十二月十三日　陰。岡と同文書院に至り，正午帰る。中野熊五郎来訪。蘇州白須直，熊本河口の見舞状至る。
十二月十四日　山本瀧四郎，中野熊五郎来訪。午後正金に至り軍令部の送金三百十円八十銭を受取り之に銀百円を加へ両替店に至り日本貨幣三百五十円に兌換す。小田切を訪ふ。夜山本瀧四郎の帰国を送

り，村山，篠崎を訪ふ。

十二月十五日　午後姚文藻を訪ふ。帰途汪康年を敲く，在らず。

十二月十六日　陰。井口忠来訪。昨夜来着せりと云ふ。留守宅の信到る。漢口橘より巴緞二疋送来。汪康年来訪。大原，神津来問。

十二月十七日　晴。午前白岩夫人を訪ひ，去て篠崎を敲き帰る。内田岳父君の信至る。篠崎，佐久間に病中の礼物として巴緞二疋，煙草一匣並に下女金若干及び入院料四十五円を払ふ。夜井手の招宴に酔月亭に赴く。北京澤村の信到る。

十二月十八日　晴。午後汪康年来訪，万年春に招待す。予明日此地を辞し熊本に帰らんとす。行李を収拾す。田岡政樹，西本来訪。晩篠崎，佐久間の両医並に井手，岡，牛島，上田，井手を杏花楼に招き支那料理を饗す。八時散ず。汪康年の招宴に万年春に赴く。魏，楊，外一名の陪客有り。九時辞帰。安河内来訪。

十二月十九日　晴。土曜日。午前十時滬報館を出で博愛丸の一等室に上る。井手兄弟，小田切領事，篠崎，佐久間，岡，牛島，上田，三宅，安河内，根岸，山田，森崎，渡部，渡邊，香月，土井，堀，澤村，秦，中野，平岡，汪康年，村山，千葉等来り送る。十一時半開船。是日四時比より波濤頗る高く船暈頻に催す。一吐して臥す。夜に入て狂瀾船を蕩し苦悶殊に甚し。終夜眠る能はず。井上清秀来談。

十二月二十日　陰。船体動揺，昨日よりも甚し。食事意の如くならず。晩に至て稍や安し。夜小説を読み十時寝に就く。十二時前船長崎港外に達す。

十二月二十一日　微雪。暁に窓を推せば崎陽の諸山皆白頭矣。八時検疫終はり税関を済まし，十時土佐屋に投ず。尾越辰雄，田邊辰雄等在焉。上海井手列，南京菊地，柳原，蘇州白須，牛荘松倉，北京澤村，東京根津，田鍋，佐々，伊集院，京坂土屋，鳥居等に発信す。

十一月臥病後諸友の来信にして日記に載するを忘れたるも左の如し。守田利遠，篠原邦威，緒方二三，田鍋安之助，中西太善，鳥居赫雄，三浦喜傳，亀雄，橘三郎，浅井平吉等の信書なり。

夜吉川季二郎来訪，酒を汲で談ず。

十二月二十二日　晴。午前九時土佐屋を出て停車場に至り，熊本行の一等に上る。午後六時五十分池田着。藤本，牛島正巳来迎。上車，千反畑の宅に帰る。

十二月二十三日　晴。午前牛島，岳父君来問せらる。晌午出て牛島，中西，藤本，河口，井芹，大江を歴訪して帰る。夜河口来訪。

十二月二十四日　健晴。井口，上野，津野，山田，武藤を訪ふ。井手宅並に篠原，島田に発信す。午後米原，田中，内田に致書す。夜牛島正，河口，津野，上野来訪。

十二月二十五日　晴。井上致廣来訪。午前山田を訪ふ，在らず。篠崎邦威来訪。鳥居の信到る。午後徳田，島田，小笠原来訪。晩に至りて去る。

十二月二十六日　晴。軍令部伊集院の信到る。中島美喜雄，牛島正巳来訪。中島の依頼に応じ若林某の為め安慶佐久間浩に発信す。韓国木浦葉室に致書し時局切迫を報ず。

十二月二十七日　晴。午前白岩，藤本来訪。午後出て狩野直喜を訪ふ。昨夜帰来せりと云ふ。外出中山田珠一，中西太善来訪。京都土屋員安，天草田中清司の信到る。

十二月二十八日　微雨。午前井手理七郎氏来訪，河口，奥村，島田，武藤，小笠原等来訪。井手，奥村，河口を留て中食す。鳥居，井手，松山嘉一郎，亀雄，緒方の信到る。軍令部伊集院に復書す。昨日佐々友房氏の信到る。夜山田九郎来訪。

十二月二十九日　微雨。八時河口と徳尾に猟す。小鳥九羽を獲，五時帰る。狩野，島田来訪。

十二月三十日　健晴。徳田生来り，雉子一羽を贈る。

十二月三十一日　晴。夜市上に至り物品数点を購ふ。是日三十六年尽日たり。残燈夜を守り十二時過ぎ就寝。

除夜
又無債免来敲門，守盡残燈対酒罇，身世始終莫通塞，人間孰若布衣尊。

３．明治 37 年 1 月から 12 月までの日記

この年の日記は，「甲辰日誌」と題した一綴じになっている。宗方は前年暮れに日本に戻り，熊本で新年を迎えた。そして正月早々に伝わってきたのは，東亜同文会会長近衛篤麿の死であった。そのために弔意を示してはいるものの，東京から離れていると割り切っているためか，数日後からは頻りに猟に出かけている様子が知れる。

2 月 10 日以降になると，日本の軍艦がロシア軍艦を撃沈したというニュースが入ってきて，宗方の周辺では従軍を希望して彼の紹介を頼りにしている熊本県出身者がいることが書かれるようになる。宗方は 15 日に上京して，熊本で頼まれた通訳官の申し込みの書類を陸軍参謀本部の福島安正に届けており，逆に福島からも通訳官になれそうな人物を紹介してくれるように頼まれている。この時は 3 月 12 日まで東京に滞在し，さらにいったん熊本に帰った後 4 月 18 日から 5 月 26 日までを東京で過ごし，この 2 回の在京中に従軍希望の熊本県人を紹介することに精を出すとともに，海軍軍令部と同文会にも何度も顔を出している。この間，かつて漢口楽善堂で知り合った仲間に対する付き合いも欠かしておらず，阿部野利恭のためには，福島に頼んで第三師団司令部への従軍許可を得ており，宗方の紹介があってのことかは不明であるが，緒方二三は第二軍軍政員として従軍し，高橋謙は手紙で軍政委員付として出征すると言ってきたことを記し，片山敏彦は訪ねてきて戦地に行くと話したという。漢口楽善堂の仲間がその解散後それぞれどのような道を歩んだかを知るのは興味あることで，そのためのかなりの情報を宗方日記から得ることができそうである。4 月から 5 月にかけての在京中の出来事で他におもしろいのは，5 月 4 日に宮崎寅蔵（滔天）の使いの者がやってきて，宗方と井手三郎に「若干の融通を求」めたこと，同 8 日に海軍勝利を祝う提灯行列があったことを記していることである。

この年 3 度目の上京は 7 月 18 日から 8 月 31 日のことで，この時には東亜同文会の会議や他の行事に盛んに出ている様子を知ることができる。7 月 21 日に長岡らに東京での活動に尽力してくれと勧められたことは，前年の解題中に触れたことだが，数日おきに開かれる幹事会に出席し，評議会，春季大会にも出席している。また，東亜同文会が主となり清国公使以下各省から派遣されている留学生監督を招いた宴会があり（8 月 10 日），胡玉縉ら湖北から来た数人の客を招く宴会もあって（8 月 21 日），この辺の東亜同文会の活動，その中での宗方の役割等については，今後同会の記録によって確かめる必要がある。さらには，東亜同文書院入学式に参加し（8 月 26 日），上海への出発を送っている（8 月 30 日）。在京時の他の動きとしては，のちの熊本細川家の当主となる細川護立の誘いで実施された 8 人のグループによる富士登山に参加，東京から電車で移動するところから始まって登山の様子を詳しく記している（8 月 13 日～15 日）。中国各地で観察しては記録を残してきた宗方の面目躍如たる詳細な文面となっている。

熊本に帰ってからは，すぐに細川護全が日露戦争で戦死したことを知り，細川家並びに護全が養子として入っている長岡家に弔電を発している。また，細川の戦死に前後して知人あるいはその息子の戦死が伝えられたことも日記に記している。さらには，11 月 23 日に根津が熊本に訪ねてきて，宗方に東亜同文書院の院長代理になることを勧め，数日後には承諾したと返事をし，12 月 22 日には上海に着いて，さっそく書院の仕事の引き継ぎを行い，そこで年越しを迎えるのである。

最後に，海軍あて報告の号数と日付けを日記から拾うと，次の通りである。なお，『宗方小太郎文書』（原書房，1974 年）中に収録されている報告類と照らし合わせて，そこには日付けが書かれていないもの，あるいは収録されていないものについては，日付けあるいは号数の前に＊印をつけることにする。

12 月 24 日―第 139 号，12 月 26 日―140 号，＊12 月 31 日―141 号。

明治三十七年
甲辰日誌

正月元日　晴。早起。儀式を終はり，親戚知友を歴訪して正を賀す。正午県会議場の名刺交換会に臨む。会する者六百人。

元旦

流年一夜尽，天地入新寿，椒酒微醺足，淑光属逸民。

正月二日　晴。午前篠原，奥村金，永原，藤森，徳田等来訪。午後小笠原，狩野，津野等来訪。晩食を共にし夜に入て去る。内地及び清韓の友人に賀状を発す。

正月三日　晴。各地友人に年賀状を郵寄す。午後知人を歴訪し賀正す。

正月四日　晴。午時佐々干城氏来訪。元日以来各地友人の年賀状続到するも，其姓名を省て録せず。夜香山俊雄兄弟来訪。

正月五日　晴。午前五時河口等と熊本下り一番より松橋に至り，湊山に猟す。小鳥四羽を獲，七時帰る。井手兄弟，其弟病危篤の電報に接し，四日の夜帰熊の報に接す。是日近衛篤麿薨去の事（二日薨）を知悉す。

正月六日　晴。近衛公邸に弔状を発す。井手に致書す。赤星赤水来訪。

正月七日　晴。午前六時より河口と梶尾，徳尾地方に猟す。寒威凛烈，堅氷在髯。午後五時帰る。小鳥三羽を獲。同文会より近衛公の訃を伝へ来る。

正月八日　晴。井原真澄来訪。夜牛島，河口来訪。牛島を留て晩餐す。是夜日露艦隊対馬海峡に衝突の号外を伝へしも虚報たり。

正月九日　陰。島田数雄，徳田来訪。島田を留て中食を共にす。午後牛島，井場来訪。

正月十日　晴。熊本駅下り一番にて河口外一人と松橋より久具地方に猟す。鳩一羽，小鳥六羽を獲，六時帰る。安原金次の信到る。狩野来訪。

正月十一日　晴，風日如春。午前七時牛島と共に井手を中島村に訪ひ，午後二時辞帰。帰途春日に松倉親敬を訪ひ，五時帰宅。鳥居赫雄の信到る。河口の大坂朝日新聞通信員の件に付き云云し来る。夜河口来訪。他出中狩野来訪せりと云ふ。

正月十二日　健晴。午前狩野直喜を竹部に訪ひ，小午帰る。島田数雄在り。午後緒方二三，白石卯一来訪。緒方は本日清国より帰来せりと云ふ。夜牛島を招き晩餐す。夜歌留多会を為す。

正月十三日　陰。在外諸友の年賀状に答ふ。大阪烏居に復書す。午後阿部野利恭，島田来訪。阿部野一昨夜満洲より帰来せりと云ふ。晩阿部野の招邀に赴き，九時帰宅。雨。

正月十四日　晴。阿部野来訪。午後中村六蔵，狩野直喜来訪。夜家族を携へ東雲座に活動写真を観る。十時帰る。

正月十五日　晴。午前牛島来訪。午後阿部野宅に至り，直に帰る。夜大江を訪ふ。

正月十六日　晴。土曜日。林市蔵の信到る。井原真澄，山田九郎，小笠原昂来訪。池内源七来訪。

正月十七日　晴。小笠原昂，中島美喜雄来訪。

正月十八日　晴。是日家族を携へ日奈久温泉に浴せんとす。午前九時半の熊本下り汽車に乗ず。十一時八代着，茶店に投じて中食し，車を賃して日奈久に至り柳屋新宅に投宿す。時一時半なり。秋山運次郎来訪。

正月十九日　晴。午前阿部野を筑後屋に訪ふ。夜阿部野来訪。海辺に散歩し湯の神に展す。

正月二十日　微雨。阿部野を訪ふ。夜阿部野，秋山，杉山等来訪。朝出猟，鳩一，小鳥三羽を獲。

正月二十一日　陰。朝出猟，獲る所無し。阿部野を訪ふ。夜阿部，秋山，杉山来訪。

正月二十二日　雪。井手，狩野，安原に発信す。上海白岩に復書す。阿部野，秋山列来訪。

正月二十三日　陰寒。阿部野来訪。
正月二十四日　陰。是日阿部野等熊本に帰る。其の上京に托し軍令部上泉，大阪鳥居に致書す。晌午阿部野の帰熊を送り，別に伊集院宛の一書を托す。
正月二十五日　朝雪。井手三郎の信到る。
正月二十六日　晴。秋山運次郎熊本に帰る。御前湯に入浴す。午後出猟，小鳥七羽を獲。
正月二十七日　晴。午前十一時柳屋新宅を辞し上車，帰途に就く。八代の旅亭に休憩し，松井神社を観，去て征西将軍の祠に展し，市内を徜徉して旅店に帰り中食し，午後二時四十二分の汽車に乗じ，四時熊本駅に達し上車，家に帰る。
正月二十八日　晴。午前阿部野，秋山来訪。之を留て中食を饗し，共に出て市原，牛島，緒方，阿部野，安達，渡邉，河口等を訪ひ，五時帰宅。井手，横田，大内に復書す。夜大江を訪ふ。
正月二十九日　晴。午前市原，徳田来訪。韓国葉室諶純より雁一羽贈り来る。午後渡邉寅次郎，牛島，小笠原来訪。葉室に復書し，平壌真藤に弔詞を発す。京都狩野の信到る。狩野に復書す。
正月三十日　雨。黎明河口と保田窪に猟し，小鳥八羽を獲。安徽佐久間浩，高橋謙，井手の信到る。留守中生田清範，鳥居熊四郎，香山等来訪。晩緒方，市原，牛島を招き雁を会食す。井手の信到る。
正月三十一日　晴。朝春日に至り，井手の上海行を送る。香山，永原，中村来訪。井手友喜，島田亦来訪。
二月一日　晴。島田数雄，山田珠一来訪。井深，高垣の信到る。
二月二日　半晴。五時四十七分下り汽車にて宇土に至り，伊津野に猟す。午前に小鳥十五羽を獲。晌午島田を新開橋本方に訪ひ中食し，四時二十二分の汽車にて帰る。
二月三日　雨。大内暢三，澤村幸夫の信到る。米原，鳥居，高橋，澤村に致書す。東京阿部野の信到る。
二月四日　晴。市原来訪，中食後去る。
二月五日　晴。春日発一番にて宇土山に猟す。小鳥十八羽を獲，五時帰る。篠原来訪。日露の関係大に迫り，是夜第六師団動員令を発す。夜緒方二三来訪。
二月六日　晴。京都狩野の信並に東京阿部野の電報至り余の上京を促す。阿部野に致書す。牛島，小笠原，永原，津野前後来訪。大阪鳥居の信到る。
二月七日　晴。佐々干城，村山某，竹下意誠，小笠原昂来訪。島田，阿部野の信至る。
二月八日　晴。中村六蔵，佐々干城，池部秀二来訪。夜河口，山田九郎，牛島正巳来訪。上海井手，岡，柳原の信到る。
二月九日　晴。井手，岡，佐久間浩，中島美喜雄に発信す。高橋謙，大内，狩野に復書す。午後中島美喜雄，島田，小林，牛島来訪。二時中島同伴米穀取引所に至り配当金を受取り，緒方を訪ふ。晩餐の饗を受け，九時帰る。
二月十日　晴。是日東京電報にて，去八日午前十一時日本艦隊，露国艦隊を旅順港口に攻撃し，露艦二隻を轟沈せしを報ず。又た昨九日午前九時を以て総攻撃を為せりと云ふ。島田数雄来訪。東京阿部野，亀雄，佐世保勝木の信到る。亀雄よりは近衛に入隊せしを報じ来る。夜風雨。
二月十一日　晴。紀元節。午前牛島，徳田来訪。篠原の信到る。東京田鍋，亀雄に発信す。白石来訪。東京佐々氏の電報到る。之に復す。宣戦の詔勅を公布せらる。露国軍艦数隻を去九日旅順口に轟沈す。
二月十二日　晴。中村六蔵来訪。今夜上京の途に就かんとす。行李を戒む。大野慎五郎，篠原邦威来訪。篠原に托し金十七円を宇土奥村宅に送る。牛島来訪。津野，上野来訪。
夜九時半家を出で上熊本駅に至り十時十三分の汽車に乗ず。牛島，中島，不破来送。
二月十三日　晴。午前八時門司に着す。九時半馬関に渡り，上り汽車を待て午後二時四十分に至る。
二月十四日　晴。午前六時半神戸に達す。新橋行の汽車に換坐し七時六分開車。

二月十五日　晴。午前九時新橋に達す。阿部野，市原，佐々木旅館主人来迎。午前岡本源二来訪。四人中食を共にす。熊本山田珠一の電報到る。午後美作為次郎来訪。夜市原来談。熊本留守宅，古城，山田に発信す。

二月十六日　夜来雨。午前海軍々令部を訪ひ，去て根津一を同文会に敲き，晌午帰寓。徳冨猪一，山田珠一，牛島正巳に発信す。午後田鍋を訪ひ，去て佐々氏を敲き，五時帰る。夜井口忠二郎来着，漢口よりする者なり。

二月十七日　夜来の雪積て数寸に至る。大阪鳥居に発信す。池辺，林，内田，亀雄，島田に信片を発す。午後美作来訪。夜岡本源次，田鍋安之助来訪。狩野に発信す。

二月十八日　晴。午前井上雅二来訪。古城，内田，山田珠一，徳冨猪一郎の信到る。山田，篠原，牛島，勝木に発信す。

二月十九日　晴。午前岩崎博隆，秋山運次郎来訪。午後出て佐々氏を訪ひ，去て参謀本部に福島，小山を訪ひ，熊本其他各地より依頼されし通訳官の申込を為し，去て根津を訪ふ，在らず。四時半長岡子爵の招宴に浜町の邸に赴く。饗応具に至る。八時辞帰。

二月二十日　晴。熊本井上致廣に発信す。午前林市蔵来訪。十時林等と出て第一軍司令部附にて出発の木下宇三郎，萩野末次郎を品川に送り，帰途泉岳寺に展して帰る。午後内田友義，澤村大宇，清藤幸七郎，平山氏清，古荘弘，井原真澄来訪。夜池邉吉太郎来訪。内田，澤村，池邉を留て晩食す。高岸英甫，佐々氏の紹介状を携へ来り訪ふ。深更土屋員安来着。

二月二十一日　陰霾，風大。鳥居赫雄，山中寛太郎，岡次郎の信到る。午前佐々氏を麹町に訪ふ。午後海軍省に出頭す。熊本山田珠一に致書す。内田友義の信到る。徳冨猪一郎来訪。夜土屋等と会食す。志田力二来談。井原に発信。

二月二十二日　晴。熊本留守宅，小笠原昂，井手三郎に発信す。田鍋，古城の信至る。午前岡本来訪。牛後古城貞吉来訪。土屋，阿部野，市原，井口等と会食す。夜田鍋，井上来訪。熊本留守宅の信並に岡幸七，井手，高橋，木下賢良の信到る。夜雨。

二月二十三日　晴。清藤幸七郎，岩崎博隆来訪。午後秋山運次郎来訪。二時出て海軍々令部に至り伊集院次長，伊東軍令部長，井ノ内，伊集院等を訪ひ，去て同文会に根津を訪ふ，在らず。参謀本部に福島少将を訪ひ小談，去て小山秋作を訪ひ，転じて佐々友房氏に抵る。津田静一氏在焉。黄昏辞帰。不在中阿部充家来訪せりと云ふ。熊本留守宅，篠原，井手三郎，真藤義雄の信並に山中寛太郎の電報至る。是日参謀本部福島より通訳官撰挙の委托を受け，熊本，鹿児島，福岡，大分各地の諸人に致書す（高橋，小濱，青木，山中，木下賢良）。緒方に発信し本人並に熊本清語生の履歴郵送を促す。

二月二十四日　雨。徳田，清藤，高岸に発信。外に上海姚文藻に致書す。小銃売込の件を依頼す。牛島，勝木の信到る。頭痛頗烈，午後就褥。佐賀鉄次郎，高岸英甫来訪。上海井手三郎に発信す。夜田鍋来訪。高島義恭，阿部充家に発信す。

二月二十五日　雨。鳥居赫雄，篠原，池部の信到る。午前海軍軍令部に至り二，三，四，三ヶ月分の手当金四百円を受取り，参謀本部に堤，隈部を訪ひ，去て佐々氏を敲き中食を為し，二時半帰寓。矢田部甫一郎，森井國雄来訪。参謀本部福島安正に熊本諸子の履歴書を郵致す。外に鳥居赫雄，熊本留守宅に発信す。

二月二十六日　朝雪。木下賢良の信到る。之に復す。伊集院，高岸に発信す。

二月二十七日　飛雪紛々。朝清藤幸七郎来訪。秋山運次郎来訪。午前根津一来訪，酒を命じて飲む。夜に入て帰る。緒方二三，井上致廣，山中寛太郎，熊本留守宅の信到る。高岸来訪。

二月二十八日　雨。土屋群馬より帰来。朝鮮葉室，河内米原，石川堤並に内田友義に致書す。水谷彬，篠崎都香佐来訪。篠崎，内田を留て中食す。午後二時半小石川茗荷谷有斐倶楽部の会に赴く。会する者細川護立公子を始とし岡本，林，八田，古城，土屋，阿部野等なり。十時散ず。他出中高島義恭来訪

せりと云ふ。

［ここから先の記録に続いて3月9日の記録になっていることから，3月1日から同8日の途中までの記録が欠落していると推定される］

昨夜徳田生熊本より来着。井手三郎に発信。徳冨より依頼の書物売捌の事を依頼す。是日徳田を丸山重俊に紹介し，本人を朝鮮に遣す事を依頼す。熊本山田珠一，鹿児島小演為五郎の信到る。勝木恒喜の信到る。京都土屋員安に発信す。井上良蔵，東亜同文会の信到る。夜橘三郎来訪。松倉善家に発信す。

三月九日　晴。八時東亜同文会の幹事会に臨む。長岡子爵，恒屋，柏原及予なり。十一時軍令部に伊集院を訪ひ帰県の事を副官に告げ，参謀本部に小山を訪ひ，福島に小濱並に熊本諸人の履歴書を出し阿部野の事を依頼し帰る。山田珠一に復書す。熊本留守宅に帰県を報ず。鹿児島安楽平治の履歴書を送り来る。木野村政徳，郡島忠，高須熊雄来訪。夜秋山，橘，久保来訪。

三月十日　陰。午前高島義恭来訪。土屋，篠原の信到る。午後木下賢良来訪。二時八田，岡本，古城を訪ふ。晩内田，澤村，岩田衛，奥村政雄，兼松来訪。内田，沢村を留て晩食す。九時阿部野，市原熊本に帰去す。山中寛太郎に発信す。

三月十一日　雨。九時林市蔵を牛込に訪，内田保証人の事を依頼す。林は明後日より山口県書記官に転任する者なり。佐々氏を富士見町に訪ひ，十二時帰る。兼松磯熊来訪。熊本留守宅の信，北京岡幸七郎の信到る。同文会柏原，麻布内田友義に発信す。水谷彬，山下稲三郎，橘三郎，田鍋安之助来訪。夜篠崎都香佐来訪，酒を命じて飲む。内田に保証人本荘寿臣氏に確定せし事を報ず。

三月十二日　陰。青木喬の信到る。午前田鍋安之助来訪。午後末永一三来訪。午後和田純，亀井英三郎，雨森秀来訪。夜八時半旅館を辞し，新橋に至り九時半の汽車に上る。和田，井口，池橋六三郎，大畑，田鍋等来送。

三月十三日　雨。夜十一時二十分神戸着，山陽汽車に換坐し同五十分発，新橋より陸軍監督隈徳蔵と同車す。第一箪兵站経理部長として渡清する者なり。此他中野熊介等と同車たり。

三月十四日　晴。夜十一時十分馬関着，十二時門司に着す。熊本行終列車に後れ終に門司友屋に一泊し，沼津よりの同行者たる海軍少佐　と同宿す。

三月十五日　晴。午前六時半　と一番下り汽車に乗ず。博多にて　に別れ，午後一時上熊本駅に達し，二時帰宅。松倉善家，緒方二三来訪。夜河口来訪。

三月十六日　陰。平井，佐野，岳父，池部秀，牛島来訪。白石卯一，山田珠一来訪。夜大江を訪ふ。

三月十七日　風雨。午前九時半春日下りの汽車にて松橋に至り，車を賃して塩浜に赴き田畑宅老媼の葬儀に臨む。午後五時松橋に出で七時の汽車にて熊本に帰る。留守中中島美喜雄，本田選，松田源太郎等来訪。山中寛太郎，本田清人，山田珠一，葉室諶純，内田友義の信到る。

三月十八日　雨。三澤信一，戸田義勇，佐々木利助，亀雄等の信到る。台湾本田に復電す。佐野直喜，緒方二三，阿部野来訪，留て中食す。藤本親信来訪。午後五時山田珠一の招邀に静香軒に赴き，八時帰る。荘村秀雄，河口介男来訪。

三月十九日　雨。本田選，松田源太郎，阿部野利恭来訪。高橋謙，葉室諶純，山根武亮に発信す。橘三郎，井上致廣来訪。午後三時橘と松倉を春日に訪ひ，五時半帰る。此夕橘より案内有り，之を辞す。夜西峯次来訪。井手三郎，勝木恒喜の信到る。

三月二十日　晴。日曜日。午前四時起床。河口外一人と池田に至り，一番上り汽車にて植木より木留に猟せんとす。軍隊輸送の為め一番の発車を停止せしを以て成道寺を経，山を越て東門寺に至り，隆福寺を経て木留に出で，吉次峠を越へ山北に至り，更に転じて木留に至り四時十七分の植木発汽車にて帰る。獲る所只小鳥一羽のみ。上海井手の信到る。篠原の信到る。緒方，中村六蔵，市原源次郎等来訪せりと云ふ。夜中村氏来談。

三月二十一日　半晴，降雪少時。松田源太郎，上野，津野，永原，牛島，阿部野，島田等来訪。

三月二十二日　晴。午前小山秋作に発信す。牛島，中島，山下五郎，渡邉憲重来訪。本田選，山田九郎来訪。午後出て橘三郎を研屋に訪ふ，在らず。去て阿部野を敲き，転じて緒方，小笠原，中島を訪ひ，再び阿部野宅に帰り島田と三人山下五郎紅葉屋に訪ひ，其の東道にて慶亭に会飲し，九時半帰る。市原，町野，神の江等在り。勝木，林田晴義の信到る。

三月二十三日　晴。中村六蔵，小笠原昂来訪。午後八代人木附鎮定来訪。多田，佐野直喜，佐々友房，姚文藻の信至る。

三月二十四日　夜来の雨，午に至て晴る。佐々友房，勝木，井田に復書す。佐野直喜，高橋長秋清韓漫遊の途に上らんとするを以て，小田切，水野，伊集院，永瀧四領事並に井手，渡部，香月，飯塚，澤村，角田等に宛たる紹介状を佐野に郵致す。大阪鳥居の信到る。二十日広島出発戦地に向ひしを報ず。緒方，阿部野，白石来訪。夜市原来訪。京都関口隆正の信到る。

三月二十五日　晴。篠原，佐々に信片を寄す。高橋謙の信至る，之に復す。午後毛利篤，井手友喜来訪。

三月二十六日　晴。午後五時四十七分の汽車にて小川に至り，本田選を江頭に訪，其甥某を帯道として海東に至り馬場憲彦の家に小休し，其弟の案内にて近山に猟す。午前中只小鳥一羽を獲たるのみ。馬場宅にて中食し，午後四時小川に帰り本田の家に抵る。晩盛饌を具して歓待す。夜に入て雨。九時二十七分の汽車にて熊本に帰る。阿部野，市原，島田，宅島等来訪せりと云ふ。

三月二十七日　春雨霏々。上海井手の信到る。午前上車春日に至り井手友喜の上海行を送る。午前阿部野宅に至り，中食後阿部野，島田，小林等と出て緒方を本荘に訪ひ，春竹の花壇を巡覧し，再び緒方の処に帰り晩食の饗を受け帰る。

三月二十八日　晴。午前勝木恒喜，牛島正巳来訪。本田選，馬場憲彦，小山秋作に発信す。夜市原来訪。

三月二十九日　晴。午前阿部野来訪。松田満雄の信到る。伊集院，関口隆正に発信す。午後島田来訪。一時家族と子飼の渡を度り間道水前寺に遊ぶ。一路菜黄緑麦，春色如海。水前寺境内を散策し涼泉亭に休憩し晩食を弁じ，去て佐々干城氏を訪ひ，五時帰宅。松田源太郎来訪。台湾本田清人の信到る。

三月三十日　雨。午前六時より猟装，雨を冒して中島村に至り井手宅を訪ひ，荒神藪にて小鳥を猟し，井手家に中食し，午後四時帰途に就く。小鳥十五羽を獲。七時四十分帰宅。緒方，阿部野，松田源太郎等来訪せりと云ふ。

三月三十一日　晴。午前緒方，荘村，鍋島五三郎，阿部野，佐々干城来訪。佐々，緒方阿部野を留て中食を共にす。戸田義勇の信至る。夜永野金十郎，徳田廣作来訪。徳田は其母病気の電報に接し，本夕東京より帰来せる者なり。

四月一日　晴。澤村雅夫来訪。午後阿部野を訪ひ，本人及び市原と出て緒方を誘ひ，春竹に至り楓樹両三株を購ひ帰る。鍋島五三郎，松倉善家の信並に徳田廣作の母堂の訃至る。

四月二日　晴。午前不破昌材来訪。明日より小川駅長に転任すと云ふ。

四月三日　晴。午前五時より河口と高田附近に猟す。小鳥十二，くい十一羽を獲，七時半帰る。牛島，勝木，池部等来訪。

四月四日　微雨。阿部野来訪。松倉に復書す。市原，勝木，牛島，池部前後来訪。徳田来訪。長岡子爵に発信す。韓国葉室，北京岡の信到る。夜池田勇，緒方，阿部野来訪，小飲深更に及で帰る。

四月五日　晴。菊地謙二郎，柳原，鍋島五三郎，山中寛太郎，井手友喜，牛島吉郎の信至る。牛島正巳来訪，従軍許可せられしを報ず。東京福島安正に鍋島生の履歴を郵送す。山中寛太郎，鍋島五三郎に復書す。兼松磯熊の信到る。夜山田直熊来訪。

四月六日　晴。朝阿部野来訪。第三師団司令部に従軍許可の電報に接せしを以て明日広島に向て出発すと云ふ。夜大江を訪ふ。勝木並に熊本毎日新聞社員三島真吾来訪せりと云ふ。小山秋作の電報至り井手の住処を問ふ，之に復す

四月七日　晴。午前牛島，阿部野を訪ふ。山田珠一来訪。午時勝木来訪。米原，土屋の信至る。午後阿部野，緒方，池部来訪。篠原邦威来訪。五時池部武宅の招邀に赴く。七時半帰。同座は田口政五郎，坂口元雄，千田一十郎，深水平五郎，稲田，勝木等なり。夜池田駅に至り阿部野，牛島の従軍の為め広島に赴くを送る。

四月八日　晴。高橋謙，松本亀太郎，本田清人，篠原祐喜の信至る。高橋，松本，本田，林田晴義に復書す。午後家族と白水の畔に散策す。花紅柳緑，春色如海。四時帰る。小森田某，藤森茂一郎来訪。留守中勝木来訪。従軍の為め明日出発の事を告げしと云ふ。南京菊地謙二郎に復書す。

四月九日　雨。午前市原，町野来訪。午後第九支店に至り預金五百円を受取り山田を訪ふ，在らず。去て津野を敲き，五時帰る。篠原邦威，安楽平治，小川辰五郎の信到る。夜松田源太郎来訪。福島安正に致書，小川の履歴を送る。佐々友房氏の電報至り余の上京を催促す。

四月十日　晴。午前藤井安俊，町野晋吉，岩木，西峯次来訪。午後篠原，藤森茂一郎来訪。藤森に金五百円を三十九年十二月迄預く。藤森，篠原を留て晩食す。夜井嶋義雄，市原源来訪。本田選，佐々友房氏の書信到る。

四月十一日　晴。午前井芹経平，中村六蔵来訪。広島阿部野利恭の信到る。午後緒方二三，牛島貫吾，山下五郎来訪。

四月十二日　陰。午前宇土に至り法華寺城山の先塋に謁し，帰途林田晴義，篠原邦威，宮原義雄等を訪ひ，篠原の処にて中食し，三時半の汽車にて帰る。小山秋作の電報，松倉，井口，岩木豊太，鍋島の信至る。本田選，山中寛太郎に発信す。留守中山田珠一，毛利篤来訪せりと云ふ。阿部野，高橋，鍋島に十五日出発の事を報ず。

四月十三日　晴。午前岳父君，田畑，池田勇，中島来訪。北京岡幸七郎，広島阿部野，韓国亀雄の信到る。午後小林政，本田選，白石卯，三島来訪。東京佐々木旅館に発信，十七日着京を報ず。池部武，町野晋吉，西峰次等前後来訪。京都松田満雄の信到る。松田，安楽に復書す。中村六蔵氏来訪。夜家族と市内を散歩す。山中寛太郎の電報至る。

四月十四日　雨。午前毛利篤，上田賢象，町野健古来訪。午後二時市原源二郎の家君の葬に阿弥陀寺に会す。帰途山田を訪ひ帰る。午後藤本，岩木，井芹，青木，松田源来訪。本田選の電報至る，之に復す。岡本豊喜の為に韓国佐々正之，仁川前原厳太郎の紹介状を作る。別に中村六蔵氏を市原に紹介す。

四月十五日　雨。午前八時半家を出て上熊本駅に至り九時十二分の汽車に乗ず。牛島貫吾，池田勇，緒方二三，松岡源太郎，中島美喜雄，町野晋吉等来り送る。午後四時半門司着。鍋島五三郎来迎，其家に導き晩餐を饗す。六時辞して馬関に渡り七時十五分の上り列車に乗ず。四時半広島を過ぐ。

四月十六日　陰。午後六時四五分神戸着，七時六分の新橋行汽車に乗ず。十時京都着。松田満雄来迎，其勧に因り下車，七条東洞院の寓に投宿す。

四月十七日　晴。午前十時七分の汽車に上る。松田同行たり。旭谷巌来り送る。車中青木喬に邂逅す。

四月十八日　晴。午前九時十三分新橋着。佐々木旅館主人井口外一名来迎。佐々木に投宿す。井口，水谷，松倉，上田仙太郎来訪。上田は近頃露国より帰りし者なり。午後佐々氏を訪ふ。鋳方，安達等に邂逅す。夜岡本源次，深水十八来訪。山中寛，本田選，田鍋安之助の信到る。田鍋は北京に向て出発せりと云ふ。

四月十九日　雨。午前深水十八，杉山武一，小濱為五郎，牧相愛来訪。本田選，松田源，高橋謙，熊本留守宅の信到る。午後軍令部，同文会，参謀本部福島安正を訪ひ通訳官の事を交渉し，六時帰る。井口，宅島，松田，杉山，三島真吾，高田，黒川等来訪。山中寛太郎の電報，狩野直喜の信到る。広島阿部野，北京岡幸七郎に発信す。岡には帰国の上従軍の事を勧め，福島と交渉の顛末を報ず。神戸山内嵓に発信す。

四月二十日　雨。午前上田仙太郎，小越平陸，深水十八，上田賢象，西本省三来訪。上田，西本を留て中食す。木野村，池邊に発信す。緒方，勝木の信至る。緒方に復す。熊本留守宅に発信す。市原源次郎に発信す。松田満，宅島猛雄，本田嘉種，内田友義，松倉善家来訪。六時松倉と瀬川浅之進の招邀に麹町一番丁の寓に赴く。豊島捨松亦来会。八時辞帰。途中佐々氏を訪ひ，十時半帰る。本田の電報至る。京都狩野直喜に復書す。

四月二十一日　晴。朝小林吉人，本田嘉種，三島，高田直，黒川，本田選来訪。広島阿部野，安楽平治の信到る。池邊，牧相愛，多田，清藤幸，大川愛次郎，本田等来訪。夜成田，徳田，井口，上田，西本，宅島，木野村来訪。山中寛に其従軍の事決定せしを報ず。広島阿部野に発信す。熊本緒方の電到る。

四月二十二日　晴。門司鍋島五三郎に復書す。荘村秀雄に発信す。郡島の信至る。松崎翠来訪。熊本留守宅，熊本松田源の信到る。松田に復す。阿部野，兼松の信到る。両人より二十日広島発仁川丸に乗込出征の事を報ず。午後長岡子爵を浜町の邸に訪ひ，三時辞して松倉を日本橋西河岸の福家に訪ひ，転じて小濱，草場等を芝梅川町の風柳館に敲き，同文会に至り，又去て参謀本部に福島安正氏を訪ひ，六時福家に至り松倉の処に晩食し，七時帰る。池田末雄，上田仙太郎，松田満雄，関口六三郎等来訪。長岡子爵より明日午後同文会に集会の事を報ぜらる。宇野海作，山田純三郎来訪。

四月二十三日　晴。広島牛島，神戸松本の信到る。山内嵩の信到る。松本，中島美喜雄，西峯次に発信す。午前岡本源二来訪，之を留て中食す。午後一時出て同文会に至り長岡子爵，恒屋等と会す。三時参謀本部に小山を訪ひ，転じて宮嶋大八，池邊源太郎を訪ふ。麹町細川先侯爵夫人に面す。談話時を移して辞帰。松田，吉永等来訪。夜九時新橋に至り草場，青木，市川等の出征を送り併せて井手三郎を迎ふ。佐野直記上海よりの信到る。

四月二十四日　晴。荘村秀雄，鍋島五三郎の信到る。上海姚文藻，台中本田清人に発信す。本田の帰京を催す。午前山下五郎来訪，之を留て中食す。上田賢象，上田仙太郎，松倉善家来訪。松倉を留て晩食す。熊本緒方二三の電報至る。熊本留守宅，牛島正巳，深水十八の信到る。夜井手，松倉と勧商場東明館に至り物品数点を購て帰る。山下五郎より野口文一，安田弥平次両生の履歴書を送り来る。

四月二十五日　晴天。午前九時新橋に至り緒方を迎ふ。別府真吉亦来る。帰途末永一三を木挽町二丁目の岡本に訪ひ，晌午帰寓。山内嵩の信至る。木野村政徳に発信す。夜上田賢象来訪。十時高橋謙来着。談話十二時に至り就寝。是日台中本田清人の電報至り従軍許可の有無を問ふ。直に復電，其帰京を促す。

四月二十六日　風霾，二十三日来強風，沙を揚げ黄塵満城。宅島，島田数雄の信至る。午後鋳方徳蔵，八田三郎，岡本源次，小濱為五郎，松田満雄等来訪。鋳方，八田を留て晩食を共にす。夜和田純来訪。木野村政徳の信到る。

四月二十七日　雨。白石卯一，松崎翠に発信す。木野村政徳に発信す。九時新橋に至り本田，三島，高田等の出征を送る。帰途松倉，山下を訪ひ帰る。別府真吉，大川愛次郎，恒屋盛服，池邊源太郎等来訪。四時出て鋳方徳蔵，木野村政徳，高島義恭等を訪ひ，七時帰る。熊本留守宅，松本亀太郎，井上平蔵の信到。並に台湾本田清人の電報至る。

四月二十八日　晴。杉山，上田賢，山下五郎来訪。鋳方徳蔵の信到る。夜本間錠吉，松倉善家来訪。熊本留守宅に本田清人の事に付きはがきを郵寄す。

四月二十九日　晴。松本源太郎，井上良蔵，山中貫太郎の信到る。古橋権六，深水十八来訪。鋳方徳蔵に復書す。午後松本亀太郎に復書す。水谷彬来訪。多田，柏原来訪。

四月三十日　微雨。午前高橋，井手と岸田吟香を銀座に訪ひ小談，去て小濱為五郎を芝の風柳館に敲き，正午帰る。内田友義，末永一三，大川愛次郎来訪。末永，内田を留て晩食を共にす。夜更中西正義来談。井上良蔵，藤本親信の電報至る。渡邊憲重，西峯次，中島美喜雄の信到る。

五月一日　雨。井上に復電す。午前九時半上野車站に会し，十時十分の汽車にて金町駅に下車し柴又村

の川甚に投ず。会する者細川護立公子，岡本源次，池邉源，守田愿，犬飼真平，井手，緒方，上田仙，松倉善，深水清，八田三郎，中西正義，深水十八，鋳方徳蔵及予の十五人なり。会飲三時に及で雨を衝き金町車庫站に至り上車帰寓。松田源太郎の電報，牛島正巳の信到る。藤本親信の電報至る。古橋権六，高橋謙，井手来談。

五月二日　雨。午前白岩龍平来訪。頃日湖南より帰来せる者なり。古橋，高橋，松崎来訪。熊本留守宅，岡幸七郎の信到る。藤本親信，熊本留守宅に発信す。

五月三日　晴。詰朝伊集院を麻布に訪ふ。巳に戦地に出発せりと云ふ。小山秋作を訪ひ小談，転じて白岩を信濃屋に訪ふ，在らず。同文会に至り長岡子爵，柏原と会し十二時帰る。長岡子爵より詩一首を送らる。岡本豊喜，藤本親信，白石卯一の信到る。黒澤兼二郎，多田，上田来訪。木野村，岡次郎に発信す。山下五郎来訪。守岡愿，九品介善来訪。夜井手と佐々氏を訪ひ，九時帰る。松島敬三来訪。

五月四日　西峯次に発信す。東亜同文会幹事会の通知至る。事を以て之を辞す。朝高橋謙の帰県を送る。帰途緒方等と末永一三を木挽町二岡本に訪ひ中食の饗を受け，日比谷公園を徜徉し杜鵑花を看て帰る。八田三郎外一人来訪。久保来訪。吉永逸太郎，宮崎寅蔵の使として来り，予と井手とに向ひ若干の融通を求む。因て十元を贈る。宇野海作来訪。晩國友重章の招邀に赴き，八時半帰る。清藤幸七郎来訪。岡次郎，荘村秀雄，松田満，井上良蔵，宮崎寅蔵の信，西峰次の電報至る。

五月五日　雨。午前古荘韜来訪，之を留て中食す。午後西本，松島，清藤，松崎等来訪。本田選，宅島猛雄，篠原邦威の信並に井上良蔵の電報至る。上海立花正樹の信到る。晩松田源太郎来着。深水十八来訪。市原の電報至る。宮崎寅蔵の信至る。

五月六日　陰。午前平山周来訪。大川，小濱来訪。小濱を留て中食す。午後出て松下町に散歩す。市原の電報，荘村の信到る。山中新来訪，之を留て晩食を共にす。上海篠崎，立花に復書す。京都松田満雄に発信す。夜高岸英甫来訪。

五月七日　晴。白岩龍平の信至り本夕芝浦集会の事を報ず。松本亀太郎の信到る。出征中の亀雄に発信す。岩木豊太来着。午前宮島大八来訪，之を留て中食す。午後一時同文会の幹事会に臨む。長岡子爵，根津一，小川平吉，柏原文太郎来会。議事五時に至り，辞して芝浦芝浜館の小集に赴く。白岩東道たり。瀬川浅之進，宮島大八，井手三郎，緒方二三，白岩及予の六人なり。九時半散ず。帰途瀬川，宮島と白岩の寓信濃屋に至り，十一時帰る。京都松田満雄の信到る。

五月八日　晴。午前鎌倉河岸に散歩す。本田清人熊本よりの電報至る。本日台湾より帰着せりと云ふ。上田賢象来訪，之を留て中食す。松本亀太郎の信到る。西本，山田来訪。夜東京各団体の灯燈行列を二重橋外に観る。燈火十数万，群集雑踏歓声如湧，海陸の戦勝を祝する也。九時半帰る。藤本親信の信到る。本田清人の事に付き木野村に発信す。

五月九日　晴。朝井上良蔵，木場並に刀剣師鈴木長右衛門来訪。大学士小林吉人来訪。岡本源次来訪。市原，別府，木野村の信，山中寛の電報至る。午後深水清来訪。荘村秀雄来着。澤村大宇に発信す。澤村来談。晩鎌倉河岸に散歩す。夜木野村政徳来訪。

五月十日　晴。山本瀧四郎来訪。午後太田祐三郎，高島義恭来訪。白石，町野，飯田早苗，藤本親信，持木宗像，内田岳父の信到る。岳翁に返信す。晩岡本源次の招邀に有斐学舎に赴く。九時帰る。白岩龍平の上海行を新橋に送る。汽車已に発して及ぶ能はず。久保来訪，不逢。市原源来着。

五月十一日　晴。朝五時井手と谷中に至り近衛公の墓に展し，帰途荒尾精の墓に礼し，去て西郷侯の墳を覓む，得ず，八時帰る。松田源太郎，是日出発征途に上る。町野晋吉に復書す。高橋謙，松田満雄，松本亀太郎に発信し従軍の件確定せしを報ず。安楽平治，木野村政徳，山中寛太郎の信到る。清藤幸七郎来訪。山中寛，安楽平治，持木宗像に発信す。本田清人の待遇上に付き陸軍省隈部に発信す。土屋鼎，佐々木盛一，上田賢象，池田末雄来訪。

五月十二日　風霾。午前松島敬三，橋元祐蔵，鈴木刀剣師来訪。鈴木杖槍一本を贈る。古城貞吉の信到

る。出征中の阿部野利恭並に桑原真次，松倉善家の信至る。熊本留守宅に発信す。上田来訪。夜古城貞吉，西峯次来訪。市原生本夕出発，酒保として戦地に向ふ。

五月十三日　陰，朝雨。松田満，白石卯，内田友義の信到る。内田に復書す。是朝荘村秀雄，山本豊太従軍の為め出発す。山田純三郎，西本省三来訪。午前根津一来訪。酒を命じて飲む。宮島大八亦来会，五時去る。第一軍従軍中の鳥居赫雄に発信す。夜井上良蔵来り別を告ぐ。明朝出発すと云ふ。八時出て緒方二三の第二軍軍政員として戦地に赴くを送る。是夜松崎翠，水谷彬，佐賀等亦た従軍に就く。九時半握別して帰る。井上致廣の信到る。

五月十四日　雨。朝神田橋附近に散歩す。午前長岡子爵より電話にて清国公使以下数人を同文書院に招き，終はりて細川侯邸に小集，正午近衛公の邸にて中食を饗する筈に付き予の来会を促さる。予事を以て之を辞す。十時半佐々氏の病を訪ひ，帰途瀬川浅之進を一訪して帰る。西峰次来訪。藤本親信，熊本留守宅，宇野海作の信到る。本田清人の電報至る。午後五時内田友義来訪。夜深水十八来訪。内田留宿。

五月十五日　陰。頭痛。午前本田清人来着。十時池邉吉太郎来訪。池邉を留て中食す。松倉，鳥居に発信す。高橋謙の信到る。夜根津一の招宴に日本橋八丁堀の偕楽園に赴く。十時辞帰。上田仙来談，深更に及で去る。

五月十六日　晴。朝西峯次，深水十八来訪。松本亀太郎，古城貞吉の信，藤本親信の電報至る。藤本，松本に復す。午前軍令部井ノ内中佐を訪ふ。山下五郎熊本よりの信到る。安達謙造来訪。山下五郎，桑原真次に発信す。清藤幸七郎来訪。夜小濱為五郎，大川愛次郎，岡次郎，西峰次等来訪。午後久保来訪。夜八時半又来訪小談，去る。緒方二三の信到る。九時井手と佐々氏の病を問ふ。十時半帰る。明日より鎌倉に転地すと云ふ。

五月十七日　晴。朝芝城山町の清浦農相を訪ひ，談話時を移し，去て小濱為五郎を訪ひ，転じて同文会に根津を敲き，十時帰る。午後宇野海作，奈良某，上田賢象，山田純三郎，西本省三，松島敬三等前後来訪。白石卯一の電報至る。夜井手三郎の帰県を新橋に送る。帰途宮島大八，七里恭三郎，小越平陸等と銀座の天麩羅屋に小集し，十一時半帰る。上田仙来談。一時就寝。

五月十八日　陰。詰朝刀剣師及橋本祐来訪。九時軍令部に至り五，六，七，三ヶ月分手当金四百円を受取る。井ノ内，田中両人と談じ，十時半帰る。元島正礼来着。他出中池邉吉太郎来訪。午後木野村政徳，岡本源次，森亦八，深水十八，上田仙等来訪。岡本，森，上田等と会食す。大川，成松，鳥居赫雄の信到る。夜雨。

五月十九日　晴。市原源二郎広島より，三島真吾戦地よりの信到る。八時半鎌倉河岸に友人を訪ふ，在らず。帰途中西正義を濃州館に訪ひ小談，帰る。上田賢象来訪。午時宇野海作来訪，中食を共にす。午後竹田津明治来訪。岩木，白石の信到る。松崎翠の信到る。晩隈部又雄を牛込に訪ふ，在らず。他出中木野村政徳来訪。夜多田来訪。井上致廣に寺崎辰男採用の事に決定せしを報ず。藤本親信に発信す。

五月二十日　晴。朝高山公通を芝桜田本郷の金蔵館に訪ひ，去て新橋に井口の戦地に赴くを送る。上田賢来訪。午後三時古荘韜，国友重章，木野村政徳，池邉吉太郎，隈部又雄，安達謙造等を訪ひ，七時帰る。夜國友重章来訪。本田清人，多田亀毛出発，戦地に赴く。安楽平治の信到る。

五月二十一日　陰。丸山正丸来訪。鍋島六三の信到る。木野村に発信す。山田純三郎，西峰次来訪。飯田早苗の電報至る，之に復す。午後末永一三，高田三六来訪。京都井手三郎の信至る。上田仙，元島来談。午後雨。藍川某，宇野海作の添書を携へ来訪。夜深水十八来訪。

五月二十二日　晴。午前古城，岡本，西本，八田，宇野海作等を歴訪す。午後海軍々令部に井ノ内を訪ひ，去て根津を同文会に敲き，帰途宮島大八，小越平陸を平川町に訪ひ，六時半帰寓。山海関岡幸七郎並に山中寛，緒方二三，荘村秀雄，鳥居赫雄の信到る。是日大野亀三郎を訪ふ。八時東明館に至り物

品数点を購ふ。久保氏来訪，談話十時半に至りて去る。

五月二十三日　晴。内田友義，澤村大宇に発信す。朝長岡子爵を訪ひ，十時帰る。橋元，西来訪。高橋謙，松田満雄，可徳軋三の信到る。佐々友房，大野亀三郎，同文滬報館，鳥居赫雄，熊本留守宅に発信す。午後内田，深水十八，澤村大宇，丸山正丸，原某来訪。内田，澤村を留て晩食を共にす。九時安達謙造来訪。

五月二十四日　雨。午前太田祐三郎来訪。松本亀，小林政一の信至る。元島正礼来て別を告ぐ。本夜出発，帰県すと云ふ。夕刻細川行雅君来訪せらる。君は目下学習院大学に在りて才名群に冠たり。夜寓処の人両三名と出て謡曲を聴き，十時帰る。雨（数字分不明）別を告ぐ。東亜同文会の信到る。白石の電報至る。

五月二十五日　雨。朝七時根津を同文会に訪ひ，去て風柳館に小濱為，郡島忠等を訪ひ，転じて参謀本部に福島安正を敲き別を叙し，小山，高山列に名刺を留めて帰る。西峯次，上田賢来訪。上田を留て中食す。松田源太郎の信到る。可徳乾三，岡次郎，丸山正丸，井ノ内中佐，隈部又雄，八岡三郎等に発信す。松田満雄来着。大野亀三郎来訪。京都土屋員安の信到る。予に勧むるに西下の途次洛中に小留せん事を以てす。夜上田仙太郎と会食す。上田は本日より芝に転居せり。西峰次来訪。

五月二十六日　雨。是日都門を辞し熊本に帰らんとす。早起行李を整頓す。八時四十分上車。佐々木旅館を出で新橋に至る。九時十五分発の汽車に上る。根津一，小濱為五郎，郡島忠次郎，末永一三，西峰次，松田満雄，佐々主人等来送。鎌倉佐々友房，熊本白石の信到る。倉冨熊次郎同車たり。

五月二十七日　晴。午前十時八分大阪着。車を駆りて東区内本町鳥居素川の家に投ず。京都土屋員安に復書す。鳥居宅に宿す。

五月二十八日　雨。午前九時鳥居宅を辞し十時十八分の汽車に上る。犬飼真平，谷口某同車たり。

五月二十九日　微雨。広島より御園生某上車。午前十一時二十五分馬関着，十二時門司に渡り，午後一時四十分の汽車に乗ず。八時二十分上熊本着。白石来迎。上車千反畑の宅に帰る。

五月三十日　晴。山中寛太郎，井口，飯田，井手の信到る。井手，飯田，鳥居に発信す。午前藤本親信，井上致廣，寺崎辰男，岳翁，上回金城来訪。午後狩野直喜，津野一雄を訪ふ。町野晋吉，河口介男来訪。佐世保岡幸七郎に打電し来熊を促す。木野村政徳に発信す。

五月三十一日　晴。午前牛島貫吾来訪。午後井手三郎，島田数雄，松倉善家，小林政一，永野金十郎来訪。門司本田清人の信至る。

六月一日　晴。午前中島美喜雄来訪。中島身上の事を高山公通に依頼し一書を発す。亀雄鳳凰城よりの信到る。東京深水十八の信到る。美作為次郎，藤本親信来訪。東京根津一の電報至り，余の上京を促す。書状を以て之に答ふ。午後狩野直喜，牛島貫吾，河口介男来訪。長崎岡幸七郎の信至る。二十六日北清より帰来せりと云ふ。徳田廣作，松本亀太郎，岡本豊喜の信到る。夜大江を訪ふ。戦地本田選の信到る。

六月二日　晴。朝山中寛太郎，中村六蔵来訪。平山氏清，上回金城来訪。牛島，西峰次の信到る。午後松倉を春日に訪ひ，午後四時池田勇を訪ふ，在らず。帰途阿部野宅，山田珠一，河口宅を歴訪して帰る。山中寛，佐々木利助の信到る。

六月三日　晴。朝井野春毅，大山慶哉，岡本次七郎，山下五郎来訪。上海立花政樹の信到る。午後岡本大八，池田勇，寺崎辰男，小林政一郎，新谷静雄等来訪。鳥居赫雄の信到る。午後元島正札，藤本親信，西峰次来訪。東京岡次郎，同幸七郎，清浦奎吾，佐々木利助並に上海立花政樹，出征中の牛島正巳に発信す。陸軍省に岡本大八，新谷静雄両人の履歴を送る。出征中の阿部野利恭に発信す。

六月四日　晴。朝毛利篤，岡田郭六来訪。午前中学校教諭安武磯喜来り，明後日熊本中学校の好文会に一場の談話を請ふ。之を辞す。野口文一，菅野金三郎来訪。午後園田勘吾来訪。津野，上野，永原来談，黄昏辞去。東京小濱為五郎，同幸七郎の信，井手三郎，林田晴義の信片至る。夜上田賢象来訪。第

六師団附として本日来着せりと云ふ。
六月五日　晴，熱甚。朝武藤虎太来訪。十時春日車站に至り井手三郎，島田数雄の上海行を送り宇土に至る。細川邸を訪ふ。子爵出漁，不在邸。小林康政に面し行雅君の事を商量し，去て林田晴義，篠原留守宅を訪ひ，法華寺に至り先批の墓碣の倒れたるを安置する事を依嘱し，三時二十分の汽車にて帰る。春日に松倉を敵き，五時半家に帰る。留守中井上平蔵，町野玄司，桑原真次等来訪。桑原は通訳に採用され本日出発上京すと云ふ。東京（数字分不明）篠原邦威，白石卯，山中寛の信至る。夜岡本大八，永野金十郎，池田一郎来訪。雨。
六月六日　雨。東京本荘寿臣氏に発信。山中寛，松本亀に発信す。東亜同文書院学生田代朋人，田中清司の添書を携へ来り訪ふ。戦地牛島正巳の信到る。
六月七日　晴。岩木豊太，渡邊憲重の信到る。
六月八日　晴。木野村政徳の信到る。午後狩野直喜，上田金城，津野一雄を訪ふ。
六月九日　晴。平井来訪。夜寺崎，藤本来訪。荘村，井上良の信到る。武藤虎太，井芹，毛利を訪ふ。
六月十日　陰。午前安達謙造，毛利篤，北御門松二郎来訪。岡本豊喜，白石卯一，村田勇喜の信到る。上田賢象来訪。午後井芹経平来訪。夜武藤虎太来談。
六月十一日　風雨。午前中川文三郎，園田来訪。是日第六師団司令部出征。岡本大八来訪。井場熊喜，平山岩彦来訪。狩野直喜来談。晩津野，山田直熊，上田賢象三人を招き晩餐す。上田は六師団に従ひ明日より出征する者なり。町野晋吉亦来会。高橋謙東京よりの信到る。軍政委員附として出征すと云ふ。
六月十日　陰。午前安達謙造，毛利篤，北御門松二郎来訪。岡本豊喜，白石卯一，村田勇喜の信到る。上田賢象来訪。午後井芹経平来訪。夜武藤虎太来談。
六月十一日　風雨。午前中川文三郎，園田来訪。是日第六師団司令部出征。岡本大八来訪。井場熊喜，平山岩彦来訪。狩野直喜来談。晩津野，山田直熊，上田賢象三人を招き晩餐す。上田は六師団に従ひ明日より出征する者なり。町野晋吉亦来会。高橋謙東京よりの信到る。軍政委員附として出征すと云ふ。
六月十二日　半晴。平井，深水十八，盛唯信，藤本親信来訪。深水は一昨夜来着，本日より正金銀行の用務を帯び上海を経て北清に赴くと云ふ。第二回国庫債券五百円を申込む。午後永原壮二郎来訪。山中寛太郎の信到る。之に復す。東京篠原邦威に発信す。八田三郎に発信す。夜町野晋吉来訪。
六月十三日　雨。東京岡幸七郎の信到る。朝狩野直喜を訪ひ小談，帰る。本日午後より京都に赴く者なり。原田維新来訪。午後冨田某，藤井安俊来訪。夜大江を訪ふ。
六月十四日　晴。午後安達を訪ふ。已に朝鮮に向け出発せりと云ふ。牛島宅，井野春毅を訪ひ帰る。上海井手三郎の信到る。戦地阿部野，本田清人，西本，上田の信到る。
六月十五日　雨。永原壮，町野の信到る。東京木野村に発信，永原壮の履歴を郵送す。上海立花政樹，牛島吉郎の信到る。田中清司来訪。
六月十六日　雨。山田純三郎，小川辰五郎の信至る。午前山田直熊，藤本老媼来訪。午後牛島貫吾来訪。松本亀太郎の信到る。昨日浦港の露艦四隻玄海に襲来し我運送船常陸丸，佐渡丸，和泉丸を撃沈せりと云ふ。
六月十七日　陰。午後新谷勝三来訪。夜更大雨。篠原邦威，三島真吾，本島正礼の信至る。
六月十八日　雨。町野晋吉の兄氏来訪。午前宮原義雄来訪。之を留て中食す。
六月十九日　暗。狩野直喜，山中寛太郎の信到る。山中に発電す。岡幸七郎東京よりの信至る。之に復す。近日清韓より帰りし佐野直喜に致書す。藤本親信，寺崎辰男，上田金城来訪。上田は明日錦州に向て出発すと云ふ。
六月二十日　半晴。朝上田金城を訪ひ其北清行を送る。帰途理髪。午後牛島貫吾来訪。岳父翁来宅。大

山慶哉の信到る。夜池田勇，中島美喜雄来談。
六月二十一日　晴。小林政来訪。上海井手の信至る。之に復す。午後津野一雄を訪ふ。夜河口を訪ふ。戦地阿部野利恭，上田賢象の信到る。
六月二十二日　晴。午前盛，岡本次八郎来訪。午後村田勇喜，吉冨松次郎，宮原の信至る。河口介男の姉子の訃至る。夜往て之弔す。
六月二十三日　雨。午前三島志津馬来り鯛一尾を贈る。東京鋳方に発信す。午後松倉善家来訪。四時河口家の葬を送る。
六月二十四日　大雨。大阪佐野直喜の信至る。午後藤本来訪。仁川岡本豊喜の信至る。
六月二十五日　大雨。第三軍多田亀毛の信至る。町野晋吉来訪。夜武藤虎太を訪ひ十一時帰る。
六月二十六日　雨。午後中西太善，河口介男を訪ふ。夜大江に至る。
六月二十七日　晴。午前園田，鈴木直八来訪。鈴木は天津より帰来せる者にて，山根虎之助の信を交付す。午後町野晋吉来訪。藤森茂一郎来り三ヶ月分の預金利子十五円を交付す。本田選，柳原又熊の信至る。東京伊集院軍令部次長並に根津一に発信す。柴田常三郎来訪。夜藤本親信来訪。
六月二十八日　晴。午前岡崎唯雄，渋谷繁次，美作為次郎来訪。山中寛，林田晴義，栗林次彦の信到る。牛島吉郎，白石卯一の信至る。本田選，山中寛，佐々友房，山根虎之助，林田晴義，岡本豊喜に発信す。午後四時町野晋吉を訪ふ。牛島貫吾，寺崎辰男，井上致廣，中島美喜雄，河口介男，平田彦熊，西直熊等来訪。岡幸七郎，兼松磯熊，大森松四郎，白岩の信至る。岡は従軍の事決定せりと云ふ。
六月二十九日　晴。藤本親信来訪。大森に復書す。栗林次彦，阿部野利恭，永原壮二郎に発信す。午後永原壮二郎，寺崎辰男来訪。両人共訳官に採用され近日上京する者なり。永原の為に人事局隈部に，寺崎の為に木野村に添書を与ふ。岡本次八郎，美作為次郎，池田一郎，園田勘吾，高田政二等来訪。
六月三十日　晴。午前美作為来訪。午後牛島貫吾来訪。夜山田直熊，永原虎男，町野，永野金十郎来訪。東京佐野直喜の電報至る。小山秋作に発信す。山中寛太郎の信至る。
七月一日　晴。午前井上平蔵，平田彦熊来訪。佐野に復電す。午後奥村，中島美喜，池田一郎，園田勘吾，高田政二，吉田寿三郎等来訪。牛島吉郎来訪，本日上海より帰来せりと云ふ。東京根津一の電報至る。
七月二日　晴。朝園田郭六，山下五郎来訪。平田彦熊の為に漢口片山敏彦，角田隆郎，大瀧八郎，上海井手三郎に添書す。午後中川文三郎来訪。晩牛島吉郎の招激に魚茂に赴く。十時辞帰。
七月三日　晴。朝池田勇，池内源七，藤本親信来訪。夜牛島吉郎の従軍の為に上京するを送る。宮原義雄の信至る。
七月四日　晴。正午内田友義東京より帰来。夜大江の招激に赴き，十時帰る。夜半腹痛下痢。
七月五日　晴。午前中島美喜雄，出田辰喜を伴ひ来訪。病臥を以て辞す。午後郭鍾韶来訪。内田友義，河口介男来訪。
七月六日　晴。午前郭鍾韶，山田直熊，山田珠一来訪。午後藤本親信，井上致廣来訪。宇土宮原に発信す。夜永野金十郎来訪。
七月七日　晴。朝平田彦熊，園田郭六，井野春毅，郭鍾韶来訪。午後永野を訪ふ。八田三郎，岡幸七郎の信到る。岡は大孤山軍政部附として出征する者也。
七月八日　微雨。園田勘吾，山田，牛島貫吾来訪。夜建町に至り髪を理す。東京佐々友房，寺崎辰男の信至る。安東県鍋島五三郎の信至る。
七月九日　晴。午前本田三次，山田直熊，岳翁，佐々干城，奥村傳，盛松貞諸氏来訪。午後小笠原昂，齋藤久熊来訪。永原壮次郎，岡幸七郎，佐野直喜の信至る。東京成松静雄の信至る。夜藤本，内田友義来訪。武藤虎太夫婦来訪。遊技を闘し，十一時に至る。
七月十日　晴。日躍。山田直熊来訪。松本亀太郎の信至る。第一軍民軍部附として出征の事を報ず。上

海井手三郎，大阪佐野直喜に発信す。永野金十郎，池田一郎，三浦，園田勘吾等来訪。夜中島美喜来訪。

七月十一日　午後微雨。牛島吉郎，盛惟信，市原源の信至る。市原青泥窪より煙草二箱を，贈り来る。市原，佐々木利助，松倉善家，牛島貫吾に発信す。夜大江を訪ふ。他出中牛島貫吾，武藤虎太，小林政一，藤本親信来訪。

七月十二日　陰晴無定。午前牛島貫吾，澤村正雄，佐々木徳茂，柴田常三郎，浅井某来訪。夜九時家を出で池田駅に至り，十時十三分の汽車にて東上の途に就く。池田勇，中島美喜雄，園田勘吾，藤本親信，河口介男外一人来り送る。

七月十三日　雨。午前四時門司着，六時十五分馬関に度り，七時十五分の汽車にて東上。三田尾駅に於て林市蔵に邂逅す。立談少時にして分る。

七月十四日　晴。午前八時二十分大阪着。佐野直喜来り迎ふ。江戸堀の佐野宅に投ず。熊本留守宅，東京根津に発信す。

七月十五日　晴。朝八時半佐野宅を辞し，鳥居赫雄を内本町に訪ふ。午後四時鳥居宅を辞し梅田駅に至り，五時二八分の臨時車にて京都に至り，七時上京。新烏丸の土屋員安宅に投ず。狩野直喜を東招し，談話一時に至り寝に就く。

七月十六日　晴。朝狩野を吉田町神楽岡の寓に訪ふ。狩野と山中を徜徉し，吉田神社に展す。日本全国の神祇を祀る所。正午土屋来会，三人会食。午後五時相携て郊外に出で，八瀬街道を進み山鼻の平八楼に投ず。楼は高野川の左岸に位し，風致繍洒，難得の勝地なり。鴨水の鮮を割き小飲，八時に至り上車帰寓。

七月十七日　晴。午前狩野来訪。土屋宅にて三人会食。午後二時辞出，七条に至り二時三七分の汽車に上る。

七月十八日　晴。晌午大磯に達す。昨午後より大磯平塚の線路に故障を生じ汽車不通を以て腕車を雇て平塚に至り，十二時五二分の汽車に換坐し，三時十五分新橋着。佐々木より迎への車に坐し，連雀町の旅寓に投ず。熊本留守宅，鋳方徳蔵，土屋，狩野，佐野，鳥居に発信す。戦地緒方二三，阿部野利恭，安楽平治の信並に園田郭六，高田政二，佐野直喜の信，園田，池田の電報至る。夜久保氏来訪。

七月十九日　晴。朝佐々友房氏来訪，晌午去る。堀川儀一郎，台湾中西牛郎の添書を携へ来り訪ふ。正午根津一を同文会に訪ひ，中食後上田仙太郎，鋳方徳蔵，宮嶋大八等を訪ひ，四時帰寓。熊本園田勘吾に返電す。熊本留守宅，井口忠，寺崎辰男，西峰次，松島敬三，亀雄の信至る。上野寅彦，守田愿，高田政二の信至る。上野，藤本親信，池田勇，守田，木野村に発信す。池田は井口より送来せる緒方の写真代一円六十銭（郵便切手）を封送す。夜北御門松二郎，成田與作並に刀剣師外一人来訪。守田愿の信到る。

七月二十日　陰。午前佐々友房氏を訪ひ，小午帰る。午後古城貞吉を小石川に訪ひ，去て有斐倶楽部に佐々，岡本，八田，赤星，小橋，池邊，深水等と会談。薄暮岡本と古城の処に至り会飲。書を作り詩を賦し，十時辞帰。熊本藤本親信の電報至る。

七月二十一日　晴。午前堀川生来訪。出て海軍軍令部に伊集院次長，井ノ内中佐等を訪ひ，晌午同文会に根津と会し，帰途鋳方を参謀本部に訪ひ帰る。三時佐々友房氏を訪ひ，五時帰る。長岡子爵より刀水の鯉魚を得たりとて晩餐に招かる。五時赴く。閑談八時に至り辞し帰る。是日長岡，根津，佐々諸氏より東京同文会に在りて尽力せん事を勧めらる。海軍の関係を以て之を辞す。藤本に復電し上京を促す。鋳方徳蔵の信至る。之に復す。小越平陸来訪，中食後去る。

七月二十二日　晴。午前九時同文会の幹事会に臨む。十二時帰る。午後堀川来訪。夜吉冨松二郎，木野村政徳来訪。十時久保，小越来訪。十一時半去る。熊本留守宅，田畑，小川辰五郎，井手三郎，藤本親信，中島美喜雄の信至る。鈴木より煙嘴一個，洋服商徳永より麦酒一箱を贈る。

七月二十三日　晴。藤森茂一郎，小川辰五郎，園田郭六，佐野直喜，田畑若松，亀雄，佐々干城，町野晋吉に発信す。藤本の電到る。之に復す。小川辰五郎来訪，台湾芭蕉飴一箱を贈る。熊本渋谷繁次の信到る。之に復す。明後二十五日東亜同文会集会の通知至る。晩開運館を訪ふ。夜原，吉冨来訪。千葉に療養中の渡辺正雄に見舞状を致す。午後雷雨。

七月二十四日　陰。日曜日。午前八時半新橋に至り，北御門に会し千束に赴かんとし待て十一時に至る。終に来らず。品川に至り山本瀧四郎に会し，汽車に目黒に至り腕車を賃し千束に向ふ。途上比翼塚，目黒不動の傍を過ぐ。行く一里余，池上千束郷の勝海舟伯の別邸たる洗足軒に抵る。瀬川浅之進，豊島捨松，小越平陸先在り。亡友追弔会を行ふ。終はりて海舟の墳に謁し，阿玉ヶ池の畔に出て日蓮上人の霊跡たる御松庵に至り袈裟懸松を見る。弘安五年日蓮此に来り袈裟を此松に懸け足を洗ひしと云ふ。庵前の池を洗足池と名く。当年の老松既に朽ち老幹の裁断されしもの二個を庵前に祀る。今有る所の双松は後年の植る所に係ると云ふ。二時半千束村より品川街道を取り，徒歩品川に出で氷店に投じて小憩。途中瀬川，豊島と別れ電車より帰る。時五時なり。太田祐三郎来訪，有馬組の酒保に入り二十六日より青泥窪に赴くと云ふ。佐野直喜，大山慶哉，吉冨の信到る。熊本園田勘吾，池田一郎外一人来着。天津山根立庵より荒井図南の遺稿を送り来る。晩吉田松二郎来訪，本日通訳官に任ぜられしと云ふ。鈴木長右衛門より水蜜桃一箱を贈り来る。

七月二十五日　大雨。午後一時同文会の幹事会に臨む。長岡子爵，根津及び余の三人なり。四時帰る。池田，園田，吉田列来訪。

七月二十六日　晴。京都狩野直喜，熊本藤本親信の信至る。鳥居赫雄に発信す。成松静雄来訪。太田祐三郎来り別る。牛島貫吾の信至る。之に復す。牛島正巳に発信す。夜東明館に至り，帰途書肆に就き日本戦史，関原役，大坂役二部を購ふ。価一円三十銭。

七月二十七日　晴。熊本留守宅，鍋島伍三郎，町野晋吉，岡次郎，池田勇の信並同文会評議員会，春季大会の通知状至る。午前電車より同文会に赴き，十二時帰る。午後林田某，出田辰喜来訪。岡次郎，鍋島伍三郎に復書し，上野寅彦に狩野源太郎の履歴を郵送す。

七月二十八日　晴，熱甚。午前小石川に至り八田三郎，岡本源次，細川行雅君等を訪ひ，帰途牛込南町に守岡慮，市ヶ谷に池邉吉太郎，富士見町に佐々友房氏等を歴訪して帰る。正午出て髪を理す。午後佐無田実，奥村銑吉，時事新報對島機，浅井寅喜等来訪。小川辰五郎の信至る。

七月二十九日　大雨。午前佐々友房氏を訪ふ。園田郭六，鳥居赫雄の信到る。午後二時同文会に至り長岡，根津両氏に会し幹事会を終はり，四時本部楼上の評議会に列す。故近衛会長の後任者として青木周蔵氏を推す事を議決せり。会する者長岡子爵，島津忠亮伯，津軽英麿，清浦奎吾，榎本武揚子，岸田吟香，佐々友房，頭山満，陸実，伊澤修二，押川方義，根津一，池辺吉太郎，恒屋盛服及余の十五人なり。六時散ず。頭痛甚し。晩食後始て愈ゆ。安冨喜一，林田源太郎，奥村銑吉，吉田寿一郎，池田一郎，園田勘吾来訪。吉冨松二郎他出中来訪せりと云ふ。鈴木長右衛門より水蜜桃一筆を贈り来る。

七月三十日　陰。午前橘三郎来訪，一昨日漢口より帰来せりと云ふ。上海井手三郎に復書し立花正樹の事に付き清浦氏と交渉の顛末を報ず。池田，園田，吉田，林田諸子の為に戦地に在る知人に紹介状を与ふ。瀬川浅之進の信至る。明日上程牛荘へ赴任の事を報ず。之に復書す。岡本源次に明夕有斐黌の会に臨む能はざるを報ず。是日午後四時より同文会の春季大会に華族会館に臨む。午後五時開会。会する者長岡子爵，島津伯，鍋島直大，津軽英麿，榎本子爵，佐藤正，陸実，伊澤修二，佐々，根津，池辺，恒屋，岸田，押川其他総員三十九人。終はりて午後六時より清国公使楊枢を招待す。立食を共にし，八時席散ず。夜藤本親信来着。森唯信の信至る。

七月三十一日　雷雨。日曜日。木野村，盛に致書す。三浦國器其家君晟彦の添書を城三十郎，渋谷の添書を携へ来訪。陸軍通訳として出征する者也。青泥窪牛島吉郎の信至る。齊藤久熊，阿部野利恭の信到る。米原繁蔵に発信す。

八月一日　陰。午前同文会に至り午時帰る。上海井手三郎，名古屋園田，奥村等の信至る。夜藤本と東明館に至り提鞄を購ふ，値八元。

八月二日　晴。午前太原信，中島右仲来訪。太原中食後去る。午後岡本源次，本田嘉種，濱口庄吉，高島義恭来訪。高島，岡本を留て晩食を共にす。

八月三日　雨。七時藤本親信の出征を新橋に送り，帰途同文会，参謀本部，宮島大八等を歴訪して帰る。熊本留守宅，緒方二三の信至る。上海井手，熊本留守宅，渋谷繁等に復書す。宇土小林庸政に発信す。午後佐無田生来訪。佐々友房氏来訪，夕刻去る。鍋島伍三郎，大里猪熊，佐野直喜の信至る。三子に復す。岡幸七郎，土屋員安，市原源二郎，緒方二三，阿部野利恭，鋳方徳蔵に発信す。井上多七，小川辰五郎の添書を携へ来り訪ふ。大阪鳥居に荒井遺稿を送る。

八月四日　風雨。七時半清浦奎吾氏を城山町に訪ひ，立花正樹の事並に有栖川殿下に藤崎賢の奉納の敵国降伏の御親筆□面を乞ふ事を依頼し，九時同文会に至り長岡子爵，根津に会し十時帰る。齋藤久熊に復書し，木野村，井上生試験の事を依頼す。午時三浦，城外一人来訪。午後橘三郎，久保来訪。晩白岩龍平突然来訪，昨日清国より帰来せりと云ふ。晩食を共にし，九時去る。

八月五日　半晴。午前中津誠一郎，堀川儀一郎来訪。井上致廣，吉田寿三郎，齋藤久熊，東亜同文会，岡本源次，吉冨松次郎等の信到る。清浦奎吾氏に発信す。午後井上雅二来訪，一昨日朝鮮より帰来せりと云ふ。夜中津誠一郎来談，十二時去る。

八月六日　晴，熱甚し。午前同文会の例会に出席す。長岡子爵，根津一，十時来会，十二時帰る。午後八田三郎来訪。晩岡本より案内有り，之を辞す。

八月七日　崎，熱気如燉，寒暖計九十二度。午前八時長岡子爵を浜町に訪ふ。十一時上田仙太郎来訪，之を留て中食を共にす。熊本留守宅，米原繁蔵，池田一郎，上野寅彦，緒方二三，藤本親信の信並に佐野直喜の電報至る。熊本留守宅，大江，津村大宇に発信す。

八月八日　晴，熱甚。午前同文会に至る。上野寅彦，佐野直喜，盛惟信，園田郭六の信到る。午後前田晃来訪。井手三郎に発信，前田の事を依托す。高田政次に発信す。山口林市蔵に発信す。大阪鳥居の信到る。根津一に発信す。

八月九日　晴。天津山根虎之助に発信す。八時半長岡子爵を訪ふ。広東番禺県知県呂道象に会す，十時帰る。佐野直喜の電報，藤本，三浦，牛島貫吾の信到る。三浦晟彦に復書す。出田辰喜来訪。午後佐無田来訪。六時佐野直喜来着。

八月十日　晴，風涼有秋意。鍋島伍，留守宅，齋藤久熊の信到る。午後久保来談。五時日本倶楽部の支那人招待に臨む。同文会主と為なり。公使楊枢，参賛，随員並に各省派する所の留学生監督を合せ十三人を招く。会よりは新会長青木周蔵子，長岡子，根津，十勝及び余なり。八時席散ず。青木子等と談じ，十一時帰る。佐野と閑談，二時就寝。齋藤久熊，岡本豊記，立花正樹，留守宅，渡部正雄，鍋島五三郎等の信至る。

八月十一日　晴。熊本高田政二に発電並に発信す。九時佐野と高田老松町細川邸に至り，津田静一を訪ひ，十一時去て，護立公子を訪ひ，転じて蓑田喜太郎に名刺を留め，帰途東京同文書院に十勝学士を訪ふ，在らず，十二時帰る。午後山本織四郎来訪。六時佐野と浅草観音裏手の大金に至り鶏の料理を命じ，食了はりて後浜町紅葉屋に陳氏を訪ひ，十一時帰る。

八月十二日　晴。鈴木刀剣師より西洋西瓜の大なるもの一個を贈り来る。午前同文会に出頭，十二時帰る。上海井手，根津に発信，佐野の為に安東県大原武慶に添書す。細川護立公子より明日富士登山の誘引有り，即同遊せんとす。佐野を待つ，帰らず。

八月十三日　晴。午前三時上車，牛込停車場に至り，細川護立君，岡本源次，小野田彦也等に会し，四時五十三分の汽車に上り，富士登山の途に就く。四谷に至れば池邉源太郎，高田冨弥，笠五朗，新美辰馬の四人来会。一行合せて八人たり。五時四十分境駅に至る。小金井此を去る十丁余，五時五十分国分

寺を過ぐ。境駅を出れば富士を天半に望む。此辺一帯野趣人に可なり。六時立川駅鉄道支線玉川の上游なる青梅に通ず。石炭石を出す頗る盛。行少許玉川を渡る，碧流一条匹練を引くが如し。前面近く相模秩父の連山を望む。六時半八王子に達し汽車を換ゆ。浅川に至り始て山間に入る。両側之山其容甚奇，屏障を列するに似たり。小仏の山彙なり。数個隧隊道を過ぎ与瀬に出で，七時五十分上野原に至る。渓山の間に在り，馬入川の上游也。八時二十分右側に猿橋を望み，猿橋駅を過ぎ，八時四十分大月駅に着し汽車を下り，更に馬車を賃す。十時二十分谷村町を過ぐ。人煙八百許。十一時半小沼に至り又た馬車を換へ，午後一時吉田に達し，吉島ホテルに投じ中食し登山の準備を為す。草鞋，金剛杖，笠，棉衣，食糧等を用意し，強力二人を雇ふて之を荷はしむ。富士に登るに四道有り。吉田よりする者を北口と為す。午後三時「ホテル」を出づ。吉田町長さ約二十余丁三時半浅間社に達す。老杉道に挟み鬱々葱々たり。赤色の華表有り，題して三国第一山と日ふ。第二の華表に富士獄の二大字を匾す。筆勢勁抜，飛動之の勢有り。此より始て山麓に入る。行十余丁，松林を出れば則一面の高原にして秋花乱発，五色燦然，夕陽と相映帯ず。頗る中秋の趣有り。右背後に河口湖を望む一茶店に投ず。吉田至此一里半，五時四十分馬返に達し小食す。大に疲労を覚ふ。六時半二合目を過ぐ。三合に至て日全く暮れ，山道嶮悪，樹根途上に蟠錯し鹿柴を列するが如く登攀頗る艱む。四合目を経て七時五十分五合目に達し投宿す。一合目より此上落葉松及び樅の巨木鬱然参天深邃，幽寂如大古，此処東京より高きこと七千五百尺，人家一二戸有り。夜□坐炉辺，談笑如湧。池邉も疲労尤甚。初更冷気頓に加はり綿衣を着くるも尚寒冷を覚ふ。夜半に及んで冷気益す加はり終夜不成眠。浅間社より上る一丁目許，有日本武尊拝獄之古跡。

八月十四日　晴。午前三時起床。雑煮を吃し，三時半出発。藤森稲荷を過ぐ。之を天地の界と為す。此より樹木又た大なる者無し。五合半経て峯を過ぐ。右側石室有り。日蓮苦行の処たり。此より以上全く焦土にして点々雑草を見るのみ。六合目に休し七合目に至り日出を見る。東麓に山中湖有り。朝暾水面に映じ色彩陸離，風趣不可状。此よりして上る。焼石満地，目に寸青を見ず。七合六勺に至る，身禄の行岩有り，亀岩と名く。数分時前天気快晴，四望平遠なりしが，忽にして雲気四塞，人皆雲中を行く。雲煙起滅，陰晴無定，頃刻の間幾変化を見る，真に奇観なり。烏帽子岩有り。身禄此に歿すと云ふ。七時半八合目に達し休憩す。此より頂上を仰げば兀立峻厳，侵す可からざるの概有り。俗に胸突八丁と称し，登攀至難の処なり。五歩に一息十歩に一憩，九時辛ふじて頂上に達す。俯して下界を瞰めば駿甲一帯の山川都邑皆一目の中に在り，真に天下の偉観なり。余昔年泰山に登り太行を越へ禹域の名山登臨を経しもの頗る多しと雖も，諸を富山の高大神秀に比すれば恰も君臣主僕の差有り。金明水を飲む，極て甘冽。有名なる三国一の甘酒に至りては幾ど飲むに堪へず。一行頗る失望せり。一行頂上に於て撮影す。山頂処々積雪有り。厳暑と雖も滅せず。頂上に噴火口有り。直径約十五丁，谷底頗深。山の最高点を剣ヶ峯と云ふ。野中某の測候所有り，又た官幣大社浅間神社有り。是日女学生の登山者頗る多し。地平線より高きこと一万二千三百七十尺。気温七十二度。十二時下りて八合目に至り小食。東口須走の道を取て山を下る。焼石錯落，坂坡急峻，疾駆して下る，左の坂を転ずるが如し。頃刻にして一合目に至り休憩少時，此より深林の道を走り馬返に至る。樹木此に至て漸く粗。茶店に小休，七人無蓋の馬車に乗じ，岡本は馬に騎して発す。大雨暴に至り衣袂皆濡ふ。五時須走町に達す。此地登山の東口たり。市街状況吉田に彷彿たり。此より鉄道馬車に坐し，七時御殿場に達す。須走此に至る三里，旅舎を得ず。更に旧御殿場に折回し富士屋本店に投ず。浴後晩膳に対す。両腋生風の思有り。十時就寝。熊本留守，土屋，狩野，長岡子爵に発信す。

八月十五日　晴。午前八時旅宿を出で御殿場発八時五五分の汽車に乗ず。一時品川着，電車より芝公園附近に至り下車し，一行八人旅装して撮影す。終はりて再び電車に乗じ，日比谷にて諸子に分れ連雀町の寓に帰る。時に午後三時也。林市蔵，根津一，山田九郎，澤村雅夫，佐々木徳蔵，不破昌材，郡島忠二郎，中島美喜雄，土屋員安，佐野直喜の信に接す。夜安達謙造来訪。昨日来着せりと云ふ。

八月十六日　晴。内田萬人，國友重章の添書を携へ来り訪ふ。午前國友来訪，中食後去る。柳原又熊の信至る。午後堀川生来訪。晩根津の招邀に溜池に赴き，十時帰る。白岩龍平，浅井寅喜の信至る。

八月十七日　晴。午前橘三郎来訪，中食後去る。上田仙太郎，町野晋吉の信到る。午後中島右仲来訪。二時出て井上雅二を駿河台の日升館に訪ひ，去て安達を飯田館に敲き，佐々氏を富士見町に訪ふ，在らず，直に帰る。八田三郎来訪。不破昌材の為に牛荘瀬川浅之進に致書す。不破に復書す。夜浜町墨江畔に散歩す。十時帰る。

八月十八日　晴。朝佐々友房氏来訪。九時半出て同文会に至り長岡子，根津等に会し，十二時帰る。小林庸政，佐無田，米原の信到る。午後四時上車，茗荷谷に岡本を訪ふ，在らず。去て高田老松町に細川護立公子を訪ふ。岡本先在り。晩餐の饗を受け，十時辞帰。

八月十九日　晴。午前白岩龍平来訪。午後橘三郎，國友重章，井上雅二来訪。六時白岩の招邀に日本橋亀嶋町の偕楽園に赴き支那料理を食す。会する者根津一，井上雅二，成田與作，橘三郎及び予の六人なり。九時辞帰。安達謙造来訪。

八月二十日　晴。熊本齋藤久熊に発信す。午前同文会に至る。正午長岡子の招飲に日本倶楽部に赴く。会者山東人呉学荘，広東周慶慈，天野恭太郎，根津一及び余と内堀某なり。二時散帰。是日両国開河，長岡子爵より案内有り。五時浜町の邸に赴く。護立君亦来会。邸内の涼台に上りて煙花を観る。両岸の士女雲霞の如く，夜に入て星火万千，人声如湧。予明治二十三年八月研究所創立の際荒尾等十余人と中村楼に会し開河を見る，今を去ること十五年，恍として隔世の如し。九時帰る。國友重章来訪せりと云ふ。鍋島伍三郎の信至る。

八月二十一日　晴。國友本日を以て芝罘，牛荘地方に赴くを以て高山公通，深水十八，松倉等に添書す。朝國友重章来訪。鍋島五三郎に復書す。正午日本倶楽部に至り長岡子爵を東道とし，清人湖北知県胡玉縉，同羅慶昌，夏紹範，胡峻，曹騰芳等を饗す。三時席散ず。井上雅二の信至る。之に復す。

八月二十二日　晴，炎威頗烈，寒暖計九十三度。晩湖北知県羅慶昌，曹騰芳，安冨，澤村大宇来訪，九時去る。東亜同文会の信二通，新美辰馬，吉田寿三郎の信到る。澤村に托し館山に在る渡部正雄に致書す。

八月二十三日　晴，熱甚。午前上車，芝に至り上田仙，白岩を訪ひ，白岩と共に出て橘三郎を赤坂福吉町に訪ひ，転じて恒屋盛服を霞町に敲き，同文会に至り，十二時帰る。呉道象，町野晋吉等来訪。盛惟信の信至る。新美辰馬の信至る。之に復す。午後中島新一，岡本源二来訪。晩澤村大宇来訪。岡本，澤村を留め晩餐を共にす。夜同文書院生町野，田代朋人，赤松慶太，上妻博路，久保村道彦等，井芹の添書を持し来訪。

八月二十四日　晴。午前桜田倶楽部の同文会幹事館（ママ）に出席す。青木，長岡正副会長，根津，恒屋及予の五人なり。正午散会。熊本留守宅に発信す。夜東明館に至り購入。

八月二十五日　晴。三浦國器の信至る。午前内堀維文，呉学荘，呂道象等を三崎町の森田館に訪ひ小談，去て三崎館に羅慶昌等四人に名刺を留て帰る。橘三郎来訪。熊本井芹経平に復書す。四時上車，小石川の有斐倶楽部に至り岡本に会し，夜上海同文書院学生五名を招き送別す。護立公子，岡本，八田及び予主人と為り，高岡，池松等偶来会す。十時散ず。岡幸七郎の信至る。

八月二十六日　晴。朝橘三郎来訪。八時半出て華族会館に至り同文書院生徒八十二名の入学式に列す。青木，長岡正副会長，根津，十勝及び予の数人なり。式終はりて一同庭前に於て撮影し，十一時帰る。軍令部井内中佐に発信す。午後安達謙造来訪。夜久保氏来訪，十一時去る。

八月二十七日　薄陰。根津一に復書す。登嶽の記を作る。五合目迄を終り九日社に郵寄す。池松常雄来訪。池辺吉太郎より日本倶楽部に晩餐の案内有り。橘三郎亦来会，九時散帰。鍋島伍三郎の信至る。

八月二十八日　晴。午前海軍々令部に至り八，九，十，三ヶ月手当四百円を受取て帰る。午後細川護立君を麹町の邸に訪ひ，談話時を移し，去て佐々友房氏を訪ふ。上田仙太郎在り，本日熊本より帰来せ

りと云ふ。五時半辞帰，安達を一訪して帰る。他出中細川行雅君，根岸佶，住江常雄，池邉吉太郎諸氏来訪せりと云ふ。岡次郎，古城貞吉に発信す。夜井上清秀，渋谷春太郎来訪。

八月二十九日　晴。富士登山記の続稿を山田に郵送す。朝清浦奎吾氏を城山町に訪ふ。丸山重俊に邂逅す。帰途同文会に至り八月分手当を受取る。佐々，白岩，阿多，恒屋亦来会。十一時大本営に木野村を敲き，晌午帰寓。佐々氏来訪せりと云ふ。門司鍋島五三郎に発信す。鳥居に発信す。山崎桂の建碑寄附三円を白岩に托す。堀川，大原信，成田與作来訪。夜長岡子爵を訪ひ別を叙す。上田仙太郎，古城貞吉来訪，小酌十時に及で去る。

八月三十日　大雨。午前町野晋吉，堀川儀一郎，恒屋盛服，高道梅雄来訪。十二時上車，新橋に至り根津一を送る。同文書院生徒八十二名を率ひ上海に赴く者なり。一時帰る。橘三郎来訪。三時久保来訪。香焦一連を贈る。是日富士記行を終はり山田に郵送す。小田野，岡本，八田，佐々，岡次郎諸氏に発信す。安冨喬の信至る。之に復す。細川行雅君，岡次郎に発信す。

八月三十一日　雨。余是日午後六時都門を辞し西帰せんとす。朝東明館に至り衣類，戒指等を購ひ，帰りて傘二本を需む。午後行李を収拾す。齋藤久熊の信至る。之に復す。軍令部井内，大本営木野村に発信す。戦地亀雄の信至る。午後佐々友房氏来送。五時旅館を出で新橋に至り六時の汽車に乗ず。旅宿の主人，古城，上田仙，橘三郎，高道梅雄，成田與作，井上多七等来て行を送る。夜大雨。車中擁擠殊に甚し。

九月一日　晴。午後二時京都を過ぐ。五時二十分神戸着，七時二十分の山陽列車に換座す。

九月二日　晴。午後二時八分馬関着，門司に渡り三時二十五分の汽車にて熊本に向ふ。車站に於て九州日々新聞を読み細川護全君去三十日戦亡の事を知る。折尾に於て内田友義の東上する者に邂逅し互に片言を交を東西に分る。七時半鳥栖に達し汽車を換へ，十時十三分上熊本に着し千反畑の宅に帰る。緒方，阿部野，徳田，井手，岡，林田，寺崎，井芹，牛島，荘村，盛，園田，奥村等の信に接す。

九月三日　晴。午前佐々干城氏来訪。東京細川侯邸，長岡子爵邸，麹町邸に議全公子陣亡の弔詞を発す。夜山田珠，尾越辰を訪ひ，家族と市街を散歩して帰る。

九月四日　晴。牛島貫吾，奥村金太郎来訪。戦地阿部野，東京佐々友房，成田與作に発信す。廣岡理則に発信す。夜家族と大江を訪ふ。

九月五日　晴。午前山下五郎，吉田徳章，岳翁来訪。戦地高橋謙，木下賢良並に東京佐々木旅館の信至る。夜中島美喜雄来訪。

九月六日　朝微雨。午前町野来訪。戦地藤本親信，亀雄の信到る。鳥居赫雄，橘三郎に其甥，兄の戦死を弔す。午後池田勇来訪。夜山田直熊来訪。

九月七日　晴。午前上野寅彦来訪。澤村大宇，廣岡理則，燿山の信到る。齋藤，早川に発信す。

九月八日　晴。午前早川新次来訪，中食後去る。

九月九日　雨。朝齋藤久熊来訪。橘三郎より其兄戦死の訃至る。竹下意誠来訪。八田三郎に発信す。鳥居赫雄，原田情八，鍋島伍三郎の信至る。夜武藤虎太，河口宅を訪ふ。是日午後上田寅彦を訪ふ。津野一雄来会

九月十日　晴，熱稍甚。緒方二三，小川辰五郎の信至る。荘村秀雄，牛島吉郎，原田，土屋員安，狩野直喜に発信す。

九月十一日　晴。午前津野一雄を訪ふ。家族と錦山神社に展し，帰途早川新次を京に訪ひ帰る。夜井芹経平を訪ふ。佐無田実，牛島正巳の信至る。

九月十二日　晴。篠原邦威，池田一郎の信至る。篠原，牛島正巳に復書す。緒方二三，亀雄に発信す。藤本親信，木下賢良に復書す。岡幸七郎，井手三郎，高橋謙等に復書す。午後葉室諶純来訪。昨日韓国より帰来せりと云ふ。夜永野金，高田政二来訪。

九月十三日　晴。午前藤本老媼，齋藤久熊，園田郭六，高道梅雄等来訪。狩野直喜の信到る。戦地福島

安正に其次男の陣亡を弔す。木野村に発信す。町野玄同来訪。夜葉室諶純を訪ひ，九時帰る。
九月十四日　晴。佐々干城の信至る。之に復す。牛島貫吾来訪。西峰次，鍋島五三郎の信至る。午後早川新次夫婦来訪，之を留て晩食を共にす。佐々友房氏に発信す。
九月十五日　晴。朝山下五郎，山田直熊を訪ふ。町野来訪。
九月十六日　晴。朝葉室諶純来訪。盛惟信，井手三郎の信至る。午後宇土に至り法華寺城山の先塋に展す。帰途奥村，竹下等を訪ひ，細川子爵邸に至り子爵に面し，去て篠原宅に至る。宮原在り。晩食の饗を受け辞して奥村金を訪ひ，停車場に至り六時四五分の汽車より熊本に帰る。
九月十七日　陰。東京池邊源太郎，佐世保原田情八の信至る。渋谷に発信。朝吉住伴吾来訪。午後中村六蔵，津野一雄来訪。
九月十八日　晴。午前山田直熊を誘ひ，佐々干城氏を水前寺に訪ふ。葉室諶純来会。中食の饗を受け，出て村上一郎を訪ひ小談。再び佐々氏に至り葉室，山田と熊本に帰る。留守中渋谷，小林来訪。夕刻東京佐々木旅館の女将来訪。夜小林政一来訪。
九月十九日　晴。朝佐々干城，渋谷繁次来訪。夜尾越辰雄を山崎町に訪ふ。戦地佐野直喜の信至る。
九月二十日　晴。是日より藤崎宮祭を執行す。佐々友房，土屋員安，戦地亀雄の信至る。佐々氏に復書す。午前井野春毅来訪。夜武藤虎太を訪ひ，十一時半帰る。成田與作より写真を送り来る。
九月二十一日　晴。朝藤井安俊来訪。午前井野の処に至り歯を療治す。午後橘三郎，尾越辰雄，上田小三郎来訪。夜山田直熊来訪。戦地阿部野，亀雄，藤本親信等の信至る。
九月二十二日　晴。朝毛利篤来訪。午前井野の処に至り歯を療す。盛惟信，佐々木四方志，荘村秀雄の信到る。橘の上海行に托し井手に致書す。工藤常三郎の信至る。
九月二十三日　晴。朝橘三郎来訪。午前井野に至り歯を療す，正午帰る。早川新次来り呉汝倫の書を贈る。本日より渡清すと云ふ。小笠原節来訪。午後津野一雄，葉室諶純，佐々干城来訪。
九月二十四日　雨。早朝藤崎宮の被幸式を見る。岳翁来顧。午前井野に至り歯を療す。勝木恒喜，橘三郎，清藤幸七郎に発信す。戦地阿部野，岡幸七郎，城三十郎，奥村銑吉の信至る。勝木の信に接す。牛荘松倉善家に発信す。
九月二十五日　晴。午後葉室諶純，井上致廣，安達謙造来訪。夜井野春毅来訪。
九月二十六日　晴。出征中の岡幸七郎，佐野直喜，阿部野利恭，奥村銑吉に復書し，佐々友房，佐々木四方志，工藤常三郎に復書す。
九月二十七日　晴。安達謙造の信至る。之に復す。
九月二十八日　晴。午前池田勇，葉室諶純，吉田徳章来訪。戦地緒方二三，阿部野利恭，鍋島伍三郎の信並に八田三郎，米原繁蔵の信至る。佐々干城，安冨喬に発信す。午後宇土細川子爵，尾越辰雄，奥村金太郎来訪。奥村は第八師団附として本日より出発すと云ふ。佐々友房の信並に橘三郎長崎よりの片信至る。夜葉室の処に至り晩食す。
九月二十九日　晴。戦地緒方二三の信至る。
九月三十日　晴。午後葉室来訪。午後雨。
十月一日　陰。藤本親信，本島正礼戦地よりの信至る。佐々友房，寺崎三郎両氏に発信す。高道梅雄来訪。午後第九銀行支店に至り貯蓄債券十枚を受取り，帰途井上致廣，上野寅彦，津野一雄を訪ひ帰る。雨。
十月二日　陰。朝上野寅彦，津野一雄と御船口より馬車に乗じ，十一時御船に至り永原虎雄を訪ふ。永原喜迎酒肴を具して歓待す。仲光某亦来会。盤桓夜に及んで辞し，馬車を賃して熊本に帰る。時九時なり。留守中井野，安達来訪せりと云ふ。福岡成田與作の電，安冨喬，阿部野，本田選の信至る。
十月三日　晴。朝安達謙蔵，成田與作，井野春毅来訪。安達は本夕より満韓遊歴の程に上ると云ふ。本人の為に安東県の大原武慶に添書す。成田は同文書院第五期生募集の為に来りしものなり。大孤山岡

幸七郎の信至る。永野金，渋谷繁来訪。木野村政徳に発信す。根津一，鋳方徳蔵に発信す。晩成田與作来訪，食事を共にす。中村六蔵来訪，九時去る。十時池田駅に至り安達の韓国行を送る。

十月四日　晴。午前岳翁，渋谷繁，葉室来訪。葉室を留て中食す。午後佐々干城，中島美喜雄，牛島貫吾来訪。夜山田直熊来訪。

十月五日　晴。朝渋谷，勝木恒喜来訪。牛島正巳の信至る。藤森茂一郎に其父の死を弔す。小林政一，深水清来訪。池邊源太郎に発信す。五時井野春毅の招激に赴く。同座は辛島格，清田軍医長，山田珠一及予なり。九時散帰。

十月六日　晴。朝佐々干城，山本熊太郎，葉室諶純，小林政一来訪。午前葉室と出て毛利，山田直熊を訪ふ，在らず。午後中村六蔵氏来訪。藤本親信，米原繁蔵に発信す。夜上野寅彦，園田郭六等を訪ふ，在らず。

十月七日　晴。亀雄に発信す。午後池田勇，中川鋭雄来訪。深水清来訪。

十月八日　晴。古城貞吉，西村天囚の信至る。両人に復書す。毛利来訪。五時園田郭六の招邀に赴く。大畑純次，千田一十郎，毛利篤来訪。十一時帰る。

十月九日　晴。上野寅彦を訪ふ，永原虎雄在り。去りて津野宅に至り晌午帰る。中食後津野，永原，上野等と山崎町護全公葬儀遥拝式に臨む。会する者約二万人。帰途渋谷繁次を訪ひ其従軍を送り，阿部野宅を一訪して帰る。片山敏彦御船よりの信至る，昨夜漢口より帰来せりと云ふ。

十月十日　晴。戦地阿部野利恭の信至る。午後葉室来訪，共に出て山田直熊を誘ひ，紅葉山より泰勝寺に徜徉し室園に出で，五時半帰る。藤森茂一の信至る。夜家族と出て通町に至り鶏飯を吃し，帰途河口を訪ひ，十時帰る。

十月十一日　晴。銃猟免状の願を出す。午前岳翁来訪せらる。深水清の信至る。之に岷江四日記を賃与す。晩葉室諶純，山田直熊，河口介男を招飲す。十時半散ず。満洲福島安正，篠原邦威の信至る。

十月十二日　晴。午前深水清の清国行を池田に送る。駅長大野謙と談じ，十二時帰る。西村時彦，田岡正樹の信到る。之に復す。戦地本島正礼，篠原邦威に発信す。夜葉室を訪ふ。鋳方徳蔵，緒方二三の信至る。

十月十三日　晴。正午片山敏彦来訪，本日より戦地に赴くと云ふ。村上虎雄来訪。夜葉室来訪，共に出て河口を誘ひ，銃猟用品を購ふ。微雨。

十月十四日　陰。門司佐々友房氏の信至る，昨日より台湾を経て南清に赴くを報じ来る。阿部野利恭，池邊源太郎の信至る。小笠原昂来訪。夜大江を訪ふ。雨。

十月十五日　雨。午前澤村雅夫，田尻，葉室来訪。鋳方徳蔵，緒方二三，深水十八に発信す。田畑，井野に発信す。夜河口来訪。

十月十六日　晴。午前四時半河口，安田と中島新地に猟す。七時半着，九時半に至りて所携の弾薬二十九発を打尽し，鷺五羽，鷸七羽を獲，午後二時半帰熊。小林政，鶴田来訪。

十月十七日　陰。晌午より家族を伴ひ塩浜に至り，中食後桂原の蕉夢庵に遊び，六時帰る。七時八分の松橋発汽車にて熊本に帰る。高道梅雄，渋谷繁次，緒方二三の信至る。

十月十八日　晴。藤本親信より煙草を小包にて送り来る。藤本，高道に発信す。午後峯野某の葬式に臨む。葉室，河口，阿部野母堂来訪。

十月十九日　陰。午後永原虎雄来訪，留て晩食す。夜大野謙来訪。

十月二十日　雨。戦地鍋島伍三郎の信至る。午前葉室を訪ひ，正午帰る。木野村，大野謙に発信す。山田直熊，葉室諶純来訪。

十月二十一日　晴。西村天囚の信至る。

十月二十二日　晴。午前井野，池田勇，中島美喜雄を訪ひ，十二時帰る。午後井野来訪。上海井手三郎に発信す。

十月二十三日　晴。午前四時半河口，安田と中島新地に猟す。鳴十三羽獲，五時帰る。戦地岡幸七郎の信至る。留守中三浦晟彦氏来訪。是日猟より帰途井手宅を訪ふ。

十月二十四日　雨。葉室，平田来訪。西村天囚に発信す。鶴田斌の信至る。

十月二十五日　雨。午前池田駅に大野謙次郎を訪ひ小談。帰途葉室宅に小坐，十二時帰る。郡島忠二郎の信至る。

十月二十六日　晴。午前岳翁，佐々干城氏来訪。佐々氏を留て中食す。夜河口を訪ふ。

十月二十七日　晴。戦地佐野直喜，緒方二三の信至る。郡島，岡に復書す。正午大江に至り中食，帰途齋藤久熊，津野，上野を訪ふ。

十月二十八日　晴。午後武藤虎太来訪。岳翁を請ふて晩食す。鋳方徳蔵，西村天囚の信至る。渋谷の母堂，高道梅雄等来訪。

十月二十九日　晴。午前肥後，第九両銀行に至り預金利息を受取り，帰途三浦晟彦，尾越辰雄，西本清，阿部野，牛島宅を歴訪して帰る。山本熊太郎，葉室諶純来訪。上海町野晋吉の信至る。佐々干城に発信す。齋藤久熊来訪。

十月三十日　晴。午前四時発山本と西山の樟渓に猟す。小鳥僅に四羽を獲，十時山を出で，午後帰る。夜葉室来談。

十月三十一日　晴。朝大野謙次郎を池田に訪ひ，葉室の姪縁談一件の調ひしを告げ，葉室と池田駅に会し，汽車にて春日に至り住江常雄を訪ひ，十一時辞帰。帰途宇野貞房を訪ふ。佐々干城氏より画湖の鮒魚を贈り来る。午後葉室来訪，之を留て晩食す。夜山田直熊来訪。篠原邦威より金十五元を返却し来る。

十一月一日　健晴。戦地勝木親信，篠原邦威の信到る。朝佐々干城来訪。木野村に山本生の履歴を郵送す。生田少佐来訪。亀雄，篠原，藤本に発信す。佐々干城氏来訪。

十一月二日　晴。米田虎雄氏より護全公銅像建設の発起人に加名を勧め来る。上海井手三郎の信至る。午前大野謙次郎，山田直熊来訪。午後山田直熊と下画津村に猟す。鳩一羽を獲，薄暮帰る。牛島貫吾，小林，池田等来訪せりと云ふ。夜葉室，渡邉小文次来訪。予の猟銃並に附属品一切を二十六元にて富永に売与す。渡辺受取て帰る。

十一月三日　健晴。天長節。午前中島美喜雄来り，戦地に赴くを告ぐ。勝木恒喜，葉室諶純来訪。晌午碩台幼稚園の開園式に臨む。是日三浦喜傳の為に葉室の姪を媒灼せる事の成立せしを以て，午後葉室を訪ひ正式の礼を叙す。晩葉室の東道にて寺原庚申橋畔の小旗亭に会食し，六時帰る。生田少佐より書信並に毛織物一巻を贈り来る。

十一月四日　晴。土屋員安の信至る。木野村，佐々干城に発信す。葉室来訪。冨永冨雄来訪。

十一月五日　晴。国庫債券二百円を申込む。午前大野謙，葉室を訪ふ。木村万作より蟶一包を贈り来る。午後浅井友雄来訪。

十一月六日　朝降霰，寒気頓に加ふ。午前四時半河口と春日の一番にて松橋に至り，湊山に猟し兎一頭を獲，転じて塩浜田畑宅に至り中食。鷸を猟して四羽を獲，夜に入て帰る。是日南山の頭初て雪を見る。

十一月七日　晴。奥村銑吉，亀雄，緒方二三，勝木等の信至る。午前池田勇，葉室来訪。
夜河口の移転宅を竹屋町に訪ふ。

十一月八日　晴。香山俊雄台湾よりの信至る。昨日井場熊喜来訪。国庫債券申込額の増加を勧めしを以て二百円を改て六百円と為す。午前葉室を訪ひ，去て大野謙を池田に訪ひ縁談一件に付き交渉し，帰途葉室宅に小談，十一時帰る。宇野貞房来訪。午後葉室，山田直等を招き，兎を割き会食す。十時散去る。是日午後可徳乾三来訪，茶三包を贈る。

十一月九日　健晴。小林政一来訪。上海深水清，戦地盛惟信，広島阿部野の信至る。阿部野は近日戦地

より帰来せる者なり。内田友義，亀雄の信至る。

十一月十日　晴。朝山田直熊と神水に至り其兄相部方に立寄り，小舟二隻にて画湖に漁猟す。予は猟銃を携へ，相部列は漁網を投じ，漁獲する所少なからず。十二時中島にて鮮を割き会食す。加来信人亦来会。午後山田と諸氏に別れ小舟に棹して沙取に来り，徒歩熊本に帰る。池田勇並に戦地上田賢象，三浦國器，緒方二三及び生田清範，澤村大宇等の信至る。

十一月十一日　午前宇野貞房来訪。共に出て葉室を訪ひ，十二時帰る。生田清範，澤村大宇，西村時彦，清浦農相，早川新次，亀雄，農商務省商工局，緒方二三，荘村秀雄，上田賢象等に返信或は発信す。農商務商工局より荘村の近状を尋来る。葉室侃温の信至る。午後井野春毅来訪。高道梅雄の信至る。夜大江を訪ふ。

十一月十二日　晴。牛荘松倉善家，上海根津一，復州本島正礼の信至る。天草田中清司の母病死の電報至る。田中に弔状並に香典を郵送し，高道に復書す。午後葉室，村上一郎，松村亀源来訪。

十一月十三日　陰。午前五時半池田駅より上車，河口外一人と植木に至り下車，木留に猟す。午後大雨，衣帽尽く沾ふ。僅に小鳥三羽を獲，植木四時二十分の汽車にて帰る。夜中村六蔵氏来訪。

十一月十四日　雨。戦地岡幸七郎，西本省三並に木野村，田中清司等の信至る。午前山田珠一来訪。午後上車，雨を衝て出で，木村万作，勝木恒喜等を訪ひ，去て細工町阿弥陀寺に辛島格母堂の葬に列す。三時帰る。夜山田直熊，上野寅彦，高岡政二来訪。

十一月十五日　半晴。高道梅雄に発信す。高道，佐々干城，前田彪来訪。阿部野の信至る。午後出て藤本，阿部野宅を訪ひ，可徳乾三を敲き，前田を研屋支店に訪ふ，在らず。澤村宅に至り不破等に会し，四時帰る。葉室，勝木来訪。

十一月十六日　風。午前佐々干城，勝木，葉室来訪。晌午勝木，葉室と前田彪を研屋支店に訪ひ中食，三時帰る。亀雄の信至る。木野村，鋳方に発信す。黄昏村上一郎より上海同文書院生徒派遣の事に付き商量を求め来る。鎮西館に至り国権党の県会議員等に会し，五時半帰る。

十一月十七日　晴。午前五時澤村雅夫を誘ひ，東門寺，楠谷に猟し，小鳥十羽を獲，四時半帰る。湖南白岩龍平，上海井手三郎の信至る。夜齋藤久熊来訪。

十一月十八日　晴。午前安達謙造来訪。午後津村を訪ふ。

十一月十九日　晴。阿部野の信至る。午前安達，井野を訪ふ。田畑に復書す。午後井野来訪。夜津野，永原来訪。

十一月二十日　晴。午前四時中村六蔵，齋藤久熊，澤村雅夫，河口，大谷等と梶尾，大鳥，明徳地方に猟し，六時帰る。獲る所無し。小川不破昌材より海東の猟を約し来る。之に復書す。

十一月二十一日　晴。戦地山中寛太郎，兼松磯熊，亀雄の信至る。名護屋阿部野利恭より一閑張の菓子器五枚を送り来る。雨森秀来訪。高田政二来り，本日より従軍の為め熊本を辞するを告ぐ。宇土奥村傳，齋藤久熊来訪。

十一月二十二日　雨。正午葉室の韓国行を池田駅に送る。帰途大野謙二郎の処に小談，帰る。根津長崎よりの電報至り，鳥栖にて会合を求め来る。夜山田直熊来訪。中村六蔵来訪。

十一月二十三日　晴。根津一熊本に来訪の電報至る。三時之を池田に迎へ拉し帰る。根津一泊，予に上海同文書院長代理たらんことを勧む。

十一月二十四日　晴，厳霜。午前六時半根津を池田駅に送り，帰途澤村を一訪して帰り，結束して池田に至り，九時十分の汽車にて小川に至り，駅長不破昌材の寓に投ず。中村六蔵，澤村雅夫先づ在り。十二時中村，不破，澤村三人と導者を従へ種山附近に猟す。夜に入て帰る。小鳥四羽を獲。

十一月二十五日　陰。午前五時不破，澤村と相伴し，海東附近の西山に猟す。鳩三羽，小鳥七羽を獲，六時不破寓に帰り，中村と共に九時十三分の汽車にて熊本に帰る。小笠原等来訪せりと云ふ。

十一月二十六日　積陰。葉室侃温，木野村政徳，阿部野利恭に発信す。生田清範，鍋島伍三郎の信至る。

夜河口の処に至り晩食す。

十一月二十七日　陰。阿部野利恭の電報至る。午前大野謙二郎其母堂と共に来訪。反物一端を贈る。夜阿部野宅を訪ふ。

十一月二十八日　晴。中川文三郎来訪。池田勇，勝木恒喜来訪。岡幸七郎に発信す。雨森某来訪。小笠原昂来訪。

十一月二十九日　晴。葉室，緒方，阿部野，亀雄の信至る。朝阿部野来訪，昨夜来着せりと云ふ。ダルニー市原より土耳古煙草一匣を送り来る。上海井手，ダルニー市原，京都根津に発信す。根津には上海同文書院長代理承諾の事を通知す。夜阿部野を訪ふ。

十一月三十日　晴。午前五時半より本妙寺天狗山に猟し，僅に小鳥二羽を獲，三時帰る。京都根津一の電報至る。晩阿部野を招き食事を共にす。夜長野金十郎来訪。鹿児島葉室侃温の信至る。旅順白岩卯一の信至る。

十二月一日　半晴。柳原又熊の信至る。午前勝木来訪。午後山田直熊，池田勇，小林政，阿部野利恭等来訪。夜河口，毛利篤，山田九郎等前後来訪。荘村生の信至る。

十二月二日　晴。午後阿部野を訪ふ。五時不破昌材来訪，之を留て晩食す。

十二月三日　晴。午前浅井友雄，山田九郎来訪。鋳方徳蔵，安達謙蔵に発信す。晌午住江常雄来訪。午時池田駅に至り阿部野，勝木の東上を送る。偶々久品介善，深水清の清国より帰来せるに邂逅す。池田市郎に発信す。夜大江を訪ふ。

十二月四日　陰晴無常。午前山田九郎来訪。土屋員安，阿部野利恭に発信。別に奥村英太の為にダルニー片山敏彦に添書す。久品介善来訪。

十二月五日　晴。朝中村六蔵，毛利篤来訪。上海林安繁より漢口へ転任の通知至る。午後浅井寅喜，中村六蔵来訪。

十二月六日　晴。午前深水清，町野健吉来訪。上海井手三郎，西田龍太，東京根津一，大阪鳥居並に井手留守宅，長崎土佐屋に発信す。出征中の亀雄，園田，西，鍋島，白石，佐野等に発信，渡清を報ず。上海白石，香月に発信す。午後井芹経平来訪。

十二月七日　晴。大掃除を為す。根津一の電報並に阿部野の信至る。阿部野に復書す。午後井野春毅，澤村雅夫来訪。

十二月八日　晩山田直熊来訪。東京根津一に復電し，別に一書を致す。上海井手列に致書，十五日長崎発の事を報ず。雨森来訪。

十二月九日　晴。午前津野と久品介善を九品寺に訪ふ，在らず。帰途池田勇，深水清を訪ひ帰る。大阪鳥居赫雄に発信す。東京根津一，阿部野の信至る。

十二月十日　晴。午前佐々干城，井手理七郎，久品介善三氏来訪。午後深水清来訪。鳥居赫雄，井手三郎，早川新次，大川愛次郎の信至る。井手，土佐屋に発信す。

十二月十一日　晴雨無常。台北香山俊雄，南京柳原又熊に発信す。山田直熊来訪。

十二月十二日　雨。葉室，田畑，土佐屋に発信す。

十二月十三日　雨。午前藤本内君，山田九郎来訪。大江，河口に至り辞行。午後雨森，不破，澤村，牛島氏来訪。夜武藤虎太，河口来訪。安達謙蔵，池田一郎，大野謙二郎，井島義雄の信至る。池田勇来訪。井島に致書す。

十二月十四日　半晴。是日清国に赴かんとす。午前佐々干城，岳翁，上野寅彦，葉室内君，牛島貫吾，大島俊雄，深水清，山田直熊，松村亀源来りて行を送る。午後池田勇来訪。夜上野，津野来訪。

十二月十五日　陰。東京根津に電報し，船の都合にて十八日のタイサン号にて渡清を報ず。長崎土佐屋に十八日の船に乗ずることを電報す。井島義雄に発信す。米原繁蔵の信至る。朝来頭痛。東京内田友義，澤村大宇に発信す。夜大野謙二郎来訪。

十二月十六日　晴。生田清範来訪。戦地岡幸七郎，亀雄の信至る。安達謙蔵に発信。午後毛利篤来訪。
十二月十七日　半晴。午前岳翁，町野，山田直熊来訪。岡幸七に復書す。夜上野来訪。
十二月十八日　晴，寒気頓に加ふ。戦地中島美喜雄の信至る。生田清範の信至る。
長崎に電報し太生号出港日時を問ふ。夜生田清範より物品を預り来る。
十二月十九日　健晴。長崎より明日便船出港の報有り。朝来結束，九時四十分家門を辞し上熊本駅に至り，十時半の汽車にて長崎に向ふ。夜八時着崎，直に車を駆りて土佐屋に投ず。夜安河内来訪，十二時去る。
十二月二十日　陰。東京根津，熊本上野並に留守宅に発信す。午前吉川季次郎来訪。共に出て浜の町に至り物品を購ふ。午後二時半出て太生号に乗ず。入江某外一人，並に保定府知府李経田同船たり。
十二月二十一日　陰。海上。
十二月二十二日　晴。夜来船体頗動揺，神気甚悪し。晌午呉松江口に達し，午後二時半上海に達す。井手列来り迎ふ。井手の寓に投ず。渡邉，安河内，前田彪等来訪。夜白岩龍平の招邀に月の家に至る。井手，前田，河野久，外一人同座たり。十時辞して篠崎を訪ひ，十一時帰る。
十二月二十三日　晴。晌午井手を辞し，同文書院に至る。職員諸氏に面会す。
十二月二十四日　晴。午前村上院長代理より事務の引継ぎを受け，事を見る。教場其他を巡視す。午後内藤，町野，川本等の学生来訪。海軍軍令部に第百三十九号報告並に東京根津，熊本留守宅に致すの書を作る。夜職員諸子と談ず。土曜会の例日にて職員一同と会食す。
十二月二十五日　晴。午前郵便局に至り書信を投函し，井手を訪ひ，中食後前田彪を松崎洋行に敲き，晩井手の招邀に豊陽館に赴く。十時滬報館に帰り宿す。是日正金銀行より預金一千百二十余円を受取り，内一千円を井手に預く。
十二月二十六日　晴。朝食後同文書院に帰り事務を視る。午後高橋，西田，村上等来訪。夜山田，田岡等来訪。海軍々令部に第百四十号報告を作る。
十二月二十七日　晴。午後同文滬報館に至り，井手と出て立花，佐原等を訪ひ，理髪を為し，去て白岩龍平，渡部正雄列を訪ひ，夜井手の招邀に杏花楼に赴き，九時帰る。
十二月二十八日　半晴。午後同文滬報館に至り，井手と出て小田切領事，村上正隆を訪ひ小談。午後五時半杏花楼に於て書院職員十四名並に立花政樹，篠崎，井手兄弟，前田彪，香月，島田等二十二人を招宴す。八時半散ず。戦地牛島正巳の信至る。蘇州白須，杭州大河平両領事に致書す。
十二月二十九日　半晴。終日書院に在て事を視る。大阪鳥居赫雄の信至る。東京根津に発信す。
十二月三十日　陰，寒気口厳。岡幸七郎の信至る。晌午井手三郎来訪，中食。井手と滬報館に至り物品数点並に新装の外套を受取り，晩食後帰る。村上，神津来訪。是日熊本留守宅，宇土細川邸，東京細川護立男，津軽男以下内外の知人九十九人に年賀状を発送す。
十二月三十一日　晴。海軍軍令部に百四十一号報告を発す。森教授の蘇州行に托し，白須直に添書す。中野熊五郎，姫田良蔵来訪。是日三十七年尽日たり。除夜の詩二首を獲。

頼無債鬼叩吾門，守尽残燈対酒罇，萍跡廿年人欲老，追思往事暗消魂。

其二

解識流光速於箭，客裏風塵欲白頭，中原逐鹿機既逸，禹鼎再造事無休，
先憂独有哲人識，功名於世復何求，羊裘一竿清為水，馬上鄧呉忽封侯，
齷齪本非男児事，俯仰無愧古人儔，空江今夜餞歳去，三杯濁酒洗旧愁。

４．明治 38 年 1 月から 12 月までの日記

明治 38（1905）年の日記は 1 年を通した一綴じになっている。前年の暮れに上海に着き，東亜同文書院院長代理として新年を迎えたのである。そして，元日は書院の新年会を開き，9 日には正月休み明けの授業を開始，16 日と 30 日には生徒が病死して，書院を挙げて日本墓地に埋葬する式を行い，3 月 15 日期末試験，4 月 9 日卒業式と続き，その間に生徒の就職を紹介したり，心配事の相談に乗ったりして，書院の日常がうかがい知れる日記となっている。院長代理の報酬はひと月 100 円で，他に海軍嘱託の手当ては，この 2 年来変わらず 3 カ月間で 400 円をもらっている。

宗方がひと頃盛んに行った中国人との交流はこの時期めっきり減って，たまに姚文藻と会う以外は，4 月 9 日の書院の卒業式に上海知県汪謠庭の他，陳李同，王清穆，姚文藻ら 30 人を招いたのが目立つ程度で，もっぱら上海在住の外交官（その中に，領事官補の松岡洋右もいた）を含む日本人と付き合っている。また，上海以外の土地に住む知り合いの日本人に連絡して各種情報を集めている。他地の日本人に情報を求めることはその頃に限らず以前から行ってきたことであろうが，5 月 12 日の日記に「福州前田，天津古閑次郎，漢口橘に清国軍艦の事を問ふ」とあるのは，そうした一例であろう。

この年も，前年に引き続き日露戦争に関する勝利の情報に沸いている様子を時折書いており，ロシア軍艦を多く撃沈させた（5 月 28 日，31 日など），ロシア軍艦が一艘呉淞港に避難してきた（6 月 4 日），書院で海軍大勝の祝賀会を開いた（6 月 2 日）などと伝えている。また，4 月 12 日には貴州から戻ってきた金子新太郎が訪ねてきたこと，6 月 15 日には 1880 年代から世話になってきた岸田吟香が 7 日に亡くなったことを記している。

6 月 29 日長崎着で日本に戻ると，8 月 26 日から 10 月 8 日まで東京におり，その間連日のごとく東亜同文会に顔を出しており，8 月 28 日は書院第 5 期生 102 名の上海行きを新橋駅で送っている。また，9 月 5 日には日比谷公園で開いた「媾和問題に関する国民大会」を身近に見物し，ロシアとの戦争終結交渉に不満で騒乱状態を起こした日本人の様子を詳しく書き留めている。その後ひと月熊本にいて，11 月 16 日に上海に着くと，3 カ月半留守にした東亜同文書院の仕事に復帰して，その年を越すのである。

ここで，明治 38 年中に書いた海軍あて報告の号数と日付けをを日記から拾い出すと次のようになる。

1 月 10 日―第 142 号，1 月 21 日―第 143 号，1 月 29 日―144 号，2 月 13 日―第 145 号，2 月 18 日―第 146 号，3 月 2 日―＊第 147 号，＊第 148 号，＊第 149 号，3 月 20 日―第 150 号，4 月 10 日―第 151 号，4 月 28 日―第 152 号，5 月 1 日―第 153 号，＊第 154 号，5 月 19 日―第 155 号，第 156 号，第 157 号，しかし，『宗方小太郎文書』には，第 155 号のみを 5 月 19 日とし，第 156 号と第 157 号については日付けを記していない。5 月 26 日―日記には号数がなく，「支那南北洋軍艦の報告を発す」とあるが，おそらくは第 158 号を指すのであろう，6 月 24 日―第 159 号，6 月 26 日―第 160 号，第 161 号，12 月 2 日―第 162 号，12 月 5 日―第 163 号，12 月 8 日―第 164 号，12 月 18 日―日記に「書信二通発す」とあるのは，『宗方小太郎文書』に照らして，第 165 号，第 166 号である可能性がある。

明治三十八年正月元日起
日誌
上海，熊本，福岡，東京，熊本，上海

正月一日　晴。午前八時院内に式場を設け聖影を拝し教育勅語を奉読す。正午職員生徒一同新年の祝杯を挙ぐ。午後安河内氏と馬車を賃し，小田切，香月，立花，篠崎，白岩，村山，郵船会社，正金，三井，瀛華，渡部等を歴訪し名刺留め帰る。井手兄弟，島田，篠崎，沈，経以下の知人来て正を賀す。白須の賀片至る。

正月二日　陰。長岡子爵，清浦，岳翁，木野村，亀井，佐々，津田諸氏に年始状を発す。午前野澤，渡辺，福岡以下学生等来て正を賀す。午後白岩，香月，領事官補松岡洋右，村山正隆，堀越允介，神津助太郎，吉永父子来て正を賀す。昨夜九時旅順の守将ステツセルより我軍に向ひ降伏状を送れりと云ふ。

正月三日　晴。近衛文麿氏以下十人に年賀状を発す。午前六時安河内，井手，外一人と龍華地方に猟し，鳩五羽小鳥一羽を獲，六時半帰る。

正月四日　晴。大河平，盛，姚，佐無田，亀川，小川辰，本田選，留守宅，亀雄の年賀状至る。亀雄は沙河の役に負傷し東京の病院に後送されしと云ふ。福岡，高橋等来談。夜西田，渡邊，安河内等を招き会食す。高等商業学校教授佐野善作等来訪。

正月五日　晴。町野晋吉の事に付き村上一郎，井芹経平に発信す。佐野善作の漢口行に托し，角田，永瀧，吉山，橘等に紹介状を与ふ。東京鋳方，吉川季二郎の事を依頼す。夜田岡，高橋を招き晩食す。

正月六日　陰。午前九時校内に於て旅順陥落の祝宴を張る。職員生徒皆集まる。予一場の式辞を演述す。午後領事館に小田切領事を訪ひ小談，去て井手を訪ひ，四時帰る。

正月七日　晴。井島，市原，前島，安宅に年賀状を発す。晩院内に於て新年宴会を催す。五時半上車，東和洋行に至り，白岩龍平の招邀に赴く。本人明日を以て帰国の途に就くと云ふ。会する者松岡領事官補，井手，渡邊，香月，立花，遠藤，村山，海事官某等なり。十時辞帰。内田，齋藤久，山田直，牛島貫，深水清，落合，小笠原等年賀状至る。

正月八日　晴。日曜日。下田一巳，浅井寅等に年賀状を発す。午前上海に井手を訪ひ，其明後十日熊本に帰るを以て之に留守宅の正，二，両月分経常費百円を托し，外に臘腸一包，水葦一包を托送す。午後白岩龍平を訪ひ別を叙す。其明日帰国するを以てなり。留守宅，友枝，工藤，鳥居，狩野，河口，池田以下十余人の年賀状到る。

正月九日　半晴。是日より開学す。東京亀雄，熊本留守宅並に工藤，友枝等に発信す。是日熊本留守宅，西村，澤村雅，鍋島，山田珠，大野謙，永原，辛島，二橋，河野，田畑，高橋謙，白須直の信至る。

正月十日　晴。海軍軍令部に第百四十二号報告を発す。亀雄，吉田，岡本豊，古川等に発信す。午前上海に至り井手三郎の帰国を送る。午後一時開船，二時半帰る。漢口林安繁の信到る。中西正樹，高橋謙，梶原，緒方二三，藤本親信に致書す。山根虎之助，三浦喜傳，坂田長平，大原信，牧巻次郎，宝妻，小篠，角田隆郎等の信至る。内藤熊喜来談。

正月十一日　陰。生田清範，佐野直喜，井原正澄に発信す。井原に生田の宿志録一冊を送り湖南巡撫に転贈方を依頼す。上田賢象，山田純三郎，岡幸七郎に発信す。澤村幸夫，福島豊，松平福等の信至る。

正月十二日　陰。生田清範，景山，住江常，大里，佐々，水野幸吉，山内嵓，佐々木，米原，藤森，高見克，上田仙，宮原，上野，新美，成田，津野，阿部野，丸山重俊，不破昌材，安達，軍令部の年賀状並に書信至る。是日早稲田大学生六人，青柳篤恒の引率にて書院を参観す。夜上妻，町野，田代を招き晩食す。

正月十三日　雨。軍令部井内，熊本留守宅，景山に発信す。軍令部井内に発信す。北京澤村，軍令部井内の報告領収証至る。守田，吉田善門，小田野，中島雄，大瀧，橘，柏原等の年賀至る。夜安河内来談。

正月十四日　晴。軍令部井内に発信す。柳原，永瀧久吉，浅井平吉の信至る。是日職員会議を開く。村上，野澤，田岡等来談。是日正月分書院俸給百円を受取る。沈文藻来訪。

正月十五日　晴。日曜日。井手，外一人と徐家滙地方に猟せんとし，午前六時出発，午後五時半帰る。僅に鳩二羽，小鳥一羽を獲たるのみ。森茂，上原医生来訪，井手友喜亦来訪。鳩七羽を獲たりと云ふ。恒屋盛服，盛惟信，宇野七郎，葉室諶純の信至る。葉室は一月初韓国より熊本に帰れりと云ふ。

正月十六日　健晴。故文廷式開弔の通知有り。賻十円を贈る。是夜書院二年生武田秀男佐々木病院に病歿す。

正月十七日　雨。午前西田と佐々木病院に至り十時帰る。熊本留守宅，東京亀雄，澤村大宇，土屋員安，

岡本源二，浅井寅喜，開運館，篠原邦威，郡島忠，牛島正巳，佐々正之，亀井英三郎等の信至る。
正月十八日　雨。午前八時書院に赴て武田学生の柩を祭り，焼香読経終はりて日本墓地に送り埋葬す。学生職員約二百七八十人之に会葬す。余喪主たり。午後一時前帰る。牛島吉郎，永瀧久吉，村山正隆等の信至る。小田切萬寿之助の信至り予に恤兵金募集の委員たらんことを求む。之を諾す。
正月十九日　半晴。高橋謙，岩間徳弥，前島真，永瀧久吉，郡島忠二郎，篠原邦威，牛島吉郎，亀雄に発信す。西田，大平，高橋，吉田，外一人来訪。
正月二十日　雨。京都土屋員安，並に井上雅二，浅井寅喜等に致書す。熊本葉室に致書す。留守宅の信至る。西本，兼松，木野村の信至る。夜雷雨。
正月二十一日　微雨。朝郵便局に至り海軍軍令部に百四十三号報告を発す。理髪後松村，篠崎，井手を訪ひ，転じて郵便局に至り郵便函を書院内に設置することを商量し，滬報館にて中食し帰る。那部，中村善次郎，高垣徳治の信至る。
正月二十二日　健晴。午前柔道の試合を臨検し，道場にて雑煮を吃し，午後福岡禄太郎と徐家滙附近に猟し鳩四羽を獲，六時帰る。川本静夫，松村亀源，森，水野梅暁等来訪。水野は昨日湖南より帰来せりと云ふ。
正月二十三日　晴。
正月二十四日　雨。熊本留守宅に発信す。厦門廣瀬貞次の信至る。
正月二十五日　雨。戦地岡幸七郎の信至る。
正月二十六日　陰。書院生徒山崎泰次郎篠崎医院にて病危篤の報に接し，朝出て之を訪ふ。帰途井手友喜を訪ひ晌午帰る。井野春毅，阿部野，岳翁，安原，留守宅，熊本商業学校山口誠一，高岡万弥，佐々干城，井芹経平，両川，生田清範等の信至る。是日天気頓に寒く風声吼るが如し。
正月二十七日　雪。初寒如刺。頭痛，晩食後就寝。阿部野に発信す。
正月二十八日　晴。井手三郎の信至る。預金証を送り来る。井手に復書し，留守宅に寄書。王孝緝，軍令部井内，恒屋感服の信至る。松村亀源の信至る。
正月二十九日　陰。海軍々令部に第百四十四号報告を発す。外に熊本商業学校山口誠一に復書す。桑田に復書す。午後福岡，井手友喜と徐家滙に猟す。残雪満地，朔風如氷，祁寒砭骨。日暮に至りて一も獲る所無し。澤村幸夫，岡幸七郎，高島義恭，池邉源太郎，八田三郎の信至る。夜安河内と談ず。
正月三十日　陰，寒甚。午前内外人数名来訪。午後出て入院患者を訪はんとす。途中其本日正午過に死去せるを聞き折回す。葬儀の準備を為す。村山正隆の信至る。
正月三十一日　陰。
二月一日　雪。学生山崎泰次郎の葬儀を日本墓地に営む。夜に入て帰る。海軍軍令部より十一，十二，一，三ヶ月の手当四百円を送り来る。外に恒屋感服，柏原文太郎，山本兼二郎，緒方二三，阿部野利恭の信至る。
二月二日　陰。海軍軍令部江頭副官に手当金の領収証を送り，外に井内に発信す。熊本留守宅，王孝緝，姚文藻に致書す。岩永法雲，南京柳原の添書を携へ来り訪ふ。岩永の東京に帰るに托し木野村に添書す。東京白岩龍平，上多津太郎の信並に牛荘牛島吉郎より写真を送り来る。夜河野，内藤，川本来訪。
二月三日　晴。海城緒方二三に復書す。牛島吉郎に発信す。晩篠崎来訪。
二月四日　半晴。是日陰暦元日たり。午前九時上海に至り井手，島田列を訪ふ。滬報館の招に豊陽館に赴き，九時篠崎を訪ひ，十時滬報館に帰り宿す。
二月五日　陰。正午書院に帰る。長沙井原真澄，留守宅，岡幸七郎，曾根原，宮坂，生田清範等の信至る。生田は第五十五聯隊大隊長として出征せりと云ふ。
二月六日　陰。熊本留守宅，内田岳翁，井原，曾根原，宮坂等に復書す。

畳前韻答生田鉄石

客游廿年何所為，漂泊呉尾又楚頭，中原雄図雖已矣，江山百二志未休，

悟道本従平易得，養気却就険処求，高人与俗不相干，眼中何曾有王侯，

欽君抱道隠卒伍，清風亮節誰可儔，竭来与子対美酒，陶然同消万古愁。

柏原文，恒屋盛服，白岩龍平，徳丸作蔵等に発信す。夜田代，川本，高橋，内藤，村上等来訪。営口根津一，與倉の電報至る。通訳八名周旋を依頼し来る。

二月七日　陰。東京亀雄の信至る。夜田岡を訪ふ。

二月八日　陰。山田珠一に発信す。内藤九一，秋永来訪。

二月九日　晴。林市蔵，留守宅，阿部野，鍋島，吉川季等の信至る。夜安河内来訪。

二月十日　晴。林，鍋島，吉川，佐々，木野村に発信す。

二月十一日　晴。紀元節。八時聖影を拝し勅語を捧読す。午後福岡と龍華に猟し鳩一，黒一を獲，夜に入り帰る。京都狩野直喜の信至る。

二月十二日　大雪。神津助太郎，田岡，町野等来訪。町野玄同，澤村幸夫，勝木恒喜の信，並に佐々友房氏より写真を送り来る。

二月十三日陰。海軍軍令部に百四十五号報告を発す。外に狩野直喜，勝木恒喜，佐々友房，東亜同文会，永瀧久吉に発信す。午前同文滬報に至り，中食後小田切を領事館に訪ひ同文書院職員生徒の恤兵金百十円を納め，村山を敲き，去て松村を訪ひ，転じて姚文藻に抵り，五時帰院す。

二月十四日　健晴。井手友，松村来訪。営口根津一，牛島吉郎，藤本親信の信至る。蘇州白須直，亀井英三郎に松村亀源を紹介す。藤井某来寓。

二月十五日　陰。阿部野の為に旅順鎮守府司令長官柴山海軍中将並に同地岡幸七郎に添書を作り，熊本阿部野に郵致す。是日書院二月分俸給百円を受取る。夜西田来談。

二月十六日　健晴。本部に農商務留学生の事，山本國三郎の事を申送る。三時森茂と西郊に散歩す。生田清範，井手三郎，鳥居赫雄，恒屋盛服の信至る。

二月十七日　健晴。鳥居，井手に復書す。戦地生田少佐に復書す。三時渡邊と西郊に散歩す。福州前島真の信至る。

二月十八日　陰。同文会恒屋，北京内田康哉に発信，恒屋に□政考の出版見合せ並に興業銀行に卒業生入込みのこと，内田に税関希望者四人の推薦を依頼す。海軍軍令部に第百四十六号清国外債の報告を発す。姚文藻の信至る。白須直，松村亀源の信至る。白須に復書す。

二月十九日　積陰。午後福岡禄太郎と龍華に猟す。鳩一羽を獲，七時帰る。松村の信到る。佐原篤介来訪せりと云ふ。夜渡邊，安河内来談。

二月二十日　午前快晴，午後雨意。三時郊外に散歩す。内田康哉，井原真澄に発信す。熊本留守宅，宇野海作，池邊源，美作，笠等の信至る。内藤九一，秋永，若杉等来談。安河内を訪ふ。

二月二十一日　雨。熊本留守宅，山口誠一に発信す。夜内藤を訪ふ。

二月二十二日　晴。池邊，美作列に復書す。熊本留守宅，永瀧久吉，内田友義の信至る。夜真島次郎，外三名来訪。

二月二十三日　陰。熊本留守宅，永瀧久吉に発信す。夜西岡，渡邊と会食す。実相寺貞彦の信至る。

二月二十四日　雨。朝正金銀行に長，実相寺を訪ひ，去て松岡を領事館に敲き，滬報館に至り中食し，午後篠崎を訪ひ，三時帰院。夜森茂を訪ふ。

二月二十五日　陰雨迷濛。南京柳原又熊の信至る。夜安河内を訪ふ。

二月二十六日　雨。日曜日。校員伊藤原七，鮭魚の子粒を贈る。頗美味。

二月二十七日　陰。藤井の漢口行に托し橘，角田，澤村，福島，平田等に添書す。福州前田彪の信，並に東京恒屋盛服より其厳君の訃を報じ来る。三時より高橋，渡辺と龍華街道を散歩す。春寒頗烈。

二月二十八日　陰。前田彪，生田清範に復書す。海城緒方二三の信至る。夜渡邊来訪。
三月一日　晴。　時間後高橋昌二と郊外に散歩す。松村亀源来訪。
三月二日　陰。恒屋盛服に弔詞を発し奠儀二円を送る。海軍軍令部，第百四十七，八，九，三号報告を発す。
三月三日　微雨。戦地福島安正，東京高島義恭に発信す。営口深水十八の信至る。熊本岡本大八より朝鮮飴一箱を送り来る。夜田岡正樹，内藤，渡辺来談。
三月四日　晴。深水，岡本大八に発信す。午後篠崎に至り学生の入院せる者を訪ふ。帰途同文滬報館に至り五時帰る。渡辺，安河内来訪。
三月五日　晴。日曜日。悪寒頭痛。午後神津助太郎来訪。夜森，渡邊，田岡，村上等来訪。
三月六日　晴。高橋謙に発信す。高橋謙，岡幸七郎，佐々木盛一，鍋島伍三郎の信至る。夜秋永，外一人来訪。
三月七日　晴。熊本阿部野，留守宅，恒屋，佐々友房，内田友義，同文館に発信す。同文館には東洋歴史大字典を注文し，金七円三十銭を為替にて送り，書籍は熊本に送るべきことを告ぐ。内田友義に金五円を送る。恒屋盛服，阿部野利恭，松村時次，勝木恒喜，井口一彦等の信至る。
三月八日　晴，春色頗動。根津，恒屋，阿部野に発信す。郊外に散歩す。
三月九日　晴。佐々友房，阿部野，鍋島五三郎，井口一彦，柳原又熊等に復書す。午後福岡と龍華に猟す。獲る所無し。鳥居赫雄，渡辺申十郎の信到る。白岩龍平より日本之将来一冊を送り来る。
三月十日　雨。白岩龍平，徳田廣作に発信す。午前青山学院長本多庸一，明治学院総理井深梶之助，文学士伊藤允美，津久井徳次郎，海事官木村，並に加藤駒二等来訪。本多，井深は仏国に開催する基督教青年大会に臨席の為渡欧する者なり。伊藤等は広東師範学堂に聘せられ赴任の途次なり。安河内，若杉，吉田等来訪。
三月十一日　雨。海軍軍令部江頭副官より二，三，四，三ヶ月分手当四百円を送り来る。軍令部に金子領収証を発す。熊本渡邊申十郎に復書す。晩土曜会に臨む。夜雷雨。夜学友会委員来訪。
三月十二日　雨。日曜日。午前同文滬報館に至り，午後阿多豊介を豊陽館に訪ふ。三時松村を一訪して帰る。長沙井原真澄，東京井手三郎，戦地上田賢象の信至る。内藤熊喜，秋永，村上貞吉来訪。井芹より多士一冊を送り来る。
三月十三日　雨。夜神津来訪。
三月十四日　雨。営口牛島に発信す。夜西田，根岸，渡邊等と談ず。
三月十五日　快晴，午後陰。是日より学期学年試験を執行す。長沙井原，漢口永瀧に発信す。三時高橋と散歩す。雨，黄昏降雪，瓦上寸許に雪を見る。熊本留守宅の信至る。客月二十六日より病気の事を報ず。永瀧久吉，恒屋盛服，阿部野，井野春毅，安達謙造，藤井，軍令部の書状至る。是日三月分書院俸給百円を受取る。神津来訪。夜積雪四寸許。
三月十六日　雪。東京佐々友房氏に発信す。井野春毅に復書す。熊本留守宅，上田賢，安達謙蔵に復書す。北京内田康哉，清子，恒屋，樋野，上多の信至る。午後馬車を雇ひ商業会議公所に至り，商務部主事王清穆丹揆を訪ひ小談。帰途神津を敲き四時半帰る。安河内，内藤来訪。根津一の電至る。本日戦地より伏見に帰着せりと云ふ。
三月十七日　陰。根津，恒屋，永瀧に致書し，清子に復書す。三時郊外に散歩す。
三月十八日　雨。土曜会に臨む。
三月十九日　雨。日曜日。西田，森来訪。
三月二十日　陰。海軍軍令部に第百五十号報告を発す。安慶佐久間浩に発信す。三時郊外に散歩す。東京池邊源太郎より富士登山紀を写し諸友の批評を加へし者を郵送し来る。清藤幸七郎の信至る。夜西田を訪ふ。

三月二十一日　陰。若杉，野満来訪。晌午農商務参事官宿利英治，特許局審査官富田忠詮，有賀啓太郎来訪。午後二時滬報館に至る。阿多廣介，竹川藤太郎等来会。晩食後九時辞帰。微雨。

三月二十二日　陰。三浦学生の為に木野村並に津軽行雅男に添書す。三時高橋正二，渡辺繁三と郊外を散歩し五時帰る。戦地鍋島五三郎，内田友義，熊本留守宅の信至る。

三月二十三日　晴。午後三時高橋，内藤と郊外を散歩す。四時半帰る。上田仙太郎，井手友喜来訪。上田は独逸行の途次本日寄港せる者也。五時上田等と出て豊陽館に至り島田，井手を合し四人会食。十一時帰る。微雨。河口介男の信並に竹川藤太郎より諸葛武侯廟記及び曾国藩の石刻二葉を贈来。

三月二十四日　微雨。池邉源太郎，木野村に発信。外に内田康哉に復書し学生薗村の事を依頼す。午後正金銀行に長鋒郎を訪ひ卒業生三人の事を依嘱し，第四回国庫債券五百円を申込む。二時公園に於て熊本学生一同と撮影し，三時豊陽館に至り湖南行の内藤熊喜，卒業生の内藤九一，秋永勝の送別会に臨む。上田仙太郎亦来会。席に列する者十又七人。七時散ず。八時帰寓。根岸佶，薗村楠太郎，石井久次，内藤熊喜来訪。是日一年生杭州旅行の先発として職員渡辺繁三，校員小貫久を派す。上田明朝出発，独逸に向ふ。

三月二十五日　雨。石井生の為に木野村に発信す。田中，真島両生を招き其身上の事に付き説く所有り。午後滬報館に至る。四時大東碼頭に至り一年生七十余人の杭州に修学旅行するを送る。西田舎監之を引率す。遠藤，河野久等に面し五時帰る。夜根岸佶，西山保荘，田中虎松，吉田等来訪。

三月二十六日　陰。領事館に学生杭州旅行届を為す。西山生の為に守田利遠，水野幸吉等に添書す。午前安河内を訪ふ。午後田中，川本静夫，若杉要，波多野養作，柿西，秋永勝，阿多廣介，野満四郎，内藤九一等来訪。晩職員一同にて内藤の湖南行を餞別す。

三月二十七日　晴。山田珠一，上多津太郎に致書す。上多には九谷焼の花瓶を贈りしを謝す。高橋正二の外に林市蔵に発信す。午後齋藤元昇，朝稲義孝，佐久間盛吉，田中，西山諸生来訪。五時内藤の留別会に臨み，七時森と徒歩商船会社碼頭に至り，内藤を送りて大貞丸に至り，十二時山田と共に帰院。

三月二十八日　晴。熊本河口介男に復書す。午後郊外を散歩す。春色頓に動く。晩藤井漢口より帰来。澤村幸夫の信至る。夜入浴心臓異有るを覚ふ。静坐少時即治す。安河内を訪ひ十一時帰る。

三月二十九日　健晴，春光可人。午後郊外に散策す。二時秦長三郎祝勝会の事に付き来て商量す。漢口橘三郎の信至る。真藤，秋永，薗村以下七八人来訪。

三月三十日　健晴，暖気頓に催す。午前井原鶴太郎来訪，安東県に赴く者なり。留て中食す。是日午後より寓所を移す。夜杭州旅行の一年生帰来す。井原に托し太原武慶に致書す。波多野，柿原，内藤以下十余人の為に，通訳の事に付き木野村及び同文会本部に添書す。東京亀雄及び井手三郎の信至る。

三月三十一日　雨。杭州大河平隆則，並に亀雄再従軍の事に付き晴氣市三に書状を発す。漢口永瀧久吉の信至る。午後二時職員会議を開き三学年生の級落を議定す。

四月一日　雨。是日より授業を開始す。明日より帰国の学生交も来りて辞行す。

四月二日　積陰。是日張園に於て居民全般の祝勝会を催す。正午之に赴く。雨。五時式場を辞し，滬報館に至り晩食し十時帰院。緒方二三奉天よりの信至る。熊本留守宅，井野春毅，恒屋盛服，白岩龍平，根津一，亀雄の信至る。

四月三日　陰。阿部野より渤海湾漁業組合契約書を送り来る。上田仙太郎より香港着の報至る。長崎根津一の電報に接す。

四月四日　晴。熊本留守宅，亀雄，佐々友房，阿部野，井野，安達等に発信す。

四月五日　晴。九時上車滬報館に至り，正午郵船碼頭に至り根津一，井手三郎を迎ふ。井手の処に小談，二時帰寓。午後根津と諸処の事を商量す。晩職員一同と会食す。営口與倉中佐の電報至り通訳十名許推薦を依頼し来る。長岡子爵，山口誠一，内藤熊喜の□至る。

四月六日　健晴。午時井手三郎来訪。一時より学友会並に三年生の送別会に臨む。夜根津招飲。熊本留

守宅，大河平隆則，高橋謙，岡幸七郎等の信至る。
四月七日　快晴。午後一時井手三郎を訪ふ。晩篠崎，阿多来会，八時半辞帰する。（約１５字不明）
四月八日　晴。福島安正，内藤熊喜，内藤九一，佐々木盛一，西山保荘の信書並に漢口永瀧領事の電報至る。卒業生にして湖北警務学堂に聘せられし者三名に旅費三百八十円を送るを報ず。同文会恒屋に発信す。東京同文館より注文の東洋歴史大字典を送り来る。直に之を熊本に転送す。夜根津の処に会食す。
四月九日　陰。旅順岡幸七郎，熊本商業学校山口誠一に復書す。是日書院第二期生卒業の典を挙んとす。朝来之が準備に従事す。午後一時上海知県汪瑤庭を先着とし，呉重熹，呂海寰，陳李同，王清穆，姚文藻等の清人約三十人，日本人三四十人来会。二時半開式。余，青木子爵，長岡子爵の祝辞を代読す。式終はりて立食の宴に移り，煙火三十発を放つ。五時席散ず。夜安河内，町野，川本，上妻，田代，瀬浪等来訪。
四月十日　陰。海軍々令部に百五十一号報告を発す。午後一時日本墓地に至り学生二名の建碑式に臨む。
四月十一日　雨。午後三時上車井手の処に至り，六時半研究所出身の招待に豊陽館に臨む。会する者根津，井手，沢本，香月，秦，河野，遠藤，土井，高橋正二及予の十人なり。十時辞して井手の処に至り十一時半帰寓。
四月十二日　晴。午後三時西田，渡邉と郊外に散策す。桃華半ば開き，柳条如糸，菜黄麦緑，春色如海。奇兵営都司羅楚材来訪。内田岳父，三浦稔，岡本豊喜，佐野直喜の信至る。漢口永瀧より湖北に聘せる学生三名の旅費三百六十五元を送り来る。午前金子新太郎来訪，貴州より帰来せる者，豹皮一枚を贈る。中食後去る。明日の便船にて帰国すと云ふ。
四月十三日　雨。午後加藤駒二来訪。四時杏花楼に滬報館の招邀に赴く。会する者和田農商務次官，阿多廣介，根津一，井手兄弟，及予なり。八時辞帰。亀雄，上多の信至る。亀雄は歩兵四十九聯隊第二中隊に従て再び出兵すと云ふ。
四月十四日　晴。永瀧に金子領収書を発す。内田岳翁，留守宅に発信す。東京佐々友房氏に返書す。佐々友房氏の書信至る。午後上海に至り洋銀を日本紙幣に兌換し四百三十一円を以て国庫債券五百円額の全部払込を為す。井手の処に晩食し十一時帰る。
四月十五日　晴。土曜日。是日書院俸給百円を受取る。午後郊外に至り桃花を見る。是日南阡北塢，春色十分，詩思頻に動て吟竟に成らず。戦地生田清範の信二通並に本島正礼の信至る。
四月十六日　日曜日。陰。午前井手来訪。晌午西郊桃林の中に宴席を設け花を観る。会する者井手，根津，田岡，森，村上，福岡，安河内，渡邉，河野，秦，遠藤，大平以下十人。三時散ず。井手，田岡，森と談ず。生田清範の信至る。
四月十七日　雨。熊本留守宅，東京内田友義の信至る。晩院内に於て高田早苗，青柳篤恒等を招飲す。生田清範に発信す。
四月十八日　晴。三時渡邉と郊外に散歩す。白岩龍平に発信す。
四月十九日　雨。池田勇の信至る。阿多廣介来訪。夜根津の招邀に赴く。
四月二十日　晴。四川学生運姓，重慶徳丸の信を携へ来訪。安達謙造，内藤九一，晴氣市三，柏田哲男，開運館の信至る。内田友義，中島真雄，井原真澄に発信す。
四月二十一日　陰。東京晴氣市三の信至る。晴氣に復書す。晩村上貞吉の招邀に杏花楼に赴く。十時帰る。柳原又熊の信至る。
四月二十二日　晴。西本省三，岩永法電，内藤九一，山田珠一等の信至る。午後郊外に散歩す。井手三郎来訪。四時杏花楼に至り根津を餞別す。九時帰る。
四月二十三日　日曜日。午後一時出て阿多廣介を泰東同文局に訪ひ，去て村上貞吉の法律事務所に至り

小坐，転じて井手を敲き寛談，根津亦来会，晩食後車を雇ひ十時半帰る。雨。
四月二十四日　雨。西本省三，海軍々令部に発信す。午後三時半呂海寰，呉重熹来訪。
四月二十五日　雨。夜根津の招邀に杏花楼に赴く。九時帰る。湖南内藤熊喜の信至る。
四月二十六日　雨。午後三時根津一の北清行を招商局の新裕輪船に送り，帰途井手の処に至り晩食す。櫻井一久より招飲，之を辞す。八時帰る。佐々友房，生田清範，安達謙蔵，浅野順平，岡幸七郎，阿部野，熊本留守宅，秋永勝，船越誠一，齋藤元昇，柿原峯吉，山内嵩，恒屋盛服，波多野養作，室田平二，上多津太郎等の信至る。
四月二十七日　半晴。佐々友房，生田，井野，前田彪，安達，浅野順平等に復書す。生田は戦地より新に熊本に帰来せる者也。午前曾根俊虎，長岡子爵の紹介状を携へ来り訪ふ。正午櫻井一久，井手三郎来訪，両人を留て中食す。三時郊外に散歩す。
四月二十八日　微雨。桑田豊蔵来訪。留守宅，内藤熊喜，守田利遠，水野領事，内堀維文に発信す。晩食後郵便局に至り海軍々令部に第百五十二号報告を郵寄し，井手を訪ひ，櫻井一久の帰国を送りて帰る。
四月二十九日　雨。江口良吉の信至る。緒方二三，榎友次郎の信至る。二時東和洋行に小田切を訪ふ，在らず。去て井手を訪ひ八時半帰る。森茂来談。
四月三十日　晴。午後郊外に散歩す。暖気如首夏。是日風邪の気味有り。夜吉田，野満，安河内等来訪。
五月一日　晴。海軍軍令部に百五十三，百五十四，両号報告を発す。留守宅に発信す。烏居赫雄に発信す。夜雨。
五月二日　半晴。山内嵩，緒方二三，岡幸七郎，阿部野利恭に復書す。
五月三日　健晴。長岡子爵に発信す。三時郊外に散歩す。夜森の処に会食す。
五月四日　快晴。留守宅，池田市郎，内田友義の信至る。三時郊外に散策す。夜町野，上妻，村上来訪。
五月五日　晴。午後理学博士大森房吉来訪。晩雨。
五月六日　雨。海軍軍令部より五，六，七，三ヶ月分手当四百円を送り来る。直に領収証を発す。熊本留守宅に端書を出す。午後郊外に散歩す。澤村繁太郎京都に於て病没せるを聞く。
五月七日　微雨。日曜日。午後日暉橋に至り釣魚を観る。
五月八日　雨。午後渡部正雄を東和洋行に訪ひ其帰国を送り，去りて領事館に小田切を訪ひ，帰途井手を敲き，四時半帰る。留守宅の信二封，永尾龍造，吉田徳章，阿部野利恭，高島義恭，瀬浪専平，上田賢象の信到る。
五月九日　雨。上田賢象，松田満雄等に戦地に復書す。池田市郎，永尾龍造に復書す。
五月十日　雨。四川成都山川早水の信至る。之に復す。午後三時滬報館に至り島田数雄の刺されしを見舞ひ，五時半井手列と杏花楼に至り阿多廣介の宴に臨む。九時半帰る。営口興倉中佐の電報至る。
五月十一日　快晴。午後三時福岡と龍華附近に猟す。鷺五羽を獲，七時半帰る。吉田，町野，河本来談。留守宅，海軍軍令部，米田男爵，榎，浅野順平，草政吉，平塚澄，井野春毅等の書状至る。井野よりは佐々，安達，及予の三人に対する契約書を送り来る。
五月十二日　晴。福州前田，天津古閑次郎，漢口橘に清国軍艦の事を問ふ。午後二時和田農商務次官来訪。三時森と郊外に散歩す。山根虎之助，藤井太七の信至る。山根，榎，平塚に復書す。重慶徳丸作蔵の信至る。
五月十三日　昼晴，夜雨。午後徒歩滬報館に至る。炎気如夏時。九時車を賃して帰る。風雨横射。海軍々令部井内中佐に発信す。
五月十四日　雨。日曜日。
五月十五日　快晴。米田侍従，勝木恒喜，阿部野利恭に復書し，天津速水一孔に発信す。肥後銀行熊本支店に護全公銅像建立寄附三十円を申込む。阿部野に漁業見込立たざれば中止を勧む。勝木，上多，宮村，吉田廉，櫻井一久の信至る。是日五月分書院俸給百円を受取る。

五月十六日　晴。福州前田彪の信至る。生田清範，武備学堂に招聘の事決定せりと云ふ。山内嵓に発信す。晩射的場の仮山に上る。澹月微風爽気，人に可なり。鳥居赫雄の信至る。

五月十七日　陰。前田彪，生田清範に発信す。旅順軍政署岡幸七郎，馬関永尾龍造の信至る。雨。

五月十八日　晴。留守宅，緒方二三，柳原又熊の信至る。長谷川宇太次来訪。三時郊外に散歩す。夜川本静夫，外二名来訪。

五月十九日　晴。海軍軍令部に第百五十五号，五十六号，五十七号報告を発す。同文会恒屋，熊本留守宅に発信す。万朝報記者香川悦次，大阪内藤虎次郎の紹介状を携へ来り訪ふ。夜福岡の招邀に赴く。夜半風雨。

五月二十日　雨。白岩卯一の信至る。渡部正雄の信至る。午後龍華附近に散歩す。夜土曜会に臨む。長沙井原，豊陽館香川悦次に致書す。

五月二十一日　半晴。午後上海城南門より城壁に上り，小東門内の呉服店何恒昌に至り緞子を購ひ，新北門外にて六神丸を買ひ，四馬路雅叙園に至り晩食し六時帰る。

五月二十二日　晴。午後三時阿多廣介を訪ひ，去て同文滬報館に至り九時帰る。漢口永瀧久吉の信至る。

五月二十三日　晴。漢口永瀧久吉，東亜同文会に発信す。江干の仮山に登る。

五月二十四日　晴。阿多廣介来訪。同人の為に漢口永瀧，橘，澤村等に添書し，阿多に澤村を漢口支店に用んことを勧む。福州前田彪の信至る。牧巻次郎，白岩龍平，榎の信至る。海軍々令の報告領収証至る。

五月二十五日　雨。熊本勝木，生田に致書す。前田，橘に発信す。海城桑野諦三，天津吉岡次郎の信至る。夜真島次郎来訪。

五月二十六日　晴。海軍軍令部に支那南北洋軍艦の報告を発す。天津古閑に発信し國原の事を依嘱す。午後三時郊外に散歩す。熊本齋藤久熊，葉室諶純，漢口橘三郎，村山正隆等の信至る。昨夜八時波羅的艦隊の義勇艦三隻，運送船三隻，呉淞口外に来泊せりとの報有り。一説には波艦隊二十七隻呉淞沖に来集せりと云ふ。

五月二十七日　晴。土曜日。齋藤久熊，吉川権九郎に発信す。午後井手友，島田数来訪。晩土曜会を催す。沈少坪来会。

五月二十八日　日曜日。午後二時同文滬報に至り，夜八時井手と出て和田彦次郎の帰国を送り九時半帰る。海軍軍令部井内に発信す。露国波羅的艦隊の主力を対馬海峡に迎撃中との報有り。

五月二十九日　風雨。午前，二十七日夜九時過に敵の戦闘艦四隻を対馬海峡に撃沈し敗走艦隊を浦塩斯徳の航路に向て追撃中との報に接す。夜東京電報にて敵の主力艦隊幾ど全滅せりとの快報に接す。軍国の慶事此より大なるは莫し。山内嵓，恒屋盛服，上野源次，根津一，橘三郎，隠岐嘉雄の書状並に四川徳丸の電報に接す。東京根津に発信す。

五月三十日　晴。上野源次，榎友次郎，恒屋盛服，永瀧久吉，平塚澄，福州務川信彦，橘三郎に発信す。福州武備学堂務川大尉より教師一名聘用の事を依頼し来る。是日午前九時波艦隊の運船コレヤ，スバの二隻，日本海の戦区より逃来り，呉淞に泊す。両船共に弾痕有り。

五月三十一日　晴，頗る熱。熊本安達，海軍井内中佐に発信し，船越学生に復書す。長沙内藤熊喜の信至る。去る二十七日午前六時，対州沖ノ島附近に於て我聯合艦隊は露軍波羅的海艦隊を迎撃し，二十九日迄の聞に於て敵の戦闘艦二隻，海防艦一隻，巡洋艦五隻，特務艦二隻，駆逐艦三隻を撃沈し，戦闘艦二隻，海防艦二隻，特務艦一隻，駆逐艦一隻を捕獲し三千人の捕虜有り。且つ敵の司令長官ローゼストウエンスキー中将を擒にして全軍覆没に至らしめ，我鑑艇に損害無しとの報に接す。夜森，田岡，山田等と晒台に閑話し，深更就寝。

六月一日　晴。熊本留守宅に発信す。晩食後江干に散歩す。

六月二日　陰。午前九時書院内に於て海軍大勝の祝賀会を催す。京都高見，廣川翁に発信す。勝木，宝妻，波多野，池田，日野，永尾の信至る。夜雨。川本，五十嵐，外一名来訪。

六月三日　陰。土曜日。海軍井内，東京根津に発信す。午後井手，村山等を訪ひ，井手の処に晩食し九時帰る。生田清範，岫巖軍政署齋藤七郎，三浦稔の信至る。

六月四日　陰。生田清範，前島真，佐々友房に発信す。午後安河内と香月を訪ふ，在らず。篠崎の処に小談，去て井手を訪ひ八時半辞帰。是日午後露の敗艦水雷駆逐艦一隻呉淞口に至る。戦地緒方二三の信至る。他出中東亜公司の岩井重太郎，津村順天堂，三木佐助，鈴木敬親等来訪せりと云ふ。

六月五日　晴。生田清範，岡幸七郎，和田俊雄の信至る。東京同文会，恒屋，根津に発信。外に岫巖軍政署齋藤七郎，熊本齋藤久熊，四川徳丸，下関永尾等に発信す。晩食後江干に散歩す。

六月六日　晴。全州緒方二三に復書す。午後會田常夫来訪。晩食後江辺に散歩す。日本瓜生艦隊呉淞口外に来り（四日の事なり）。駆逐艇一隻本日上海に入港。

六月七日　晴。是日陰暦端午節に当るを以て放学す。午後領事館に小田切を訪ふ，在らず。井手に抵り小談，帰る。国原生来訪。

六月八日　雨。海軍軍令部に発信す。和田農商務次官，小田切，永瀧等に発信す。外に営口軍政署與倉中佐，旅順岡幸七郎，東京勝木に致書す。東京白岩より蒼海遺稿一冊送来。山内嵓，榎，上野源七，恒屋盛服，永尾龍造，白岩龍平，箱崎志津摩等の信至る。

六月九日　陰。山内嵓，白岩龍平，岡幸七郎，上野源次，渡部正雄等に発信す。晩食後森，高橋と江干に散歩す。

六月十日　晴雨無常。恒屋，箱崎，津野，上野，井内等に発信す。東京根津一の電報並に熊本留守宅，漢口永瀧久吉，軍令部，村山，学生川畑九，重松等の信至る。夜田岡，真藤，吉島等と月に江干に歩す。

六月十一日　雨。日曜日。天津古閑次郎，独逸伯林上田仙太郎，東京開運館の信至る。午後井手と訪ふ。杭州領事大河平隆則，井手等と豊陽館に会す。十時帰る。

六月十二日　晴。東京根津，漢口永瀧，熊本留守宅，勝木，古閑，山内等に発信す。

六月十三日　晴。東京同文会に学生乗船の時割引の事を郵便会社に交渉し，別に私設鉄道会社に学生乗車賃割引の交渉を依頼す。根津に国原大倉組に入るに運動を依嘱す。利根川，大野弘，阿部野，松永，岸等の信至る。

六月十四日　晴。夜森，安河内，高橋と江干に散歩す。土屋，狩野，鳥居，岡本等に発信す。

六月十五日　晴。戦地上田賢象の信至る。松田源太郎自殺の事を報じ来る。営口上野源次，並に榎友次郎，上野哲，工藤常三郎等の信至る。夜領事館の祝勝会に臨む。岸田吟香翁月の七日逝去の訃に接す。

六月十六日　晴。是日より学年試験を行ふ。福岡内田英治宅に香典二円を送る。上田賢象に復書す。京都高見，廣川翁の歌信至る。

六月十七日　晴。岸田吟香の嗣子艾生に香典五円を贈り吟香翁を唁す。午後領事館に小田切を訪ふ，在らず。松岡と小談，滬報館に至り八時帰る。田中啓次郎，前田彪の信至る。営口大野弘，利根川，上野，並に岸亨次，工藤常三郎等に復書す。

六月十八日　晴。日曜日。諸子と城内に至り正午帰る。森，安河内，根岸，並に川嶋皖一，中川，國原諸生来訪。

六月十九日　晴。長沙井原真澄の信至る。午後井手三郎来訪。江原，泉両学生の為に営口與倉，奉天小山，並に瀬川等に添書す。夜高橋，渡邉，安河内来談。

六月二十日　晴。長沙井原，熊本留守宅に発信す。営口軍政署の信至る。

六月二十一日　晴。独逸上田仙太郎，営口軍政署，熊本留守宅に発信す。午後正金銀行に実相寺を訪ひ国庫債券第四回額面五百円の預証を依托し，本券来着の日熊本に郵送を依嘱す。領事館に小田切を訪ふ，在らず。村山に面し，去て井手を訪ひ，五時半経□の招宴に望平街又一邨に赴く。道台沈仲礼，李

平書来会，八時帰る。沈は日清戦役の際予の報告を偸み予を捕ふることに心力を砕きし者なり。天津速水一孔の信至る。

六月二十二日　晴。是日を以て試験結了。漢口永瀧に山田，真藤両人の履歴を送る。長岡子爵に発信す。外に書院英語教師グード女史の為に小浜温泉本田西男に紹介状を与ふ。東京箱崎生，勝木，天津三浦喜傳，海軍軍令部の報告領収証至る。是日土曜会を催す。夜本願寺別院に岸田吟香翁の追弔会を営む。予等の発起する所なり。十時帰る。書院七，八，二ヶ月俸給二百円を受取る。

六月二十三日　晴。生田清範，葉室諶純，佐々友房，平塚澄，永尾又右衛門の信至る。夜若杉，沼，吉田，町野，川本，松村，松岡，矢田部，中川等来訪。大野謙，澤村雅夫に発信す。夜高橋，真藤来訪。

六月二十四日　晴。海軍軍令部に第百五十九号報告を発し，転じて森，高橋，安河内等の帰国を送り，太平を伴て姚文藻を訪ひ三時帰る。井原，葉室，勝木，生田に発信す。

六月二十五日　晴。日曜日。根津一，神津助太郎，白岩龍平に発信す。山内嵓の信至る。山田勝次来訪。夜八時上車，滬報館に至り十時半帰る。阿多廣介来訪。

六月二十六日　陰。海軍軍令部に第百六十号，六十一号報告を発す。四川徳丸に生田の事を照会す。速水一孔に復書す。根津，與倉に発信す。是日ベンボリツヒ号にて帰国せんとす。午前事務を福岡教授に引継ぎ，諸人に別を告げ行李を整頓す。午後一時書院を出で阿多，篠崎，領事館に至り辞別し，井手の処に至る。姚文藻来り送る。夜辻武雄，篠崎，小田切領事，述等来り予の帰国を送る。十二時去る。夜熱甚く寝に就く能はず。ベンボリツヒ号の出港明夕に延期す。

六月二十七日　雨。阿多，熊本諸生，真藤等来り別る。東京根津一の信三封至る。四時半滬報館を出で「ベンボリツヒ」号の上等室に搭ず。曾根俊虎，田邉為三郎，香月梅外，河野久太郎，亀川鉱二郎，井手兄弟，滑川達，島田数雄，松岡副領事，村山正隆，実相寺貞彦，小林郭六，同文書院学友会総代，秦，松岡，村上夫婦，鷹見五郎，澤本，福岡禄太郎，書院学生等来て行を送る。六時半開船。熱甚し。根岸，野澤，大平諸教授，渡邊繁三，真島次郎以下学生五十余人同船たり。

六月二十八日　晴。海上平穏。

六月二十九日　晴。平静。午後四時長崎着。直に車を駆て車站に至り七時三十五分の終列車に投ず。同県の学生町野，上妻，川本等同行たり。頭痛殊に甚く起坐す可からず。

六月三十日　雨。午後一時鳥栖着。三時熊本下りの汽車を待て発す。五時半上熊本着。住江常雄大牟田駅より同車たり。直に車を駆て家に帰る。生田清範，岳父来訪。夜河口来訪。緒方，岡，鳥居，荘村等の信に接す。

七月一日　雨。午後生田清範来訪。生田の為に長沙井原に発信す。外に小林新六に致書。岡幸七郎の信至る。澤野一雄来訪。大野謙二郎来訪。上海同文書院，井手三郎，廣岡理則に発信す。夜河口来訪。

七月二日　晴。午前河口，阿部野，尾越，生田等を歴訪す。午後町野，上妻来訪。夜大江を訪ふ。

七月三日　晴。廣岡の信至る。藤森に発信す。牛島貫吾来訪。阿部野母堂，並に藪廣光来訪。恒屋盛服，勝木恒喜，山田珠一，阿部野利恭，真藤駿士の信至る。真藤，並に漢口永瀧に勝木の履歴書を郵送す。夜生田清範来訪。

七月四日　陰。午前近隣を歴訪し，去て牛島に至り十時帰る。緒方の内君来訪。午後木村丑徳，荘村秀雄来訪。木村は北京以来の旧知にして今度十四師団の弾薬縦列長として出征する者なり。夕刻商業学校山口誠一来訪。重慶領事徳丸，東京桑田透一の信至る。徳丸の信を上海真藤に郵致す。夜津野，上野を訪，在らず。上妻博之来訪。

七月五日　雨。牛島正巳来訪。本日営口より帰来せりと云ふ。葉室侃温に発信す。竹下意誠来訪。午後木村丑徳を新屋敷の宿舎に訪ふ，在らず。京都狩野直喜の信至る。之に復す。米原に致書す。

七月六日　晴。上野寅彦，井口来訪。根津一，恒屋盛服に発信す。夕園田末熊なる者来り，金を乞ふて去る。

七月七日　晴。午後齋藤久熊，町野玄同，毛利篤来訪。夜河口を訪ふ。

七月八日　晴。午前宇土に至り細川子爵を訪ひ，去て法華寺城山の先塋に展し，奥村家を訪ひ午後二時帰る。根津一，高橋正二の信至る。根津，高橋，福岡に発信す。井野春毅，木村万作に発信す。夜尾越辰雄来談，十二時去る。

七月九日　晴。午前池内源七，松本清来訪。午後八木田真次来訪。安達謙造，山根虎之助の信至る。旅順岡幸七郎より煙草八包を送り来る。岡，阿部野，山根に復書す。葉室侃温の信至る。之に復す。永原虎雄来訪。夜田中致知，河口介男来訪，十一時去る。

七月十日　晴。津野一雄，田屋寅重，宝妻寿作来訪。小濵重吉，橘三郎の信至る。夜家族と生田清範を訪ひ，九時月を踏で帰る。佐々干城の信至る。

七月十一日　晴。佐々干城，廣岡理則に復書す。井手三郎，西田，田岡，津田静一，上田賢象，永尾龍造，山田勝治，内田英志，田畑の信至る。午後町野，上妻，田代朋人来訪。田代身上の事に付き根津一に発信す。津田静一氏に復書す。井手三郎に復書す。郭韶鍾来訪。

七月十二日　晴。宇野貞房，川本静夫，町野晋吉来訪。夜山本，田屋来訪。長沙井原真澄の信至る。山本に注文の二十四番径猟銃成り，此夕送り来る。

七月十三日　晴。午前成松生来訪。土屋員安，篠原邦威，大野謙の信至る。大野，葉室侃温に致書す。是日盂蘭盆会たり，祖先を祭る。澤村雅夫，内田某，外一人来訪。夜月を踏で河口を訪ふ。

七月十四日　晴。荘村秀雄来訪。午後松倉親敬来訪。

七月十五日　雷雨。夜大江に至る。十時帰る。清風明月，涼味可掬。田代朋人来訪。天草井野春毅の信至る。

七月十六日　晴。角田政治来訪。葉室侃温の信至る。大野謙，内田友義，柳原又熊に発信す。末永一三より和局私案一冊送来。

七月十七日　大風。白岩龍平の信至る。午後井手友喜，大野謙来訪。夜生田清範来訪。

七月十八日　強風微雨。狩野源太郎来訪。中野初太郎，小貫久の信至る。中野よりは安東県軍政署松崎よりの送金手形百弗を送り来る。因て此の手形を書留にて上海同文書院真藤駿士に転送す。別に中野初太郎，松崎翠に領収書を発す。旅順岡幸七郎，阿部野利恭に発信す。岡本源二に致書す。阿部野利恭の信至る。夜大風雨。河口介男来訪。

七月十九日　晴。宝妻寿作来訪。根津一の電報至る。之に復す。外に根津に端書を発す。戦地高田政二の信至る。午後小柳三郎来訪。夜田代生来談。

七月二十日　雨。午前山本に井手の猟銃代二十円を渡し，去て尾越辰雄を訪ひ第九銀行株券売却の事を托し委任状を渡し，去て肥後銀行に至り預金を為し，宝妻を茶屋に訪ひ，帰途新屋敷に木村中佐を敲き十二時前帰る。松本軌一郎来訪。遼陽齋藤七郎，上海真藤駿士，戦地緒方二三の信並に上田津太郎の信至る。

七月二十一日　雨。佐々布遠来訪。角田政治に発信す。白岩龍平，緒方二三，葉室諶純，亀雄，末永一三に発信す。葉室の信至る。井芹経平来訪。住江常雄来訪。夜齋藤久熊，石原醜男来談。

七月二十二日　雨。清浦奎吾，井手三郎，廣岡理則，狩野直喜諸氏に発信す。阿部野，園田勘吾の信至る。午前山田九郎，松田源太郎母堂来訪。午後角田政治来訪。葉室侃温の信至る。昨日来熊せりと云ふ。夜田代朋人，町野晋吉来訪。

七月二十三日　午前晴，午後雨。午前町野，津村，上妻等を訪ふ。葉室侃温来訪。午後内田某来訪。烏居，宝妻の信至る。生田清範来訪。

七月二十四日　雷雨。東京根津一の信至る。大野謙，藤森茂一来訪。上海福岡禄太郎，太田惟一，正金銀行，國原喜一郎，亀雄の信至る。正金より国庫債券五百円券を郵送し来る。東京根津一の信至る。夜七時熊本師範学校に至り支那談を為す。聴く者男女学生並に職員を合せ五百余人。九時半帰る。

七月二十五日　雨。旅順池田勇の信至る。上海福岡，田岡，真藤，実相寺に発信す。真藤には学生太田惟一より返却の旅費二十円の郵便為替券を転送す。実相寺に債券の領収書並に月割利息の領収書を送る。米原繁蔵，岡本源二の信至る。午後武藤虎太，澤村雅夫来訪。夕刻葉室侃温を坪井に訪ひ，縁談の事に付き交渉す。夜阿部野宅を訪ふ。帰途大雨盆を覆すが如し。車を賃して帰る。角田来訪。

七月二十六日　雨。小柳三郎来訪。午後西山教充，池内源七，田代朋人等前後来訪。廣岡理則，狩野直喜の信至る。大野謙来訪。

七月二十七日　雨。午前池内源七を訪ひ其の戦地に行くを送り，帰途葉室侃温を訪ひ小談。田中致知宅に名刺を留め，転じて山田直熊宅を訪ひ帰る。角田政治，上妻博路来訪。阿部野利恭，池田勇に復書し，長沙井原，角田政治の履歴を送り其の身上の件を依頼す。夜河口介男，外一人来訪。

七月二十八日　雨。町野晋吉，山田勝治の信至る。清浦奎吾，藤本親信の信至る。三浦喜傳，葉室侃温，中村六蔵等前後来訪。夜河口来訪。大阪鳥居に小包を送る。

七月二十九日　晴。箱崎志津摩の信至る。午後香山豊憙，田畑若松来訪。夜生田清範，津野一雄。

七月三十日　晴。日曜日。午前尾越辰雄来訪。曾て依托せし第九銀行株券を売却し来り，金子を交附す。午後上妻博之来訪。是日津野，齋藤久熊，上野，三浦喜傳，大野謙，小柳三郎列を歴訪す。夜河口を訪ふ。

七月三十一日　晴。午前齋藤，佐々干城来訪。佐々氏を留て中食す。古川権九郎，山田勝治に発信す。夜大江を訪ふ。

八月一日　晴。午前佐々干城氏来訪。共に出て三浦喜傳を訪ふ，在らず。帰途錦山神社に小休。葉室侃温を坪井に敵き中食の饗を受けて帰る。生田清範，河口介男来訪。榎友次郎，柳原又熊，真藤駿士の信至る。大野謙に発信す。

八月二日　微雨。田代，松村亀源来訪。岡幸七郎の信至る。浅井寅喜来訪。町野晋吉，山田珠一の信至る。夜田代政賢来訪。内田一雄に発信す。

八月三日　晴。鳥居赫雄，池内源七の信至る。午前出て髪を理す。清浦奎吾氏の書信至る。夜河口を訪ふ。

八月四日　雨。上妻博路，荘村秀雄，田代朋人来訪。白岩龍平，川本静夫，真藤駿士，田岡正樹，内田一雄の信至る。午後大野謙を池田に訪ひ，帰途葉室侃温を訪ひ帰る。

八月五日　晴。町野，齋藤久，川本静夫，清浦奎吾，和田彦次郎，根岸佶，井内中佐，藤本親信，川本静夫，園田勘吾，榎友次郎，西本省三，秋永勝，山田珠一，奥村傳に発信す。夜大江を訪ふ。

八月六日　晴。朝宇野七郎来訪。午後大野謙，廣松義臣来訪。夜葉室を訪ひ八日夜結婚式挙行の事を告ぐ。前田彪，成松の信至る。

八月七日　晴。角田政治，宝相寺，根津一，阿部野利恭，大野，新羅祐三の信至る。夕刻不破昌材，葉室侃温，田代朋人来訪。

八月八日　雨。根津一に復書す。生田清範，岳翁，奥村傳，上野寅彦，上妻博来訪。川本静夫，田代来訪。午後風雨甚猛。夜に入りて暴風と成り其勢極て烈。八時車を賃し風雨を冒し三浦喜傳の結婚式に魚茂に赴く。十一時半帰る。

八月九日　晴。安達謙蔵来訪。生田清範の信至る。井野春毅に発信す。福岡安河内弘に致書す。吉田廉，田中清司，葉室侃温，井芹経平，西山教充来訪。西山，井芹を留め晩餐を共にす。井原の電報至る。

八月十日　晴。午後前田彪，尾越辰雄，三浦喜傳来訪。前田は本日来着せりと云ふ。前田を留て晩食を共にし，夜狩野直喜を竹部に訪ふ。其親族に不幸有り未だ家に帰らずと云ふ。東京池邊源太郎去七日脳溢血にて死去せるを聞く，可痛也。上海井手三郎，東京根岸佶，並に熊本派遣同文書院学生一同の田代学生に関する陳情書到る。

八月十一日　晴。九鉄八代博多間の廻遊券を購ひ，梅鶴を伴ひ熊本より上車，二日市に至り馬車鉄道より太宰府に至り，泉屋に投じて中食し歩して菅相の祠に謁す。一千年祭の時の新築に係はり結構荘厳を極む。庭内甚だ広く大小の亭榭，梅林の間に点綴す。十三年前の見る所と頗る其の観向を殊にす。四時二日市に帰り車を賃して武蔵野温泉筑紫館に投ず。浴後晩餐を命じ郊外に散策す。明月一痕天拝山頭に懸り，涼味如秋。夜半隣楼絃歌喧雑，眠を成さず。

八月十二日　雨。前十時筑紫館を辞し二日市車站に至り，博多行の汽車に上る。暴雨如注。十一時半博多着。中島町松島屋旅館に投ず。安河内に東す，在らず。午後車を賃して西公園に遊ぶ。玄海を俯瞰し博多湾を控へ風光佳絶。夜安河内，亀淵両子来訪。

八月十三日　雨。終日旅館に在り。上海真藤駿士に致書す。

八月十四日　陰。午前九時松島屋を出で博多駅に至り上車，吉塚駅に下車し腕車を賃し松林の間を縫ひ箱崎に至り，八幡の祠に謁し境内を徜徉し，帰途大学病院前を過ぎ亀山天皇の銅像を拝し，去て日蓮上人の銅像を見る。円鷗法衣右手珠数を掛け，左手立正安国論の一軸を握り厳然として玄海を睥睨す。状貌魁偉覚へず人をして襟を正さしむ。傍に元寇館有り，元寇当時の紀念品を貯蔵す。閉館後なるを以て観る能はず。十一時吉塚駅より上車，鳥栖に至り八代行の汽車に換坐し，十二時久留米に至り下車し，旗亭に投じて中食し車を呼で篠山神社，水天宮，梅林寺を巡覧し，四時の汽車にて熊本に帰る。七時半家に抵る。留守中小笠原，上野，齋藤，吉田豊喜等来訪せりと云ふ。夜石原醜男，冨永某来訪。狩野直喜，古川，徳田，井野，勝木，葉室，三島真吾等の書信並に池邉源太郎の訃音に接す。九時上野を訪ひ津野への見舞金二口分を渡す。

八月十五日　陰。正午宇土に至り法華寺城山の先塋に展す。奥村氏に至り晩食の饗を受け七時半の汽車にて帰る。西田龍太，森崎，牛島正巳等の信至る。

八月十六日　暴雨。土屋の信至る。根津一，牛島正巳，西田龍太，土屋，池邉景弘等に復書す。午後葉室侃温を訪ふ。夜前田彪を研屋支店に訪ふ。東京根津の電報至る。余の上京期を問ふ。

八月十七日　微雨。狩野直喜に弔詞を送り，根津に復電，二十五日着京の予定を報ず。正午家族と上熊本駅より汽車に乗じ，小川駅に下車し不破昌材を訪ふ。過刻余を訪はんが為め熊本に赴けりと云ふ。不破夫人同伴江頭村に本田弘篤を訪ふ，小談。不破宅に帰り小食し，五時の汽車にて八代に至り本町帯屋に投宿す。夜市中を巡覧す。

八月十八日　晴。松倉親敬来談。十時半車を賃して麓の開運楼に至り，鮎の料理を命じ中食す。味美にして価賤。一時半車を駆りて帯屋に帰り，二時四十分の汽車にて八代駅を発し，宇土にて三角行の列車に換坐し，五時十五分三角に達し薩摩屋に投ず。途中網田に下車し赤瀬に向はんとせしも，俥無きを以て已み，三角より更に金桁に赴かんとして又た俥を得ず。已むを得ず際崎に宿す。晩食後三角街道に散歩す。夜欠月一痕，戸馳山上に出で，清光海面に映じ，金波漾々，苓州の群島隠約の間に点在し，風趣画より妙なり。

八月十九日　晴。朝歩して三角に赴き，小舟を僦ふて海湾を繰り際崎に帰る。十二時二十分の汽車にて帰途に就き，三時半家に至る。海軍々令部よりの八，九，十，三ヶ月分手当並に安河内，荘村，野満，亀雄，町野，米原等の信至る。

八月二十日　雨。午前十時前田喜熊の納骨式に久品寺に列す。夜河口来訪。

八月二十一日　雨。吉田豊喜，土屋の信至る。夜生田清範の招邀に赴く。前田彪同座たり。九時半帰る。夜半下痢。晡時不破昌材来訪。

八月二十二日　雨。齋藤久熊，大野某，前田夫婦来訪。井手，宝妻の信至る。夜大江を訪ふ。

八月二十三日　雨。菅隼人，上妻博路，澤村雅夫，生田清範，平井清十郎，吉田善門列来訪。肥後銀行に至り金百二十円を受取り帰る。西本省三，高橋正二の信至る。上妻の上海行に托し，井手に致書し並に長沙井原に角田政治の著書四冊を送る。夜中村六蔵，井場熊喜，河添某来訪。

八月二十四日　雨。是日上京の途に上らんとす。朝来行李を戒む。福岡安河内に電報す。野満，吉田両生に復書す。葉室侃温来訪。緒方二三，本田選の信至る。安達，田中清司，米原に発信す。午後二時半家を辞し，上熊本駅に至り二時六分の汽車に上る。鳥栖に至り門司行に換坐す。博多に至れば安河内弘来見，余を送りて箱崎に至り相別る。九時門司に達し直に馬関に渡り九時五十分の東行列車に乗ず。擁擠殊に甚しく幾んど眠を成さず。

八月二十五日　雨。午後五時二十分神戸着，六時十五分の急行車に乗ず。松崎翠来り乗ず。安東県より帰来せし者なり。

八月二十六日　雨。午前九時半新橋着。佐々木老人来迎。同行の松崎に分れ車を駆て連雀町の旅館に投ず。尾越辰雄，山移定政等在焉。中食後同文会に至り根津一，森茂，柏原，恒屋等に面す。根津は明後日を以て上海に赴くと云ふ。内田友義，岡本，津田静一，留守宅に発信す。夜山移定政来訪。安河内に発信す。

八月二十七日　積陰，夜雷雨。午前澤村晴夫来訪。午後津田静一，岡本源次，山田九郎，尾越，山移等来訪。岡本を留て晩食す。内田友義の信至る。内田，古城に発信す。

八月二十八日　陰。午前五時上車新橋に至り，同文書院第五期生百二名の上海行を送る。根津一，森茂等之を率て行く。恒屋と同文会に至り小談，去て渋谷村に内田友義の病を問ひ同文会に帰る。二時帰寓。神津助太郎，石田栄，外一名来訪。古城貞吉の信至る。太平賢作，高木来喜来訪。高木は澤村大宇の添書を携へ来る。長岡子爵，熊本留守宅に発信す。松崎，白岩龍平の信至る。白岩より「湖南」一部を贈り来る。領収書を発す。

八月二十九日　陰。午前同文会に至る。渡辺繁蔵来訪。正午帰寓。澤村晴夫来訪。四時長岡子爵の招邀に赴く。津田静一，尾越辰雄等同座たり。九時辞帰。山移定政，台湾に向て去る。尾越辰雄来訪，深更に及で去る。勝木，箱崎，荘村，久保，内田の信至る。中西正義来訪。

八月三十日　晴。朝池邉義象来訪。八時同文会に赴く。緒方二三，岡幸七郎，勝，箱崎等に発信す。同文会より帰途中西正義を訪ふ。留守中権藤辰二来訪。根岸佶来訪。高木来喜の信至る。四時有斐倶楽部の会に赴く。会する者細川護立男，長野一誠翁，古城貞吉，池邉吉太郎，三浦喜傳，岡本源次，守田愿，中西正義，尾越辰雄，及び余の十人なり。快談十時に及で席散ず。留守中渡辺繁蔵，神津助太郎来訪せりと云ふ。

八月三十一日　晴，残熱殊に甚し。午前参謀本部に至り木下宇三郎を訪ひ，去て木野村政徳を訪ふ，在らず。海軍々令部に井内中佐を訪ふ。戦地に出征せりと聞き田中中佐に面し，去て同文会に至り午後二時帰る。勝木，桑野締三来訪。四時長岡子爵邸に至り護全公の一週年祭に参拝し，五時紅葉館に水野幸吉を招待す。其の近日任に漢口に赴くを以てなり。長岡子爵，恒屋，小川平吉，及予なり。芸妓満座喧擾殊に甚し。九時半長岡子と共に帰る。長野一誠，村上一郎両氏来訪。日露媾和成立の電報至る。我の得る所樺太島の南半部に過ぎず，挙国皆憤慨す。栗村顕三郎来訪。相見ざる十余年，泰東同文局天津の主任として近日中出発すと云ふ。

九月一日　半晴。午後麹町細川侯邸を訪ひ太夫人並に護立公子に面し，談話時を移て帰る。留守宅，内田友義に発信す。小野健来訪。

九月二日　晴。清藤幸七郎，辻宏吉来訪。午前同文会に至る。神津助太郎来訪。白岩龍平，鳥居赫雄，井原真澄，狩野源太郎，松崎翠に発信す。夜高木来喜，安達謙蔵来訪。内田友義の信至る。熊本留守宅に発信す。

九月三日　陰。日曜。中西正義来訪。本日帰県すと云ふ。其寓に至て別を叙す。成松，竹下両生来訪。留守宅，井手，鍋島，西田龍太，河添李喜の信至る。狩野直喜に発信す。片山次雄来訪。田中清司の厳君病死の報に接し田中に弔詞を送る。

九月四日　晴。風塵蔽天。同文会に至る。箱崎来訪。午後二時帰る。三浦喜傳夫婦，池邉義象，八重野

範三郎来訪。

九月五日　健晴。朝熊谷直幹，津田静一氏の添書を携へ来訪。松崎迪の長男某亦来訪。晌午同文会に至る。渡辺，秋山運次郎来訪。十二時帰る。是日日比谷公園に媾和問題に関する国民大会を催さんとす。警視庁は公園の諸門を塞ぎ交通を絶ち警官多数を派して之を警戒せしむ。午後一時遂に群集の為に諸門を打破せられ，非常の混雑を生じ多数の負傷者を出したり。午後七時清浦氏を城山町に訪ふ。八時半辞出。市民街衢に充満し声勢洶湧，殺気冲天の勢有り。少焉にして土橋の交番所に火し虎ノ門の派出所を焼き内務大臣構内の家屋に放火し殺傷頗る多く，竟に近衛兵を出して警戒するに至れり。父老の談によれば上野戦争以来の騒動なりと云ふ。十時帰る。留守宅の信並に井手三郎，島田数雄，岡幸七郎，狩野直喜の信至る。池邉義象来り別を告ぐ。明朝一番にて京都に帰ると云ふ。十二時比附近の今川橋交番所に放火し神田区に侵入の報有り。出で之を観れば，人声如湧，万世橋，今川橋，神田橋，淡路町等の交番所に火し，其勢甚熾。下谷，赤坂，其他四望皆焔煙天に漲り喚声地に震ひ，惨憺たる光景名状すべからず。此夕幸にして風無く延焼の災を免るるを得たるは望外の事に属す。若し然らずんば全都を化して焦土と為すの不幸を見るに至らんなり。随処火起るも一人の消防に従事する者無く，一警官一憲兵の之が鎮撫に任ずる者無く，一時全く無政府の姿と為れり。翌午前三時比に至り騒擾稍や鎮静するを以て寝に就く。

九月六日　晴。八時長岡子爵を訪ふ。午前松崎翠来訪。午後同文会に至り，去て麻布警察署に拘禁中の恒屋盛服を訪ふ。面会を許さず。名刺を留て帰る。帰途日本橋西川岸福屋に至り三浦喜傳を訪ひ，三時帰る。海軍軍令部よりの八，九，十，三ヶ月分手当金を上海より転送し来る。生田清範の信至る。留守中沢村晴夫来訪せりと云ふ。夜前田彪来着。是夜市街又騒擾し各地の交番所に火し電車を焼棄せりと云ふ。

九月七日　雨。堤敬太郎，村上一郎，前田，尾越，長野一誠，柏田哲男来訪。上海根岸佶，熊本留守宅に発信す。晩尾越と高島義恭の招邀に四谷に赴き九時半帰る。内田友義，生田清範の信並に電報至る。曾田，五十嵐等来訪せりと云ふ。

九月八日　微雨。齋藤久熊，留守宅，末永一三に発信す。曾田常夫来訪。九時陸軍省に至り林太郎を訪ふ，在らず。参謀本部に木下宇三郎を訪ひ小談，去て同文会に至り，午後一時安達を飯田館に訪ひ帰る。生田清範に電報を発し別に一書を郵寄す。四時長岡子爵を訪ひ五時帰る。夜中村佐八，五十嵐富三郎来訪。澤村晴亦来談。岳翁並に狩野源太郎の信至る。

九月九日　晴。緒方二三の信至る。九時前田と同文会に至り，帰途秋山運，曾根俊虎，宮島大八を訪ふ，在らず。名刺を留て帰る。軍令部に手当金領収証を送り，内田友義に発信す。柏田盛文来訪。夜十時出て新橋に至り佐々友房氏を迎ふ。根津一に発信す。

九月十日　晴。留守宅，岡幸七郎，生田清範，鳥居赫雄，三浦喜傳，澤村幸夫の信至る。鳥居に復書し，上海井手に正金銀行の為替券を郵送し熊本に送金を依嘱す。午後東明館に至り日需品数点を購ふ。和田純来訪。三時池邉吉太郎来訪。

九月十一日　晴。午前同文会に至り午後三時帰る。秋山，石田等来訪。田代朋人，鳥居赫雄，田中清司，生田清範の信至る。田代，鳥居，留守宅に発信す。

九月十二日　晴。朝長岡子爵を訪ふ。十時同文会に至る。王鴻年，吉川季次郎，阿多廣介来訪。和田純に発信す。午後三時帰寓。狩野直喜，同源太郎，古城貞吉の信至る。津田静一，狩野直喜両氏に致書す。夜長野一誠翁を濃州館に訪ふ。

九月十三日　晴。鳥居，松崎の信至る。朝佐々友房氏を訪ふ，小談，転じて同文会に至る。正午帰る。黒瀬某来訪。二時出て守田愿宅を訪ひ，去て古城貞吉の招邀に赴く。岡本源次，勝木来会。八時帰る。是夜陰暦八月望に属し月明昼の如し。新橋に至り前田彪の福州に帰るを送る。

九月十四日　晴。朝白石卯一，吉川季次郎並に齋藤精輔，鈴木敬親の両人長岡子爵の紹介状を携へ来訪。

十時同文会に至る。根津一の信至る。午後二時帰る。和田来訪。四時半上車。小石川に至り古城を訪ひ小談。六時津軽行雅君の招邀に赴く。岡本，尾越来会。行雅君夫婦侞儷極密，両人にて頗る歓待せらる。十時辞帰。津田静一，内田友義の信至る。

九月十五日　晴，残炎頗烈。高島義恭，白石卯一来訪。午後同文会に至る。五時長岡子爵の観月宴に赴く。来会者支那人九人並に柏原，和田，及び余なり。九時帰る。角田，白石の信至る。

九月十六日　晴天。土曜。小野健，生田清範に発信す。中畑栄，山田珠，齋藤國男に致書す。留守宅，齋藤國男，阿部野利恭の信至る。午後三時上車。高田細川侯邸に至り，津田静一氏を訪ひ，談話時を移し，去て岡本源次，津軽行雅両君に抵り六時帰る。夜吉川季次郎，佐藤忠彦，高木来喜，小川宇太郎，小野健来訪。是日小詩一首を得。

　勢去万牛挽不廻，班師命下三軍裏，耐悲百戦百勝後，侵地纔収半裁来。

九月十七日　日曜。午前山口誠一，勝木恒喜来訪。松崎翠，荘村秀雄の信至る。午後末永一三来訪。五時佐々氏の招邀に赴く。同座細川興生，長野一誠の両氏，及び余の三人なり。八時辞帰。

九月十八日　雨。同文会に至る。根津一に発信す。午後二時渡辺繁蔵と共に帰る。長野一誠氏を濃州館に訪ひ其帰県を送る。是日尾越辰雄亦た熊本に帰る。

九月十九日　雨。終日在寓。岡幸七郎の信至る。澤村晴夫来訪。西田龍太に復書す。箱崎生満洲行に関し予の意見を敲き来る。

九月二十日　雨。午前同文会に至り四時帰る。根岸佶，真島次郎，安河内弘，松本清司，池邊吉太郎の信至る。之に復す。

九月二十一日　晴。是日彼岸に属す。緒方二三，池田市郎，齋藤久熊，市原源五郎，留守宅の信至る。午前末永一三を麹町に訪ふ。内田甲来会。十時半同文会に至る。和田彦二郎，市原源，緒方二三，荘村秀に復書す。橘三郎来訪，本日来着せりと云ふ。之を留て晩食す。白石卯，古城貞吉来訪。古城十時に及で去る。大野謙の信至る。小野たか子新屋敷家屋の事に付き来訪す。

九月二十二日　晴。午前同文会に至る。吉川季次郎，渡辺繁蔵来訪。渡辺の上海行に托し安河内，真島に復書す。生田清範，留守宅，葉室諶純，亀雄の信至る。橘来訪。煙草一箱を贈る。

九月二十三日　健晴。熊本阿部野の信至る。留守宅に発信す。午前中渋谷に至り内田友義を訪ひ，午後一時帰る。三時有斐黌に岡本を訪ひ晩食し，夜有斐倶楽部に佐々克堂の漫遊談有り。十一時帰る。十一時半阿部野来着。

九月二十四日　晴。日曜。阿部野と談ず。勝木恒喜，守田愿来訪，両人を留て中食す。午後黒瀬，成松，竹下，小谷三生来訪。堤敬太郎に発信す。井手三郎，白岩龍平，野満四郎，上多津太郎の信至る。井手に復書す。山田珠一の信至る。

九月二十五日　暗。午前阿部野と末永一三を訪ひ，去て同文会に至り小談。富士見町に佐々氏を誘ひ肥田景之の招邀に京橋の藤村家に赴き，中食の饗を受け三時辞帰。真藤駿士上海よりの信至る。夜後藤甚作来訪。

九月二十六日　健晴。朝橘三郎来訪。九時長岡子爵を華族会館に訪ひ，去て同文会に至る。長岡子爵来会せらる。吉川季二郎来訪。事務員安宅良好上海より帰来す。守田愿満洲北清地方に赴くに付き，草場，瀬川，瀬上，飯塚，高垣等に添書を与ふ。三時青柳篤恒来訪。夜読売新聞社員樋口新六，雑誌成功に登載せし為め余の支那談を乞ふ。澤村晴夫，久保信一前後来訪。

九月二十七日　半晴。山口誠一の信至る。午前同文会に至る。曾根俊虎，箱崎志津摩，吉川季二郎来訪，午後三時半帰る。井原真澄，町野晋，井手三郎，船越誠一の信至る。井原に復書し，生田に一書を致す。

九月二十八日　雨。上海川本，町野，野満三人に復書す。井手三郎，山口誠一に返信を発す。根津一，中川芳三郎の信至る。午後内田友義，後藤甚作来訪。内田を留て晩食す。根津に発信す。

九月二十九日　陰。生田，小野，留守宅の信至る。小包にて冬衣を送り来る。留守宅，小野に復書す。小野には新屋敷家屋代千八百を以て答ふ。守田愿来訪。

九月三十日　晴。福岡高橋謙，荘村秀の信至る。午前齋藤國男来訪。戦地より帰来せる者なり。晌午同文会に至り幹事会を開く。三時半帰る。箱崎来訪。本夕より出発，満洲に赴くと云ふ。夜秋山運次，法学士辻宏吉来訪。齋藤國男と談じ深更就寝。夜小野町にて女持金時計並に鎖を購ふ。内子に贈らんが為なり。

十月一日　雨。是朝守田愿の満洲行を送らんとす。五時起床せしも雨を以て已む。熊谷直幹，平野某，齋藤國男来訪。熊谷，齋藤と中食を共にす。正午齋藤横須賀に向て去る。橘三郎の信至る。昨夜急用にて大阪を経て渡清せりと云ふ。夜古城貞吉来訪。

十月二日　晴。午前岡本源次来訪。正午阿部野熊本に帰る。午後佐々克堂の病を問ふ。四時帰る。和田純来訪。土屋員安に発信す。小野健，土屋の信至る。

十月三日　健晴。午前海軍省より同文会に至る。茂木一郎，吉川季二，権藤震二来訪，午後三時帰る。夜澤村晴夫来訪。

十月四日　晴，秋気可人。朝長岡子爵を訪ふ，在らず。電車にて麹町に至り細川大夫人に面し叙別。蓑田，新美等と談じ，同文会に至る。長岡子爵来会せらる。午後二時小石川に至り津軽行雅君並に夫人に面し別を叙し，古城，岡本を訪ひ四時帰る。深尾幸，内田友義の信至る。和田純，澤村晴来訪。

十月五日　晴。朝清藤幸七来訪。九時同文会に至る。長岡子爵来会。根津一，真藤駿士に発信す。午後雨至る。三時上車帰寓。内田友義来訪，留て晩食す。夜勝木恒喜，野間善左，青木篤恒，松岡寿八，池邊吉の紹介にて来訪。晩津軽行雅君夫人同伴にて来訪せらる。生田清範，渡辺繁蔵の信至る。小野に復書す。

十月六日　雨。佐々克堂氏と約有り，事を以て会する能はず。午前佐藤忠彦，王鴻皐，程恩普，孫蔭渓，柏原文太郎来訪。談話時を移して去る。程は長江水師提督程従周の子なり。長岡子爵，津田静一，池邊吉太郎，根津一，狩野直喜，鳥居赫雄，高木来喜，留守宅に発信す。山田九郎，内田友義来訪。内田を留て晩食す。山田は昨日樺太より帰来せりと云ふ。上妻博路，町野晋吉，箱崎志津摩の信至る。

十月七日　晴。八田三郎に発信す。午前小川町に至り中折帽を購ふ。和田純，成田與作，安達謙蔵来別。午後牛澤来別る。辻宏吉の信至る。五時京橋三十間堀大村屋に和田農商務次官の招宴に赴く。佐々克堂氏来会。八時帰る。清水来り別る。和田純より梨三籠を贈り来る。

十月八日　晴。日曜。午前古川季二郎来訪。後藤甚作に発信す。守田愿の信至る。秋山運次郎来訪。是日午後六時の汽車にて熊本に帰らんとす。五時車を駆て新橋に至り六時の急行車に乗ず。吉川，勝木来送。

十月九日　晴。午前九時二十分神戸着，十時の馬関行に乗ず。座客擁擠の為め上等室に換坐す。

十月十日　晴。午前五時半馬関着，六時門司に渡り六時半の汽車に乗じ，午後一時上熊本着，車を駆て家に帰る。葉室侃温，西本省三，亀雄等の信に接す。

十月十一日　晴。荘村，阿部野，河添，山田珠，山口誠一，岳翁，河口来訪。鉄嶺緒方二三の信並に大阪鳥居の信至る。山口誠一，狩野源太郎，齋藤久熊，津野一雄，上野寅彦等を訪ふ。

十月十二日　晴。柏原文に発信す。狩野源，荘村秀雄，阿部野利恭，牛島貫吾来訪。午前阿部野と沙取に至り，浜屋にて平山岩，岡辰喜等と中食を共にし，小舟を賃して画湖に浮び細鱗を釣る。佐々干城，山田珠一等亦来会。七時月を踏で帰る。根津一，小野健，野満四郎，高田政二等の信至る。

十月十三日　健晴。根津より送り来れる湖北聘用教師に関する書類を東京同文会恒屋に転寄す。外に勝木，野満並に漢口中畑に致書す。午前佐々干城氏来訪，留て中食す。平山岩彦来訪。午後三時共に出て阿部野を訪ふ，在らず。去て尾越辰雄を訪ひ小談。帰途山田珠一，河口介男，中村六蔵を訪ひ帰る。夜澤村晴夫，齋藤久熊，小笠原昂，河添等来訪。

十月十四日　健晴。午前田代生来訪。午後中村六蔵氏来談。夜大江を訪ふ。佐々木利助の信至る。
十月十五日　雨。午前千田一十郎，阿部野，河口，野満四郎等来訪。東京集英社に国民宝典を注文す。
十月十六日　晴。平岩彦，野満四郎来訪。不破昌材，長野一誠氏に発信す。戦地西本省三に発信す。夜中村六蔵氏を招き晩食す。勝木恒喜の信至る。
十月十七日　雨。佐々綏之，其父干城の詩信を携へ来り訪ひ，画湖の鮮一籠を贈る。其韻に和して之に答ふ。夜角田政治，中村六蔵来訪。中村氏催眠術を試験し十時に及で去る。
十月十八日　晴。鉄嶺緒方二三の信至る。龍首山の秋草を封送し来る。勝木の信至る。午後阿部野を訪ふ，在らず。帰途牛島貫吾，武藤虎太を訪ひ帰る。不破昌材，阿部野，上田茂二，澤村晴夫等来訪せりと云ふ。佐々友房氏の信至る。夜河口を訪ふ。微雨。
十月十九日　半晴。野満四郎来訪。午後家族と子飼渡より渡鹿の郊外に散策し，帰途大江を訪ひ五時帰る。夜河口を訪ふ。阿部野来り辞行，明日より旅順に赴くと云ふ。大連前原巌太郎に添書す。
十月二十日　微雨。長野一誠，井手三郎の信至る。根津一，根岸，渡辺，高橋，井手友喜に発信す。昨日佐々友房，井野春毅に発信す。緒方二三に発信す。夜大江の招邀に赴く。
十月二十一日　晴。土屋員安，阿部野利恭の信至る。阿部野は昨朝の汽車に乗り後れたりと云ふ。晌午牛島正巳来訪，本日樺太より帰来せる者也。午後阿部野を訪ひ，去て本荘に緒方二三の留守宅並に小笠原昂を訪ひ帰る。
十月二十二日　晴。午前四時起床，六時家族及び河口の家族と池田より上車，植木に下車し木留村上田正喜宅に小休し，山に入りて茸狩りを為す。午時上田宅に帰り中食し，三時同家を辞し植木に至り四時十九分の汽車にて帰る。今朝上熊本駅にて吉田順蔵に邂逅す。米原繁蔵の信至る。樗木政章，澤村晴夫，荘村秀雄，町野等来訪せりと云ふ。夜澤村来訪。
十月二十三日　晴。松山嘉一郎来訪。町野某来談。午後四時澤村雅夫の招邀に赴く。八時半帰る。
十月二十四日　晴。清浦奎吾氏に発信す。吉田順蔵に致書，清浦氏への紹介状を郵寄す。井野春毅の信至る。晌午荘村来訪，共に出て肥後銀行に至り保険金を払ひ，谷尾崎村に藤森茂一郎を訪ふ，在らず。帰途照幡烈之助氏の墓を弔して帰る。佐々友房，甘粛蘭州波多野養作の信至る。師範学校生徒二名来り余の談話を請ふ。
十月二十五日　晴。岳父，宇野貞度来談。夜井手友喜，町野夫人来訪。
十月二十六日　陰。中村六蔵，藤森茂一郎，園田郭六等来訪。吉田順蔵の信至る。佐々干城来訪。夜河口来談。
十月二十七日　晴。岡幸七郎，牛島吉郎，川本静夫，若杉要に発信す。天津三浦喜傳に致書す。佐々友房氏に発信す。午前澤村晴夫来訪。共に出て竜岡山麓に徜徉し晌午帰る。岡幸七郎の信至る。午後小笠原昂，齋藤久熊，大野謙二郎等来訪。夜河口を訪ふ。
十月二十八日　晴。午前物産館に至り物品を購ふ。米原，鳥居に発信す。角田政次来訪。夜河口と出て猟銃附属品を購入す。他出中永原虎雄，津野一雄，不破昌材等来訪せりと云ふ。
十月二十九日　晴。朝上野，津野を訪ふ。午前樗木政章来訪。清国に於ける十七八年前の知人なり。現に熊本聯隊区司令官たり。上村喜平来訪。上田賢象の信至る。午後永原虎雄来訪。夜河口を訪ふ。
十月三十日　雨。午前鎮西館に至り平山岩彦を訪ふ。午後三時清子を伴ひ鎮西館に至り筑前琵琶を聴く。西郷南洲，小勾，川中島，筑後川の四曲を奏す。五時帰る。夜河口家族来訪。
十月三十一日　健晴。荘村秀雄，長野一誠翁来訪。午後子飼渡附近に至り新製二十四番銃の試射を為す。三時物産館に至り物品を購ふ。夜池田源七，河口介男来訪。物産館の帰途中村六蔵氏を訪ふ。
十一月一日　晴。根津一，森茂，勝木恒，松崎翠，鳥居赫雄の信至る。森茂に復書す。根津一，鳥居に復書す。午後佐々干城，井芹経平来訪。夜大江を訪ふ。
十一月二日　雨。町野晋吉，野満四郎，本島正札等の信至る。本島，野満に復書す。山口誠一来訪。商

業学校教師の件に付き東京十時彌に発信す。午後井手友喜来訪。晡時古城貞吉来訪，一昨日帰熊せりと云ふ。

十一月三日　陰。朝古城貞吉を京町に訪ひ晌午帰る。河口介男来訪。明日より九州日々新聞社用にて神戸に出張すと云ふ。中村六蔵，澤村雅夫，同晴夫，不破昌材を招き会食す。十時散ず。

十一月四日　晴。九時商業学校に至り支那事情を講話す。十一時帰る。本島正礼来訪，鮎を贈る。之を留て中食す。済々黌教授徳満早苗，井芹経平の添書を携へ来り訪ふ。

十一月五日　晴，昨来冷気頓に加ふ。午前九時上車，春日に至り松倉親敬を訪ひ，去て停車場に至り井手友喜の上海行を送り，帰途住江常雄を訪ひ十一時半帰る。生田清範在り，留て中食を共にす。鳥居赫雄，亀雄，阿部野，奥村銑吉の信至る。狩野源太郎，右田良男の母堂，宇野貞義，柴田常三郎等来訪。共に出て竜田口に散歩す。

十一月六日　晴。野満四郎，田代朋人，白石卯一，徳満早苗等来訪。長野一誠氏を黒鍬町に訪ふ。晩食前家族と竜岡山下に散策す。夜田中清司来訪。

十一月七日　晴。澤村晴夫，佐々干城来訪。本島正礼，川本静夫，井手友喜等の信至る。夜澤村晴夫，澤村雅夫，武藤虎太来訪。

十一月八日　晴。午前四時前起床，猟装を治し澤村雅夫を誘ひ東門寺，勘九郎谷，ぜぜが谷，楠谷に猟し六時帰る。小鳥二十羽を獲，大江の招邀に赴く。九時帰る。岡幸七郎，米原繁蔵の信至る。不破，町野等来訪せりと云ふ。

十一月九日　晴。午前澤村，千田を訪ひ帰る。東京十時彌の電報至る。午後山口誠一来訪。夜大江の岳父母両位を請待す。

十一月十日　晴。阿部野利恭の信至る。午前県庁に至り香山豊憙，濱野視学を訪ひ町野晋吉身上の事を商量し，去て鎮西館に至り岡，犬飼，佐藤等に面し，帰途村上一郎と会談し十一時帰る。生田清範の信至る。

十一月十一日　晴。夜来頭痛。荘村秀雄，佐々布遠来訪。安達，亀雄，中畑，大野，生田，吉川に発信す。上野寅彦，津野一雄，平山岩彦，中村六蔵等前後来訪。夜大江に至り辞行す。

十一月十二日　晴。朝町野，宇野，澤村，大関来訪。十時家族を伴ひ水前寺に遊び，沙取浜屋に投じて中食し，二時出て佐々干城氏を訪ひ，帰途松江氏に小坐，上車家に帰る。留守中池内源七，中村六蔵，永原虎雄，樗木政章，佐々干城，小笠原昂等来訪せりと云ふ。夜上田政喜，中村六蔵，澤村兄弟，内田一雄，田代朋人等来訪。上海田岡政樹の信至る。樗木政章，山田珠一に発信す。留守中佐々木徳母来訪。

十一月十三日　晴。是日家を辞し清国に赴かんとす。岳翁，佐々干城，宇野，上田，田代来別。九時四十分上車，上熊本駅に至り十時半の長崎行列車に乗ず。澤村兄弟，荘村，田代，山口誠一，大野謙，津野一雄，佐々木徳母，町野，久品介善，角間政治，大野夫人来り送る。午後八時長崎に着し土佐屋に投ず。

十一月十四日　陰。留守宅に発信す。京都土屋員安に致書す。九時尾越辰雄来着。午後二時尾越に分れ土佐屋を出で鎮安号に投ず。藤牧某，小山某同船たり。午後四時開船時，夕陽海湾を照し満山の紅葉風趣如画，頗有難別之思口占七絶一首。

　廿年身世感沈浮，萍跡不知何日休，千里雲濤従此去，満山紅葉照離愁。

船漸く五島に近くに随ひ風濡頗険。不用夜食，六時床に上る。

十一月十五日　陰。風波甚険，不用朝食。

十一月十六日　陰。午後二時船入上海。井手兄弟，島田，森崎，根岸，安河内，高橋等来り迎ふ。滬報館に小休，安河内と同文書院に帰る。職員諸氏と会見す。夜福岡監督代理より事務の引継を受く。

十一月十七日　晴。熊本留守宅に発信す。午後長野県人小山久左衛門，外一名来訪。三時日暉橋辺に散策す。夜入浴。根津漢口よりの信並に箱崎，内藤の信至る。

十一月十八日　陰。午後大馬路の慈善会に赴く。欧洲の婦孺盛装にて各種の物品を売る。五時半帰る。支那語教師述功建勲，瑞璵来訪。

十一月十九日　晴。日曜日。是日午後一時より張園に於て軍艦新高の歓迎会有り，中食後之に臨む。午後四時帰る。夜森，渡邊，安河内，高橋等来談。

十一月二十日　晴。軍令部田中耕太郎に発信す。午前上車上海に至り，山内嵓を南京路東亜公司に訪ふ。二十年来の旧交相見ざる七年余，旧雨の情に堪へず。津村岩吉，杉山常次郎に面す。十一時去て領事館に至り，松岡洋右を訪ひ小談。電報館に井手列を訪ひ，中食後領事館に永瀧久吉を訪ひ四時帰院す。日野勉，三浦喜傳の信至る。

十一月二十一日　健晴。勝木恒喜，荘村，本島，佐々友房，香山豊憙に発信す。午後井手三郎来訪。晩安河内の処に森，高橋，渡部等と会食す。永瀧領事より明夕晩餐の案内至る。

十一月二十二日　晴。午後二時上海に至り井手を訪ひ，共に出て姚文藻を敲き，五時永瀧久吉の招宴に赴く。同座は故林維源の長男林爾嘉並に林朝棟の子林季商，外二名なり。九時半散ず。大平来訪。軍令部田中に発信す。

十一月二十三日　晴。午前四時起床。大平，安河内並に同文滬報の宮崎，外一人と龍華地方に猟す。鳩三羽，小鳥三羽を獲，五時帰る。小濱重吉の信至る。

十一月二十四日　晴。午後郊外に散歩す。早川新次来訪。夜職員諸氏と会食す。六時出て井手を訪ひ共に早川を豊陽館に訪ふ。談話時を移し，宮坂九郎に名刺を留め，去て篠崎医院に服部生の病を問ひ，十時帰る。勝木恒喜の信至る。

十一月二十五日　陰。風邪の気味有り。夜書院卒業生倶楽部の招宴に赴く。帰途滬報館に小談，帰る。

十一月二十六日　晴。午前軍艦新高の招宴に赴く。立食の饗有り。終はりて水兵の演劇を観，四時辞して滬報館に帰り晩食し，九時帰院す。

十一月二十七日　晴。小詩一首を得。夜根岸，大平等来談。

　世事年来与我違，夢迷大沢釣魚磯，空江秋老感多少，落葉無心撲客衣。

十一月二十八日　晴。心気不舒。三浦喜傳，井原真澄，狩野直喜，岡幸七郎，武藤虎太に発信す。夜高橋，西野，安河内等来談。

十一月二十九日　晴。森の五律に和する詩を作る。左に録す。

　残骸托何処，草莱安布衣，釣罷臨碧水，猟倦対斜暉，

　天末秋風起，空山一葉飛，箇中真理在，不問世情非。

熊本留守の信二通，葉室，山中新，荘村，鍋島五三郎等の信至る。根岸来談。渡辺の処に森，根岸等と談じ一時就寝。

十一月三十日　晴。生田清範，恒屋盛服，葉室諶純，内田友義，鍋島五三郎に復書す。午後遠山景直来訪。三時高橋と郊外に散歩す。澤村雅夫，勝木，樗木政章，廣松良臣の信至る。山内嵓より絹袱紗一枚を購り来る。夜高橋，安河内，渡辺来談。

十二月一日　晴。長岡子爵に勝木身上の事を依頼し，外に澤村雅夫，勝木に復書し，橘三郎に致書す。留守宅，荘村，藤本親信の信至る。夜上妻，森来る。

十二月二日　晴。朝大東に至り香月を訪ひ，去て郵便局に赴き海軍々令部に第百六十二号報告を郵寄し，熊本留守宅に致書す。領事館に永瀧を訪ひ荘村の事並に商品見本の件を相談し，井手の処に至り中食して帰る。是日第三学年生長江一帯の修学旅行より帰る。根津も学生一同と帰院す。夜根津と談ず。根岸，澤本，外一人来訪。

十二月三日　晴。日曜日。是日香月，井手，村松，大平，安河内等と午前五時出発，龍華附近に猟す。予鳩八羽を獲たり。四時帰る。井手，白岩来訪。晩食後談時を移て去る。修学旅行より帰りし三年生川本，吉田，沼，若杉等来訪。蜜柑を贈る。矢田部生来訪。

十二月四日　微雨。悪寒頭痛，午後就寝。中畑栄の信至る。

十二月五日　晴。海軍々令部に第百六十三号報告を発す。中畑，勝木に発信す。夜川本，若杉，町野，沼，吉田来訪。

十二月六日　微雨。長沙井原より生田清範招聘の事決定せしを報じ来る。岡幸七郎，勝木，寺崎辰男，松崎翠，前田彪の信至る。前田より其亡兄の遺著戦闘日誌を贈り来る。夜篠崎都香佐来訪。

十二月七日　晴。生田清範，前島真，岡幸七郎，樗木政章，佐々友房，高見克，寺崎辰男諸氏に致書す。本島正礼の信至る。夜豊陽館の旧交会に臨む。会する者根津，山内，井手，遠山，実相寺，中野熊，白岩，香月，河野，土井，古荘，秦，高橋，岡田某，及余の十五人なり。九時篠崎医院に那部武二の病を訪ふ。甚危篤たり。

十二月八日　晴。権藤震二，箱崎志津摩，阿部野，澤村晴夫に致書す。別に留守宅に端書を発す。那部武二本朝死去の訃に接す。四時職員会，五時半より院内に於て根津の留別宴有り。八時上車篠崎医院に至り，去て本願寺に那部武二を弔し金五円を香料とす。海軍々令部に百六十四号報告を発送す。生田清範の信至る。

十二月九日　晴。七時半郵船埠頭に至り根津一の帰国を送る。九時開船。井手と本願寺別院に至り那部葬送の事を商量す。午後一時半焼香読経終りて静安寺の火葬場に会葬し，四時半豊陽館に帰り，那部の遺物一切の目録を作り知人七名にて之を調査し，不日其遺族に送致せんとす。六時之を終はり諸子に分れ，滬報館に帰り晩食し九時帰院す。橘三郎の信至る。

十二月十日　日曜日。中食後徐家滙附近に猟し，井手，松野に会し鳩二羽を獲，五時半帰る。森川，高橋，安河内，西野前後来談。

十二月十一日　陰，雨意。午前大阪毎日新聞社長本山彦一，及び森一兵，外一人来訪。十時出て領事館永瀧を訪ひ，去て豊陽館に小山久左衛門を敲き滬報館に至る。菊池謙二郎の来れるを聞き井手と出て之を豊陽館に訪ひ，那部身後の事を商量して帰り，井手の処にて白岩と三人会食す。二時三人馬車を駆て静安寺，万航渡一帯を巡遊し，帰途静安寺の「ホテル」に小休茶を啜り，四時白岩の寓に帰り韻を分て詩を賦す。予七絶五首を得たり。唱和十時に及で辞し帰る。箱崎の信至る。

十二月十二日　晴。勝木の信至る。三時安河内と郊外に散歩す。夜安河内の処に談ず。松本生来訪。漢口中畑に本島の履歴を送る。

十二月十三日　陰。

十二月十四日　雨。留守宅，澤村晴，牛島正，勝木，町野玄同，上多助二，徳満，内田友義，荘村秀の信至る。晩根岸来訪。夜篠崎を訪ひ九時帰る。安河内来訪。

十二月十五日　晴。安河内弘朝鮮に赴くを以て，葉室諶純，佐藤潤象，佐々正之等に添書す。澤村雅夫，太田伊之助に復書す。

十二月十六日　雨。留守宅に発信す。田中清司の母堂逝去の訃に接し弔詞を発送す。午前出て豊陽館に本山彦一を訪ひ，去て井手の処に至り中食後，安河内，本山列の帰国をベンボリツヒ号に送る。風雨横射，衣袂皆沾ふ。午後三時帰る。朝来心気不舒。海軍軍令部より十一，十二，一，三ヶ月の手当金を送り来る。

十二月十七日　半晴。午後遠山景直来訪。漢口澤村幸夫の信至る。

十二月十八日　晴。是日より第一学期試験を挙行す。海軍軍令部に手当金領収証並に書信二通を発す。渡邉申十郎，井原真澄，田島某に致書す。是日上海に於て支那人と欧人との間に葛藤起り迭に死傷有り。其起因は会審衙門に於ける婦人黎黄氏に対する裁判事件にして其曲英人に在り。英仏租界の間支那人の交通遮断を行ふ。夜高橋，森来談。

十二月十九日　半晴。留守宅，葉室，橘三郎，秦，標本，鍋島，高田政二，柳原，勝木の信並に岸田吟香未亡人死去の信至る。

十二月二十日　半晴。留守宅，澤本，秦，橘，安河内，澤村雅夫等に発信す。高見廣川翁，齋藤元昇，山田勝治，真藤駿士，菊池謙二郎，荘村秀雄の信到る。山田列より写真を贈り来る。夜渡辺宅に森，田岡等と談じ十二時帰る。

十二月二十一日　晴。海軍々令部に報告を発す。武昌山田，真藤に復書す。午後上海に至り阿多廣介，山内嵓，篠崎，井手等を訪ひ，滬報館に晩食し九時帰る。寒威始て加ふ。是日騒擾事件の為め南洋大臣周馥来滬。

十二月二十二日　陰。海軍々令部に発信す。職員森川氏の帰国に托し高見廣川氏に詩箋三匣，羊毛大筆一対を贈り，外に返書を出す。夜大平の処に根岸，森川，武藤等と談ず。

十二月二十三日　陰。勝木恒喜に復書す。午後郊外に散歩す。夜土曜会を催す。夜森，渡邉来訪。

十二月二十四日　雨。明日森茂の福州に赴くに托し前田彪に致書し，王孝緝，桑田豊蔵に名刺を送る。

十二月二十五日　雨。是日を以て学期試験を結了す。同文会佐藤忠彦に発信す。山田九郎，野満四郎，澤村雅夫，茂木一郎，岡幸七郎，辻武雄，勝木恒喜の信至る。本日より起り来月七日迄を休業とす。

十二月二十六日　微雨。午後室長総代八人来訪。夜川本，吉田来訪。

十二月二十七日　陰。野満四郎に復書す。午後上海に至り篠崎に前借の五百金を返附し，滬報館に至り晩食し，八時半帰る。夜田岡，根岸来訪。鴨緑江佐野直喜の信至る。

十二月二十八日　情。是日室換を為す。夜川本，隈元，吉田，町野，上妻来訪。留守宅，樗木少佐，澤村雅夫の信至る。那部武二の兄来り訪ふ。

十二月二十九日　微雨。樗木，澤村に復書し，宅，清子，内田友義に信片を致す。学生若杉，沼の蘇州行に托し白須直に致書す。営口牛島吉郎に致書し板東末三の事を依頼す。午後井手を訪ふ。晩杏花楼に会食，八時帰る。

十二月三十日　陰。午後五時より四馬路杏花楼に土曜会を開く。職員皆会す。七時半散ず。高橋と香月を訪ふ，在らず。去て白岩を敵き九時半辞出。河野久太郎に名刺を留め帰る。年始状百枚許を認む。

十二月三十一日　陰。年始状百余通を認む。夜谷田部，西野列来訪。是日三十八年尽日たり。異郷年を送り年を迎ふる茲に二十又二年，壮図一蹶無窮の感に堪へず。小詩一首を得たり。

　風声燈影夜如何，餓尽残年愁緒多，楚樹燕雲真若夢，浩然対酒発長歌。